情報・視聴覚教育研究部
紀要
研究のまとめ　　第３９集

一年のあゆみ

ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ

平成２５年度
横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会

１　年　の　あ　ゆ　み

横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究会
会 長　　林　　弘 之

平成２５年度は、「ＩＣＴを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ」という研究テーマのもと、各月の会員研究・夏の研修会・東汲沢小での公開授業・横須賀と相模原での実践発表などを行いました。そこで、この１年間の様々な活動を「１年のあゆみ」としてまとめましたので、お届け致します。

さて、文部科学省が出している「教育の情報化ビジョン」には、情報化の推進のために、次の３項目があげられています。

〇子どもたちの情報活用能力の育成
〇ＩＣＴを効果的に活用した分かりやすく深める授業の実現
〇校務の情報化の推進

本研究会では、今年度も昨年と同じ２部会体制の「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」で研究を進めました。技術の発達で、多種多様の情報機器が開発されている今日ですので、分かりやすい授業展開の工夫や望ましい学習環境づくりなどを、実践提案をもとに研究してきました。

また、児童が自分の思いを分かりやすく伝えるには、収集した情報をどのように処理し、ＩＣＴ等をどのように活用すると効果が出るのかなど、検討してきました。

今年度は、長年懸案とされていた本研究会の流れも、まとめてみました。元会長の小浜達男様初め多くの諸先輩方のご協力と、現副会長の谷本小学校長・田中公明先生が中心になって、本研究会の沿革誌「発展のあゆみ」ができました。１２月にはそれを祝って、横浜国際ホテルに於いて、教育委員会指導企画課の平久課長・宮野太志係長のご臨席を賜り、諸先輩の方々・現役員・会員など大勢が集まり、６０年記念懇親会を開きました。当日配られた発展のあゆみによると、本研究会は、昭和２９年６月に、「横浜市映画教育研究会」と「横浜市放送研究会」が統合して、「横浜市視聴覚教育研究会」が創設しました。そして、視聴覚機器や情報手段が著しく変化していく中、多くの先輩方に支えられながら、本研究会の研究・研修が受け継がれているのです。社会環境や児童の特性が変容していく現代ですが、これからの社会で心身共に逞しく生きていく児童を育成するために、さらに研究を進めていきたいと思っています。

最後になりますが、平成２５年度本研究会の発展の為に、ご支援・ご協力をいただきました横浜市教育委員会指導企画課の皆様に深く感謝を申し上げます。そして、校務ご多用の中、原稿をまとめていただいた皆様、紀要編集委員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

もくじ

はじめに……1

もくじ……2

Ⅰ　研究概要……3

Ⅱ　会員研究
　１　授業デザイン部会……6
　２　スキルアップ部会……7

Ⅲ　合同会員研修・講演会……8

Ⅳ　横浜市情報・視聴覚研究会２５年度夏季研修会……１０

Ⅴ　神奈川県放送教育・視聴覚教育研究会合同夏季特研修会……２３

Ⅵ　公開授業研究会……３２

Ⅶ　神奈川視聴覚放送教育研究合同大会・相模原大会……４２

Ⅷ　横浜市小学校教育研究大会第二次大会情報・視聴覚教育研究大会……５０

Ⅸ　各区の研究活動……５３

Ⅹ　会報「メディアワールド」……７１

Ⅺ　会員名簿……８２

Ⅻ　あとがき……８７

研　究　概　要

１　研究テーマ

ＩＣＴを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ

２　研究テーマ設定の理由

昨年度も同じテーマで、研究を行った。「授業デザイン」「コミュニケーション力」など新たな考え方のもと、部会編成も変更し、研究を重ねてきた。これらは、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成することと方向を同じくしている。次の成果が見られた。

（成果）

・授業デザインの視点で、授業研究をしていくことができたこと
・コミュニケーション力の視点をもつことができたこと
・協働学習の場面にＩＣＴを活用することで、コミュニケーションを活発にし、思考力・表現力を高める授業をデザインができたこと

授業研究会を通じて、課題として明らかになったことは、コミュニケーションを活発に行っていても、ＩＣＴ機器の操作方法など、授業のねらいとは違う内容の話し合いをしている様子も見られたことである。このことから、ＩＣＴを活用してコミュニケーション力アップを図るための課題として次の二点が挙げられた。

（課題）

・コミュニケーション力を見取る方法
・協働学習における、子どもたちの活動の評価方法

今年度は、研究の方向性はそのままに、さらに研究を焦点化していきたいと考えた。課題として挙げられた「評価」に視点を当てることにより、高次のコミュニケーション力を育成することができると考え、実践・研究を続けていく。

３　研究仮説

子どもたちのコミュニケーション力の実態を正しく見取り、ＩＣＴを活用した授業デザインをすることで、授業のねらいに沿った情報のやりとりが増え、主張レベルのコミュニケーション力を身に付けさせることができるであろう。

４　授業デザインにおけるＩＣＴの活用場面

子どもたちが学んでいく上で、最終的な教師の役割は①課題の提示②学習環境の整備③学習活動の評価の三つに集約されると捉える。この三つの場面に、子どもたちが学習活動をする中でコミュニケーションのプラットフォームとしての活用場面を加えた４場面におけるＩＣＴの活用について考えたい。

①課題の提示

教師が学習の課題を提示するときに、ＩＣＴは大きな役割を果たす。例えば電子黒板等で、鮮明な写真を一枚提示し、そこから課題をつかませる。または、二枚提示し比較させる。学校放送番組を視聴させ、そこから課題を投げかける。などが考えられる。

これまで比較的よく用いられ研究されてきた活用法である。そして、今後もより効果的で意味のある課題の提示の工夫、開発を進めていきたい。

②学習環境の整備

子どもたちが、必要に応じ、必要なときに、必要なＩＣＴ機器を活用できる状態に環境を整備することが、教師の役割である。

そのために、機材の用意、点検をし、電源の管理、記録の統一、記録場所の管理、情報の合理的な伝達などに関して、あらかじめ教師が準備しておく必要があろう。また、これらを維持していくために、子どもたちが、その意味や方法を捉え、ルールにのっとった上で、自由に活用していく姿勢を指導していく必要もあるだろう。デジタルカメラでいえば、バッテリーの充電、記録メディアの確認、記録画像の管理、印刷方法などをあらかじめ準備することである。

このＩＣＴの環境整備に関しては、スキルアップ部会がになう役割は大きなものがある。

③学習活動の評価

授業デザインを行う上で、子どもの実態を把握すること、すなわち、評価をすることを欠かすことはできない。指導と評価を一体化させていく場面で、より積極的にＩＣＴを活用していきたいと考える。

例えば、学習のようすをビデオで記録しておき、必要に応じて後に視聴するのは有効な方法の一つである。体育の実技、図工の制作過程、国語の聞く・話すなどを記録し、視聴することによって、教師の評価はもとより、自己評価や相互評価にも役立てていけるであろう。これらの記録を、デジタルポートフォリオとして積み重ねていければ、子どもたちの学びはさらに豊かなものになると考えられる。

そのためには、評価の指標となる規準を明らかにすることが重要であろう。今後、しっかりと研究を進めていくべき内容と考えられる。

④協働学習の核としてのＩＣＴ

①～③は教師がＩＣＴを活用する場面について述べたが、④は子どもがＩＣＴを活用する場面である。ＩＣＴ活用の意図として「知識・理解の補完・定着」「イメージや意欲の拡充」「学び方の補完」「課題や疑問への発展」(中川一史，2007)の４点がいわれている。中でも「イメージや意欲の拡充」「課題や疑問への発展」といった活用の意図をもって協働学習に組み込んでいくことが、コミュニケーション力を育む手立てになると考えられる。この点については、平成 23，24 年度公開授業研究会において児童の姿として見ることができているが、今後のさらなる実践・分析を重ねていくべき内容である。

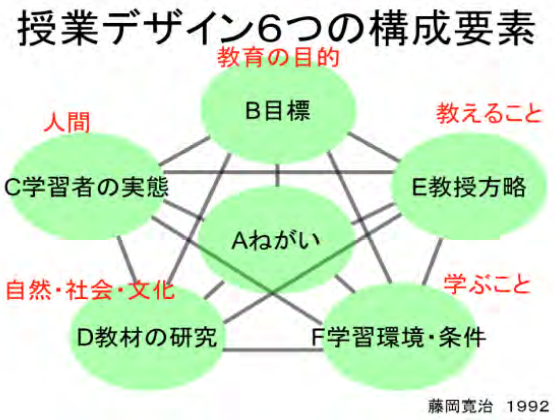
５　提案される先生方へのお願い

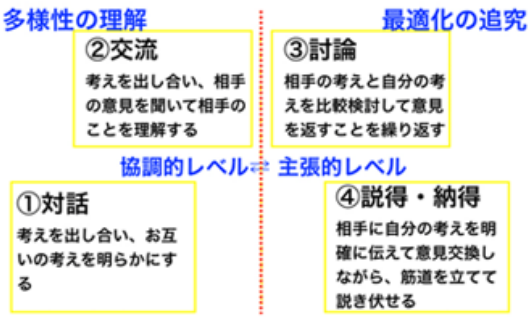
①提案文書テンプレートにしたがって提案

②子どもの姿は授業の事実(成果物、ノート、ワークシート、ビデオ)から語る

失敗した授業というものはなく、なぜそうなったかを検討することを目的として、その授業の事実から学んでいく研究会にしたいと考える。

参考資料





平成２６年２月
横浜市小学校情報・視聴覚教育研究部会
授業デザイン部会

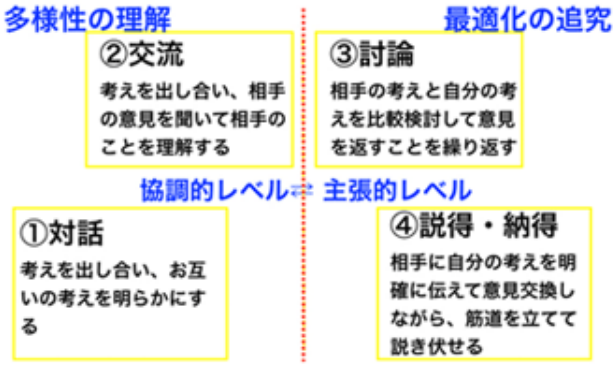
平成２５年度　授業デザイン部会研究報告

１　部会研究主題

教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン
～主張的レベルのコミュニケーションを目指して～

２　研究内容

「授業デザイン」とは教科のねらいを達成するため教室環境、指導計画、授業構成、学習活動の方法など焦点化する総合的なプランニングである。本部会では、教師の授業改善についての研究を進め、部員相互の実践の効果を確認していくものである。昨年度の研究では、子どもたちのどのような姿からコミュニケーション力を見取るのかについて、課題が生まれた。
そこで、本年度は、特に子どもたちの「主張的レベルでのコミュニケーションの姿」について取り上げ、学習場面におけるコミュニケーション力の評価と、その際の教師の視点にも着目して研究を進めた。



21 世紀型コミュニケーション力の４つの型　　中川一史

３　活動報告

４月　部会オリエンテーション

①講演会

５月　「コミュニケーション力の指導と評価」　　放送大学　中川　一史　教授

②会員研究

６月　「コミュニケーション力の見取りについて」～4年理科「水のあたたまり方」～
提案者　平野　大二郎　教諭（庄戸小）

７月　「協働学習を円滑にする授業デザイン」～3 年社会「発見！わたしたちのまち妙蓮寺」～
提案者　近藤　睦　教諭（港北小）

９月　「授業改善ワークショップ」～4年理科「私たちの体と運動」～　提案者　藤原　直樹　教諭（東戸塚小）

１０月　１１月　「指導案検討ワークショップ」

１２月　「公開授業研究会」～4年社会「入り海を新田にした吉田勘兵衛」～
提案者　吉田　圭一　教諭（東汲沢小）

１月　「タブレットを使った実践提案」二部会合同開催　　提案者　須永　昌男　教諭　（谷本小）

２月　研究のまとめ

＜成果と課題＞

○　対話、交流、討論、説得・納得というコミュニケーション場面をとらえようという授業者の視点が育ってきている。
○　探究的な学習の中で、コミュニケーションを介して子どもの思考や表現を育てようという意識が定着してきている。
○　ICT 機器や、画像・動画・図表などの情報ソースを活用することでコミュニケーションを活発にする授業デザインを進めてきている。
●　主張的コミュニケーションに焦点を当てるのではなく、広くコミュニケーション場面を価値付けていく必要がある。
●　子どもたちの姿からの見取りについて、さらに検討していく必要がある。子ども同士のコミュニケーション場面において思考ツールなどを活用して可視化する手立てにより、教師の見取りにもつながるのではないか。

平成２６年２月
横浜市小学校情報・視聴覚教育研究部会
スキルアップ部会

１　部会テーマ　　“教員の ICT 活用能力のスキルアップをめざして”

２　テーマ設定の理由

子どもたちの ICT 活用能力や活用の幅を広げるためには、教員のスキルアップが必要である。そのために、ICT 機器の環境整備や活用方法について研究を深めていく。また、情報モラル教育や教育の情報化についても研究を進めていきたい。そして、子どもたちが ICT 機器を活用することで、コミュニケーション力が高まるような研究も深めていきたい。「教員が学校内の情報機器を日常的に活用し、円滑な運用ができる」ことが、子どもたちのコミュニケーション力アップにつながることを目指して、今年度の研究に取り組んでいきたいと考えている。

３　年間部会報告

【４月】定期大会・公演会・部会オリエンテーション
〇年間計画・役割分担
【５月】合同会員研究・研修会
〇タブレットを使った、情報通信の仕組みの理解から展開する情報モラル教育の試み
【６月】部会研究　校務システムの進め方と活用方法
〇校務システムの活用事例、スクリプトを使用した校務システムへの Excel データ転送方法の紹介
【７月】部会研究　ICT 機器や教材の新たな活用方法や情報交換
〇ICT 機器や教材の活用事例の紹介、電子黒板活用事例、タブレットを使った授業実践例、音楽編集ソフトの紹介と使い方、ファイルの変換方法、校務システムの便利な使い方
【９月】部会研究　YYNet を活用した情報モラルの授業提案
〇YYNet の概要や検討状況について／ＮＴＴコミュニケーションズ
〇新しい書画カメラ・プロジェクターの紹介／ＥＬMO・ＥＰＳＯＮ
【１０月】合同会員研究
〇公開授業研究会　指導案検討
〇スズキ教育ソフト　「伝えるチカラＰＲＥSS」についての説明
【１１月】合同会員研究
〇公開授業研究会　第二回目　指導案検討
【１月】部会研究　タブレット PC を使った実践提案
〇タブレットＰＣ導入に向けた取り組み
〇IPAD とアプリを使用した、各教科別の授業実践例の紹介

今年度は「教員のスキルアップ」を目標とし、校務システムの運用の仕方やＩＣＴ機器の活用方法や情報交換、次期ＹＹNET についてやタブレットＰＣ導入に向けた取り組みなど、各校の情報・視聴覚担当者にとって身近な課題、必要感のある課題について研究していきたいと考えていた。

良かった点として、実践提案・研究だけでなく、どの場でも意見交換の場がもてたことが挙げられる。また、合同部会で研究することにより、二つの部会の間で情報交換を行い、より一層研究を深めることもできた。児童のコミュニケーション力アップという目標に対してはまだまだ検討の余地はあるが、研究会として日常的に校務や授業にＩＣＴ機器を有効活用しながら進めていくために、スキルアップ部会では情報・視聴覚担当の先生方と実践や研究、交流の機会が更にもてるよう工夫して部会を運営していきたい。

合同会員研修・講演会

於：平成 25 年 5 月 8 日　15：30～
男女共同参画センター
フォーラム南太田

「コミュニケーション力を高める指導と評価」
放送大学教授　中川一史先生

「コミュニケーション」という言葉について

○　言葉としては、外国語活動にのみ、書かれている。
○　辞書によると、社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介として行われている。
○　生活（8）伝えあったりする学習活動の充実（中教審答申，２００８）

コミュニケーション力育成のために，どのようなことを具体的に取り組んでいるか

・　朝のスピーチをビデオで録画。それを見ることで、振り返ることで、話すことの力をつけた。始めは声の大きさや態度に着目して振り返っていたが，次第に内容の深まりが見られるようになった。（左近山小・安冨先生）
　→ 児童の相互評価
・　グループでの活動。積極的に協働的な学びを取り入れた学習活動に取り組んでいる。（庄戸小・平野）
　→教師の見とり
○　コミュニケーションの深まりは，2 次関数（$y = x^2$）
○　状況（学校・学年・学級・時期など）によって，取り組むべき内容が違う。どこかで，フォーマルからインフォーマルへ，型や原稿から脱出し，ギアチェンジをしていく必要がある。
・　学級の雰囲気ができてから，原稿を持たずにスピーチするようになった。（高田小・鳥越先生）
　→これをどのように見とるのか，物差しはない。

学力のトライアングル

○　学力のトライアングルとは，探求型，活用型，習得型の学力のトライアングルのこと。コミュニケーション力の育成を研究していても、習得型で終わってしまうことが多い。三つの学力の往還ができるよう，橋渡しを大切にしたい。

習得型から活用型へ	習得型から探求型へ	活用型から探求型へ
積み上げ：学習内容の積み上げ 統合スキル：話すと聞く、読むと書く、など	自信：学級風土 雰囲気：なぁなぁにならない。	切実感：何のためにそれをするのか 場数：緊張感を持って伝える活動の場数を踏む

21 世紀型コミュニケーション力

〇定義：主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことで、深めていくことができる能力

〇二つのレベル

強調的レベル＝多様性の理解（比較・推論）

主張的レベル＝最適化の追究（根拠・妥当）

〇実践事例より

・「ほらね」と言える映像場面をグループで撮影しておく（プロセスを記録しておく）

解決の仕方、図工の技法など

・2 年生なりに叙述に戻って説明できること

国語，挿絵と本文の往復

・説得できる 3 つの理由をチョイスする

何を選べば説得できるのか、切実感

いずれの実践にも共通しているのは， 調べればわかること、正解が一つであることを課題にしていないということ。調べただけでは分からない，答えが一つではない課題の時にコミュニケーション力を発揮する環境が整う。

例えば，記事（伝えたい内容）と見出しと図表の三者の関係や，言葉や文章とキャッチコピーと写真やイラストの関係性などを問うていくときに，コミュニケーション力が発揮されると考えられる。

思考の見える化を

頭の中にある思いや考えの思考の可視化を図る。

ツールとして：電子黒板、ホワイトボード、付箋紙など

手法として：KJ 法，イメージマップなど

横浜市情報・視聴覚夏季研修会

「２１世紀の教室」体験会

会場：日本マイクロソフト株式会社　品川オフィス

〇授業での ICT 利活用、Windows８タブレットの使い方

ウィンドウズ８のタブレット PC や電子黒板、授業支援システム（インタラクティブスタディ）を使った、学校現場での活用事例

ピクチャーパスワードの採用→簡単でセキュアなサインインが可能（点や線や〇など）

基本操作の確認

児童の教科書は紙ベース、ノートが電子の想定で授業体験（One Note 利用）

会議の議事録としても有効（資料もすべて一元管理できるため）

写真の挿入やページのレイアウト変更などのやり方を体験

授業支援システムを使うと、児童機の操作を一斉ロックすることができる。（前の画面に注目させたいときに有効）

〇21 世紀の授業提案～ICT で授業が変わる～

‹中３理科（惑星の見え方）›

あらかじめ OneNote に入れてあるワークシートで、タブレット上にペンで書き込み

動画の撮影機能→あとから自分のペースで記録ができる

＜小５社会（漁業）＞

グラフの遷移を操作できる→ポイントを絞って見せることができる

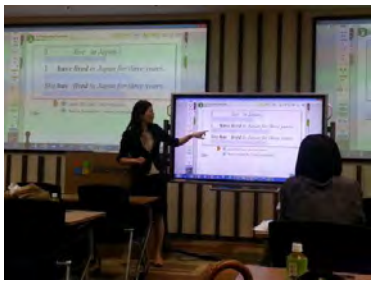
授業支援システムで、教師の自作資料を子機に一斉配付

各マシンごとに作業させ、アンケートをとれる（集約したデータをもとに話し合う）

＜中３英語＞

電子黒板ソフトの中に、ネイティブ発音も含まれている

ノート上に自分の発音を録音し、提出することもできる

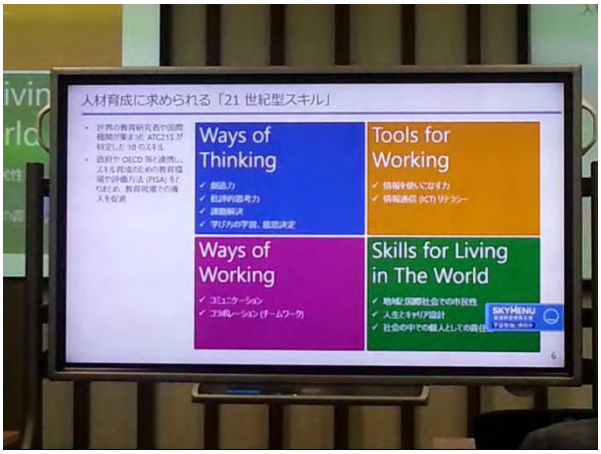


〇Windows ストアとアプリ体験
ストアのアイコンから、無料アプリを数多くダウンロードできる

〇学習に困難のある子どものテクノロジー活用
文字を書読むことに困難のある子どもに対して、耳からの学習支援で理解を深められた事例の紹介
文字を書くことに困難のある子どもに対しては、紙とペンでなく、パソコン入力を得意として文が書けた事例
テクノロジーを活用して、子どもの可能性を広げ、その子がみんなと同じ土俵にのって勝負できるための合理的配慮となる

〇アクセシビリティ機能
ハイコントラスト（視覚の障害がある場合、白地に黒字よりも、黒地に白字の方が見やすい）、拡大鏡（文字を拡大できる）

〇21 世紀型スキルと ICT
社会経済の変化、テクノロジーの台頭の中で求められる人材→創造力、情報を使いこなす力、コミュニケーション力、世界市民としての市民性（個人としてのキャリア設計と責任）
PISA 調査の受験も広がってきている
韓国、ブラジル、アメリカ、フロリダにおけるデジタル化の波→個人に合わせた学び、教室を超えて家庭でも学べる環境、新しいコンテンツのダイナミクス



クラウドサービスの導入（大阪市）→病院で学ぶ子ども500 人が参加できるような配慮
リアルタイムで質問（文字情報の送信）も可能

〇オフィスツアー

横浜市小学校　情報・視聴覚研究会
夏季研修会

手近な機材で教材（番組）づくり

平成25年7月26日(金)

1･撮影機材

○ビデオカメラ(DV･HD)
○スマホ
○タブレットPC
○デジカメ

1･撮影機材

○デジカメ

・コンパクトデジカメ
・ミラーレス一眼
・デジタル一眼

1･撮影機材

・コンパクトデジカメ（コンデジ）

性能の向上

➡ 画素数の向上
➡ ズームの向上
➡ 動画性能の向上

2･機材の特性　（動画を撮影する場合）

項目	コンデジ	ビデオ
・手軽さ（準備）	○	△
・動画性能	△	○
・手ぶれ防止	△	○
・ズーム	△	○
・音声性能	△(×)	○
・編集への対応	△	○

3･コンデジ動画撮影の注意点

・動画データの形式に注意!

ウィンドウズ ムービーメーカー(XP)が対応するビデオファイルの形式)

asf、.avi、.m1v、.mp2、.mp2v、.mpe、.mpeg、.mpg、.mpv2、.wm、.wmv

→予め確かめておくこと!

・手ぶれに弱い。

→しっかりホールドする。
→三脚を使うと安心。
→置いて撮影も一つの手。

3･コンデジ動画撮影の注意点

・マイク性能は低い。

＊風に弱い。

＊モノラルの場合も。

＊指向性が低い（ない）

＊外部マイクはつなげない

→音についてはある程度あきらめが必要

3･コンデジ動画撮影の注意点

・動画撮影モード切り替えがいろいろ。

＊メーカー･機種によってまちまち

＊モード切替が億劫なものも

・動画画質の設定を忘れない。

＊いろいろな画質が選べる機種も

＊画質によって録画時間も違う

＊画質によって電池の持ちも違う。

4･動画撮影の心得

①最適なメディアが動画なのかを考える。

＊静止画の方がしっかり伝わる場合が多い。

②ねらい（伝えたいこと）は何かをはっきりさせる。

＊ねらいが定まれば、撮影するシーンもはっきりしてくる。

※チーム制作では、ロケハンや制作会議を重ねます。

4･動画撮影の心得

③動画の内容を吟味する。

＊どのような内容･構成にするかをしっかりと決める。

＊内容を盛り込みすぎないこと。

＊生音やナレーションはどうするのかも考える。

※チーム制作では、構成や必要なシーンを洗い出します。

※チーム制作では、シナリオを作ります。

4･動画撮影の心得

④少ない負担で完成するように考える。

＊撮りつなぎ作品も一つの手。

☆デジカメの撮影開始タイミングを知っておくこと。（時計を撮る）

＊NGシーンと成功シーンを後で分かるように記録しておく。

※影チーム制作では、充分な量の撮影をします。（2台撮影も）

※捨てカットやFIX映像も多数撮影します。

4･動画撮影の心得

⑤ズームはできるだけ使わない。

⑥アップとルーズを効果的に使う。

⑦カメラはなるべく動かさない。

＊パン･チルト･ズームは、それを使う必要があるときだけ。

4･動画撮影の心得

⑧逆光に注意する。

⑨揺れないように注意する。

⑩音にも注意する。

- ＊耳で聞く音と録音される音は違う。
- ＊呼吸に気をつける。
- ＊風の音･周囲の雑音に注意。

4･動画撮影の心得

⑪カメラの高さに注意する。

- ＊大人の目線では高すぎる場合がある。

⑫編集を考えた撮影をする。

- ＊数秒前から撮り始め、数秒後まで撮っておくと編集しやすい。

5・EXILIM　EX-ZR300の使い方

①電源を入れる

電源ON

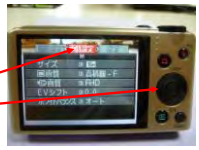
②MENUを押す

「MENU」ボタンで
設定画面を表示

5・EXILIM　EX-ZR300の使い方

③画質設定を選択

黒いリングを操作して
「画質設定」を選択



④ビデオ画質の
FHDを選択

「FHD」になって
いればOK

もし「FHD」になっていな
かったら･･･次のページへ

5・EXILIM　EX-ZR300の使い方

⑤ビデオ画質をFHD
にするには

黒いリングを操作して
「FHD」を選び、
「SET」を押して設定

5・EXILIM　EX-ZR300の使い方

⑥ビデオの撮り方

ビデオマークの赤いボタ
ンを押すと撮影開始

撮影中の
画面

もう一度押すと
撮影停止

手近な機材で教材（番組）づくり　～編集編～

午前中に撮影をした映像を、午後編集します。編集の手順は、およそ次のようになります。

①ファイルの取り込み　　②編集　　③書き出し

今回の研修では、ウインドウズのパソコンに無料でインストールできる編集ソフト「ウインドウズムービーメーカー」を使います。今回使用するものは、バージョン２．６ですが、バージョンは違っても操作は大きく変わりませんからご安心ください。

ただし、デジカメの映像を扱うとき、気をつけなければならないことがあります。ウインドウズムービーメーカーでは、今回のデジカメの映像をそのまま取り込むことができません。変換にはそれなりに時間がかかるので、昼食の前に変換ソフトを使って取り込める形式に変換をしておきます。

昼食の前の一手間　ファイル形式の変換

今回は、「４Ｆｒｅｅ　Ｖｉｄｅｏ　Ｃｏｎｖｅｒｔｅｒ」というフリーソフトを使います。変換しなくてよい（使わないファイル・ＮＧのファイル）がある時は、メモしておくか、事前に削除しておいてください。

これから手順を説明します。

①デジカメをＵＳＢケーブルで接続して、ファイルをパソコンに取り込む

ＵＳＢケーブルでパソコンに接続し、リムーバブルディスクとして認識させます。

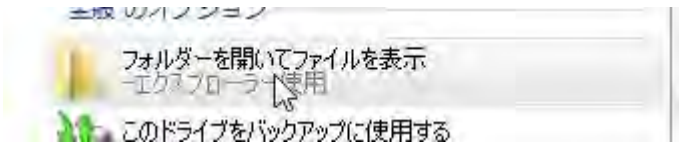
認識されると自動再生のウインドウがポップアップします。

「フォルダーを開いてファイルを表示」選び

スクロールバーをドラッグして

フォルダの中に入ります。

さらにそのフォルダの中を順番に開き、画像ファイルが見える状態にします。



編集する画像ファイルだけを選択し、デスクトップに貼り付けておきます。

次に、「４Ｆｒｅｅ　Ｖｉｄｅｏ　Ｃｏｎｖｅｒｔｅｒ」

を起動します。

変換するファイルを選択し、上のエリアにドラッグします。

ドラッグされたファイルは、左のように表示されます。

次に、プロフィールの中から、「一般的なビデオフォーマット」を選択し、右のウインドウのかなり下にある「ＷＭＶ－Ｗｉｎｄｏｗｓ　Ｍｅｄｉａ　Ｖｉｄｅｏ」を選択します。

次に、保存先をわかりやすくするため、デスクトップに変更します。

これで変換の準備完了、上のバーから変換をクリックします。

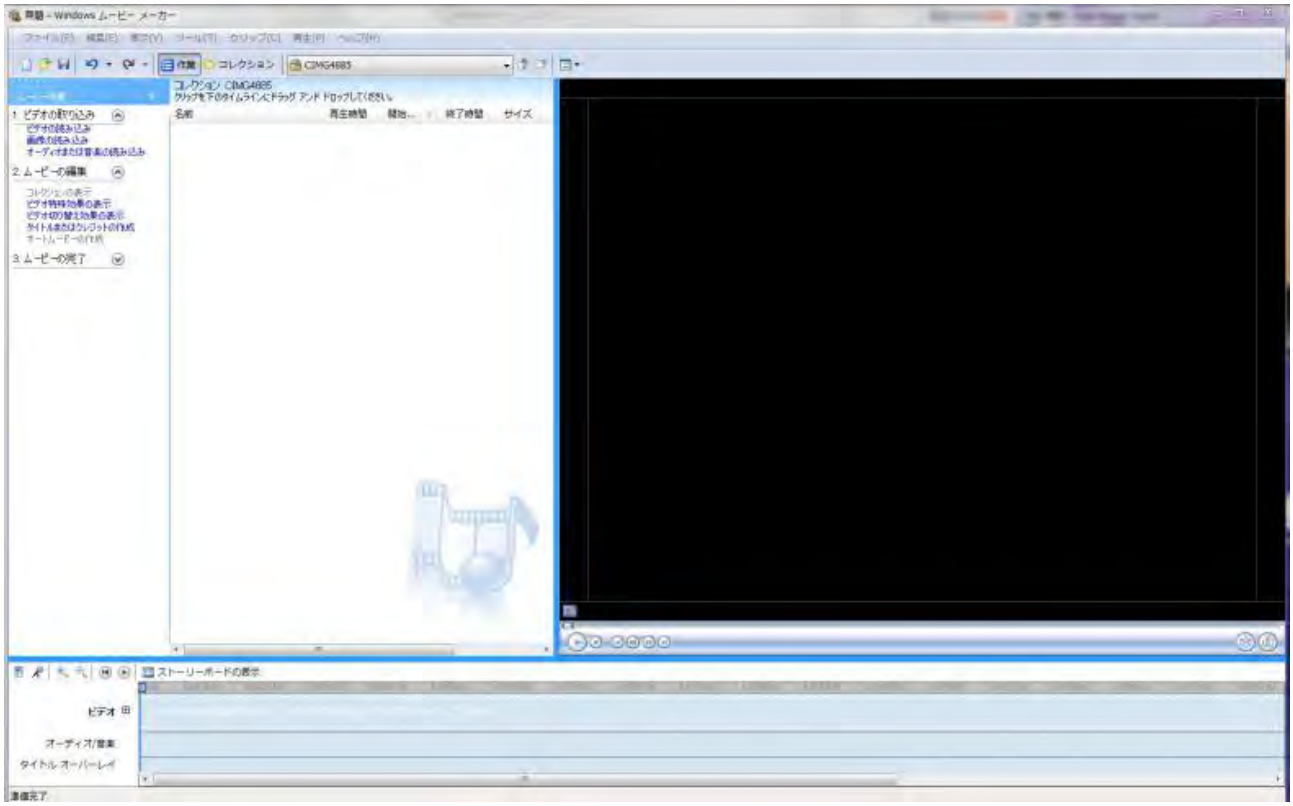
こんなウインドウがポップアップしますが、×で消します。

これで変換の準備は完了、時間がかかるので昼食と休憩にしましょう。

いよいよ、手順①取り込み

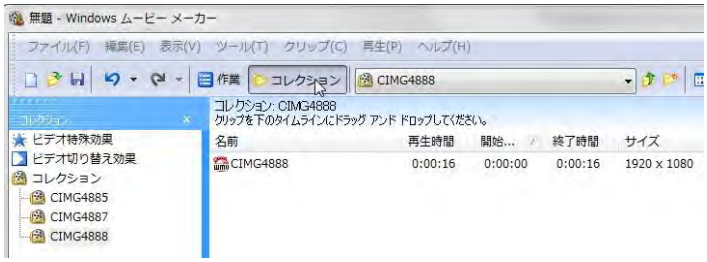
編集作業の始めは、ファイルの取り込みです。もしウインドウズムービーメーカーが対応しているファイル形式なら、昼食前に行った変換の行程は不要になります。対応しているかどうかは、編集をする前に確かめておいてください。

ウインドウズムービーメーカーを起動します。起動すると、こんなウインドウになります。



左がメインのコマンドを選ぶエリア、真ん中が取り込んだファイル表示、右の黒い部分がプレビューウインドウです。ファイルとプレビューの大きさは、境目のブルーのラインをドラッグすると変えられますから、好みに応じて変更してください。

すると、ファイルのところには、複数取り込んだはずなのに、一つしか表示されていません。そこで、複数のファイルが表示されるように切り替えます。



上の「コレクション」を選択すると、すべてのファイルが表示されるようになります。

これで取り込みは終了です。

編集ソフトでは、デジカメで撮影した静止画像や、ＢＧＭやナレーションなどの音声ファイルも同様にして取り込むことができます。必要に応じて活用してください。

手順②　編集

いよいよ編集です。編集では、以下のことができます。

・不要部分のカット　・順序の入れ換え　・シーンチェンジのエフェクト
・タイトルやクレジットを入れる　　・ＢＧＭやナレーションを入れる

今回の研修では時間の制約があるので、不要部分のカットと順序の入れ換えを中心に行います。その他のことは、時間にゆとりがありましたらチャレンジしてみてください。

ウインドウズムービーメーカーでは、２つの編集モードがあります。場面によって切り替えて使うとよいかと思います。

ストーリーボード

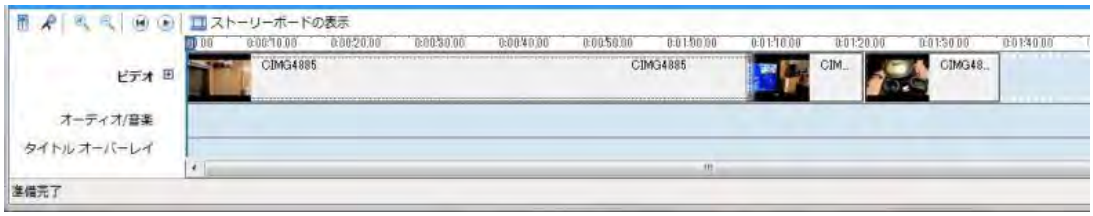
ファイルにカットする部分がない、シーンチェンジにエフェクトをかけたいなどの場合に向きます。

大きなますには、画像ファイルを置いていきます。間の小さなますにはビデオの切り替え効果を置くことができます。

編集のとき、ついついエフェクトを多用したくなりますが、あまり多用しない方が見やすくなります。大きなシーンチェンジ以外ではエフェクトを使わない方がよいでしょう。

タイムライン

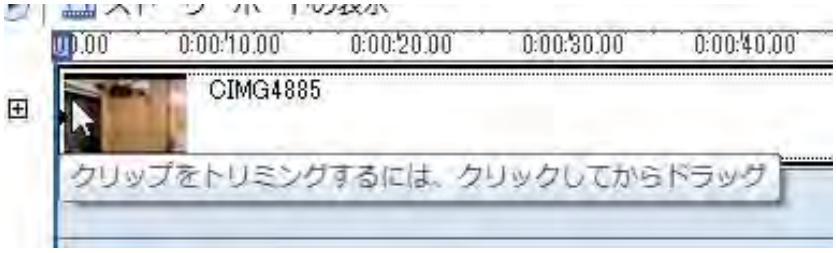
ストーリーボードのすぐ上に、「タイムラインの表示」というアイコンがあります。ここをクリックすると､表示が切り替わります。



ストーリーボードとはちがい、帯グラフのような表示になりました。タイムラインでは、ファイルの中の不要部分のカットや音声ファイルの追加、タイトルを重ねるなどのことができます。

不要部分のカットの仕方は、２通りあります。

ファイルの前端または後端をカットする



ファイルのカットしたい前端または後端をクリックし、それからドラッグしながら不要部分をカットします。

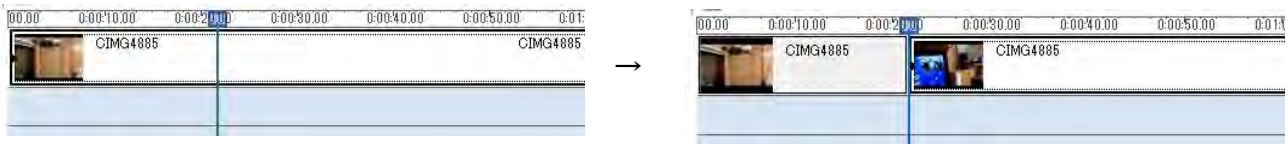
操作されているファイルは、こんな色に変わって表示されます。

ファイルの途中をカットする

ファイルの途中をカットしたいときは、タイムライン上の青いバーをカットしたいスタート地点に移動します。時間の目盛りをクリックするか、ドラッグしながら移動させます。

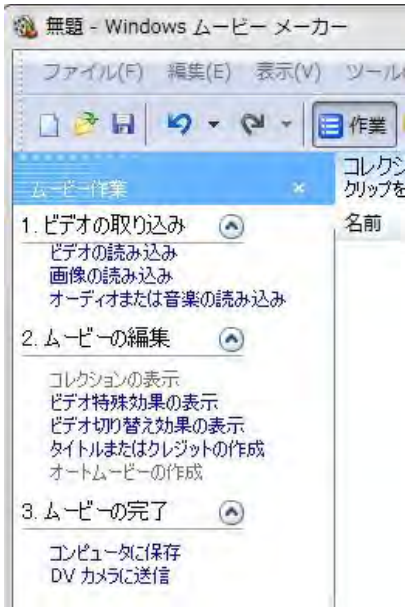
モニター上のスライドバーを操作すると、もっと細かく操作できます。また、モニタ ーの下部のボタンでは、コマ送りで精密にコントロールすることができます。

次に、モニター右下の分割ボタンをクリックし、ファイルを分割します。



すると、指定されたポイントでファイルが２つに分割されます。
あとは、分割を繰り返して不要部分を切り取ってもいいですし、端をつまんでスライドさせてもいいです。これで不要部分がカットされました。

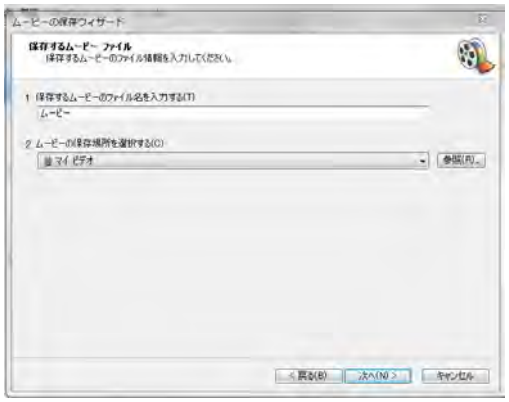
手順③　書き出し



編集が終了したら、できあがったムービーを保存します。
ウインドウズムービーメーカーでは、選択肢が２つあります。

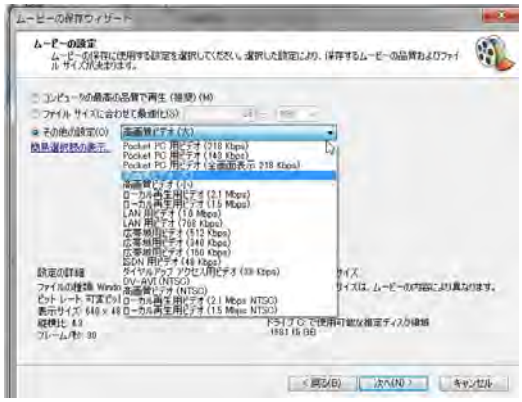
コンピュータに保存（ムービーファイルにする）
ＤＶカメラに送信（ＤＶテープに書き出す）

ＤＶビデオカメラをお持ちで、ＩＥＥＥ１３９４ケーブルで接続していない場合は、下は選択できません。今回は「コンピュータに保存」を選びます。



ここで、ファイル名と保存場所を決めます。名前はそれぞれ任意でかまいません。保存場所はデスクトップを選択してください。

決まったら、「次へ」をクリックします。



次に、保存する品位を選びます。今回は「その他の設定」を選び、その中から「高画質ビデオ（大）」選んでください。ここは、必要によって品位を変えられますから、使用目的に合わせて選んでください。

書き出しが終わったら、編集は終了です。

　編集が終わったら、ウインドウズムービーメーカーを終了します。この時、プロジェクトを保存しておくと、後でやり直しができます。

最後に

さて、ビデオ編集で大切なこと、注意点をまとめておきます。

編集しやすいように撮影しておく

意図をもって、つなぎやすい映像を撮影しておきましょう。

ビデオ編集にはより高度なソフトとマシンパワーが必要

現在は、ハイビジョン画質がデジカメでも撮影できますし、数万円のビデオカメラでもとても高画質です。本格的にハイビジョン画像を編集するためには、ウインドウズムービーメーカーより高度な編集ソフトが必要です。また、パソコンもマシンパワーのあるものが必要になってきます。

汎用性を高めるためにはＤＶＤ

高画質を極めるにはブルーレイディスクなのですが、汎用性を高めるためにはＤＶＤにするのがよいかと思います。ＤＶＤにするためには、ライティングソフトかライティング機能のある編集ソフトが必要になります。

ウインドウズムービーメーカーでも、今回触れなかったタイトルやオーディオトラックの編集を加えると、かなり高度なことができます。是非トライしてみてください。

平成２５年度　神奈川県放送教育・視聴覚教育研究会合同夏季特別研修会

情報モラルを考える

～タブレット PC を使って～

横浜市立いぶき野小学校　　伊藤　裕哉

Ⅰ　主題設定の理由

１、　はじめに

高度情報社会の今、情報化は我々に様々な利便性をもたらしている。しかし、それに伴い我々大人だけではなく子どもたちをも巻き込んだ様々な問題も発生している。文部科学省「教育の情報化に関する手引き」では、「情報モラル」とは「情報社会において、適切な活動を行うための基になる考え方と態度」と明記されている。昨今の情報社会において、従来の教育だけでは対応しきれない問題も数多く発生してきている。これらの課題に適切に対応するために、今まで以上に「情報モラル教育」の必要性が高まってきている。

２、　主題設定について

情報社会の発展は広まり、深まり、様々な利便性と問題を抱えている。情報モラル教育においては、「被害者・加害者にならないこと」「あれはダメ、これもダメ」という事だけを教え込むのではなく、「相手意識をもって、人や社会とより良く関わり合うこと」も合わせて指導してく必要があると考える。そこで、従来の情報モラル教育の一つの要素として、相手を思いやる気持ちが必要であることを実感させることができるような授業とは何かを考え、主題を設定した。

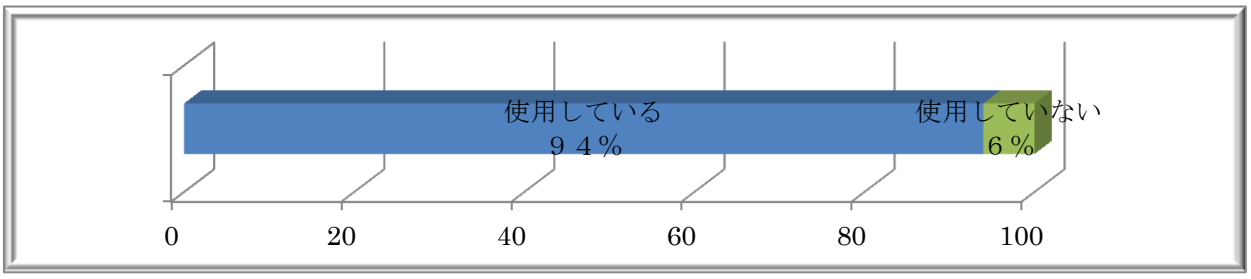
３、　研究の仮説

小学生や中学生を対象とする情報通信のマナー（倫理）に関する教材は多いが、現状では基本的な仕組みの理解が十分でないために、おおよそ禁止的な項目のみになりがちである。したがって、情報モラル教育の一つの要素である、情報通信の基本的な仕組みを理解する事に重点を置いた。そして、情報モラルに関する理解が深まり、新たな技術への対応力など、広い意味でのリテラシー養成につながると考え、研究を進めた。

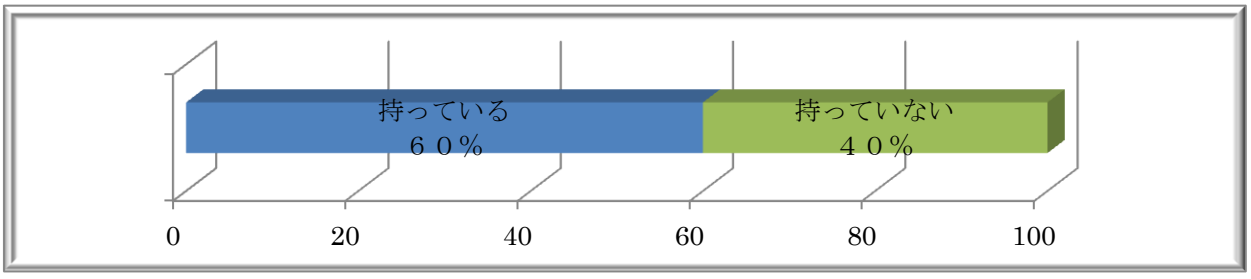
Ⅱ　研究の内容

１、　児童の実態調査から

所属校の５年生を対象として行った「ICT 機器に関するアンケート」により、児童の実態について分析した。



質問１　家で PC や携帯電話を使用しているか



質問２　自分の携帯電話を持っているか

アンケートの中で、「家で PC や携帯電話を使用しているか」という質問に対しては、９４％の児童が使用していると回答している。用途としては、メールやインターネット、ゲーム等であった。また、「自分の携帯電話を持っているか」という質問に対しては、半数以上の６０％の児童が「所有している」と回答している。主な用途は家族との連絡やメールだが、中には SNS やチャット、LINE などをしている児童もいた。また、所有していない児童も、親や兄弟の携帯電話を使っている児童もおり、使ったことも触ったこともない児童はほぼいなかった。

このような児童の実態を踏まえ、既に殆どの児童が使用している機器を通して起こる問題を回避するためにも、学校での情報モラル教育が大切だといえる。また、今後更に自分用 PC や携帯電話を持つ児童が増えると考えられ、小学校の段階から、児童の情報モラルを高めていく必要がある。

2、 情報モラルを身につけるための環境

（１） 情報モラルは日常の生活から

以前、トイレの壁に落書きが見つかったことがある。学校は公共施設であり、いたずら書きは匿名性が強く、景観も損なう行為であると言える。情報モラルでは「ネット上での匿名での書き込み」を題材にすることが多いが、日常生活におけるこのいたずら書きも同様のものである。ネット上だけではなく、日常生活におけるこのような行為も同様に扱っていく必要がある。

（２） 低学年からしっかりと

ネットを使用する機会は高学年より少ないものの、低学年から情報モラル指導をしていく必要がある。ネット上に限らず、「相手意識」を持たないことは人間関係のトラブルに陥りやすく、それは低学年から大人まで同様である。また、児童の行き過ぎたメディア利用は、外遊びの機会を奪い、人との関わりや体験の不足を招く危険性がある。久里浜医療センターでは、ネット依存中高生の為の対応を始めている。低学年のうちから情報モラル教育を通して「相手意識」を身につけさせることで、高学年のネット上でのモラル指導につながっていき、それが日常生活の言動にも影響すると考えられる。

（３） 著作権について

技術の発達に伴い、PC やスマホなどの操作を覚えれば、誰でも簡単にアイデアや作品をコピーすることができる。また、それはネット上に限らない。例えば、友だちの図工の作品の形やアイデアを、丸ごと真似する児童がいる。良いところを模倣することの良さは勿論あるが、この場合、「他人のアイデアや作品を安易に真似しない、盗まない、許可を得て使用する」という意識を育てていく必要がある。

3、 情報モラル教育を積み重ねる場面

（１） 日常での指導

情報モラルは、言い換えれば「生きる力」である。基礎・基本をもとにして、課題解決に向かう思考力、判断力、表現力、その他の能力の総合体系の一つと考えられる。日常での友人や教師との地域の方とのコミュニケーションを含めて「情報モラル」と意識づけるために、「あいさつ」「言葉遣い」「話し合い」などは教科の時間に関わらず適宜指導してきた。

（２） 道徳での指導

「ドコモの子どもケータイ教室」DVD を使用した。主な内容としては、「ケータイで何ができるのか」「勝手に写真を撮ってもいいのか」「個人情報を公開してもいいのか」「誰かがなりすましをしているかも」などを、アニメーション動画や絵を用いて視覚的に学習した。

（3） 総合的な学習の時間での指導

東京理科大学

渡辺　均教授、東本　崇仁教授、マラット・ザニケエフ教授指導のもと、タブレット PC と教室無線 LAN を使用した情報モラル教育を行った。

◎学習内容：①情報処理に関する基本事項

情報の表現と蓄積

・あらゆる情報（字、絵、音楽、･･･）は0と1の記号の並びで表現できること（デジタル方式）

・デジタル方式は、情報の伝達と記録にとても便利であること

ファイルの概念

・伝達または記録したい情報を、一塊のものとして扱う単位が「ファイル」であること

・コンピュータの中には、色んな情報がファイルとして保管されていること

情報処理とはファイルへの操作

・コンピュータのやっていることを突き詰めれば、ファイルの書き換えと保存であること

学習内容：②通信ﾈｯﾄﾜｰｸに関する基本事項

多数を繋ぐのが通信ネットワーク

・多くの利用者の間を、必要に応じて繋ぎ情報をやり取りするのが通信ネットワークであること

・相手があってこそ意味のあるのが通信ネットワークであること

繋ぐための共通的な仕組みがある

・ネットワーク全体のことを知らなくても、転送に関する規則に従えば情報は所定の宛先に届くこと

・この規則は、全世界共通であればこそ有効であること

設備の共通利用

・多くの利用者が必要に応じて利用するために、通信設備の多くは共通利用を前提に準備されている

・お金さえ払えば、好きなだけ使って良いものではないこと

学習内容：③情報化時代の行動規範

情報に関して古来より不変なこと

・人は有益な情報を得て、自らの行動を決める材料にしてきたこと。

・情報を「盗む」「勝手に使う」という行為は昔からあり、昔も「悪いこと」であったこと。

・本人の同意を得ずに、その人に関することを言いふらしたりするのも同じであること。

現代は何がちがうのか

・デジタル方式は劣化無しでいくらでもコピーできること。

・インターネットは全世界に向けて手軽に情報発信できること。

→　情報を「盗む」「勝手に使う」「人に伝える」ことに関する、技術的・労力的な歯止めがない

・インターネットは、世界共通の仕組みで世界中のコンピュータをつないでいること。

→　仕組みは誰でも知っているので、悪いことを思いつくのも容易であること。

児童に、特に理解させたいポイント

・インターネットは、世界共通の仕組みで世界中のコンピュータをつないでいること。

・世界共通の仕組みが、利便性をもたらすと同時に危険の根源であること。

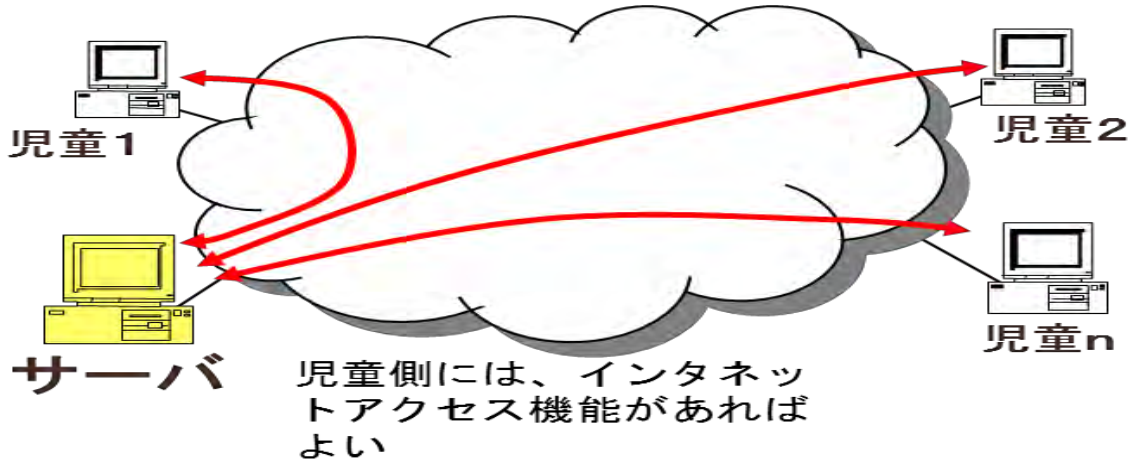
・情報処理や伝達に関して、我々は個人のレベルでも、大きな力を持ってしまったこと。

・それゆえに、悪いことをしようとしたときの敷居が低くなってしまう。つまり、マナーが一層重要

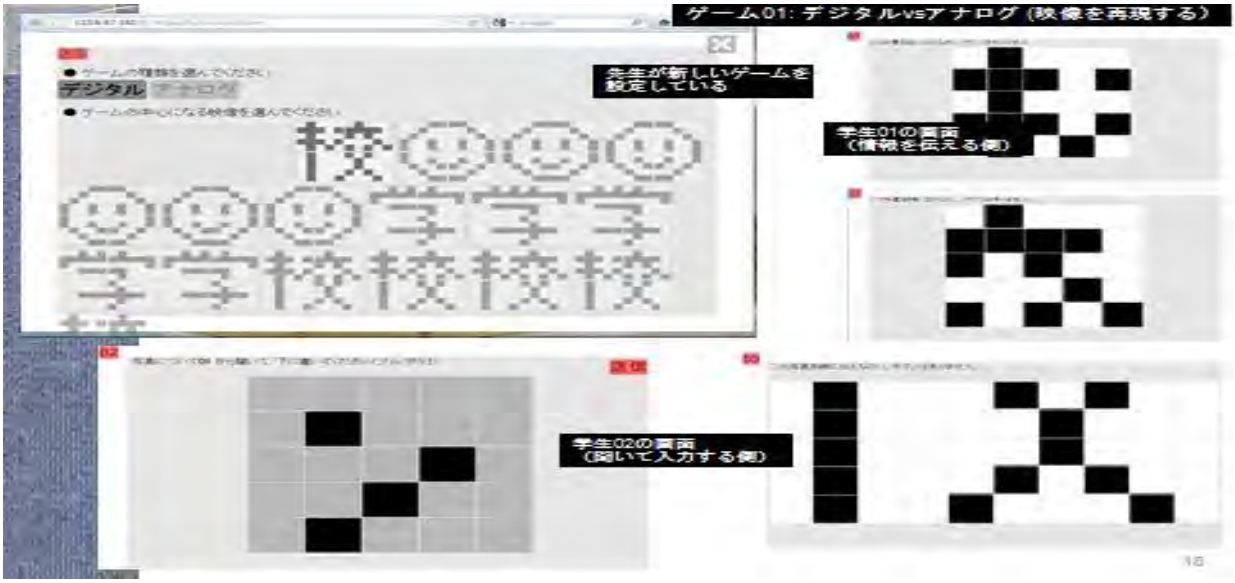
になる。

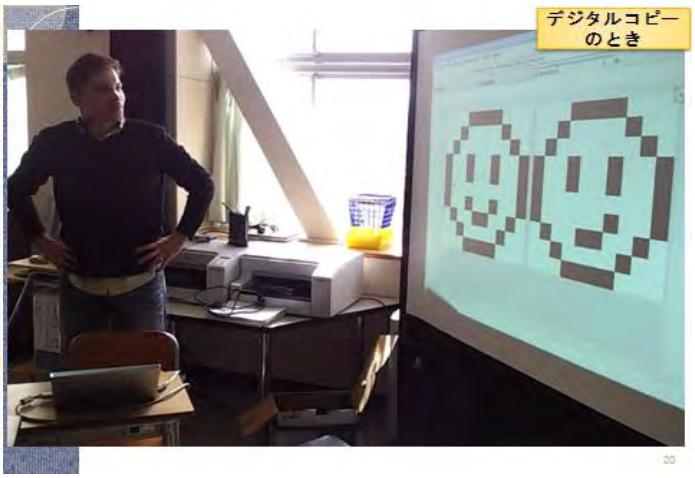
◎プログラムの実行形態

ネットワークに接続した特定 PC(サーバ)上にプログラムを置き、他の端末はそれへアクセスすることでゲームを実行



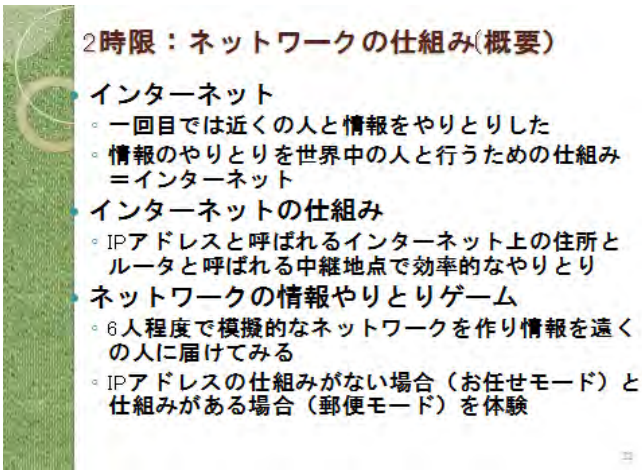
◎授業の展開：一時間目

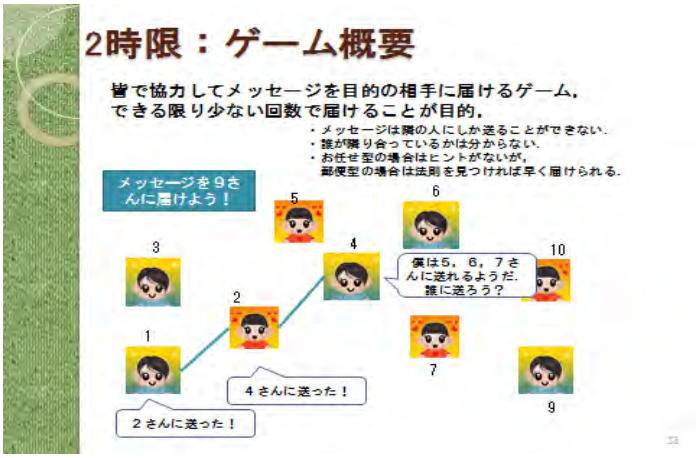


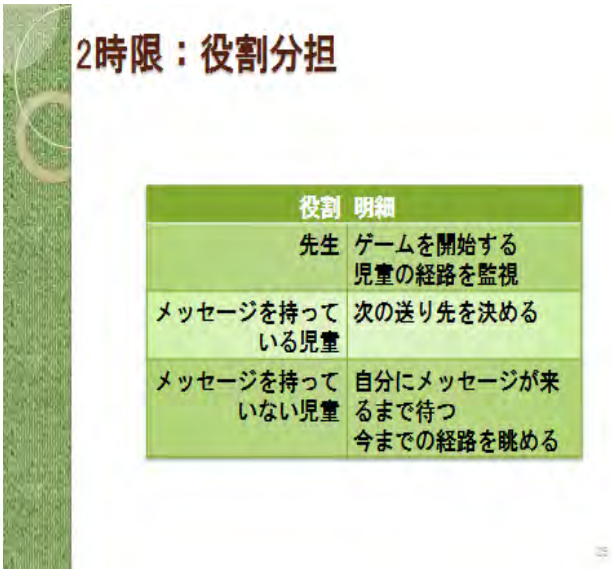


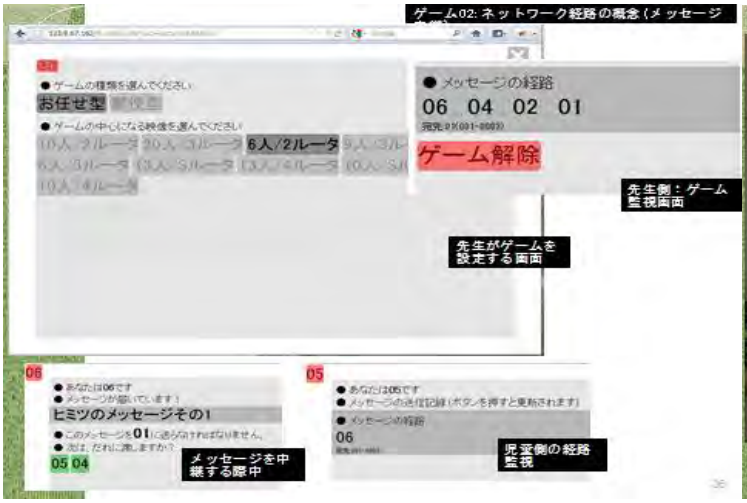
一時間目には、ゲームを通してデジタル方式とアナログ方式の結果を見せ，結果的にどちらが正確にコピーできたかを考えさせた。アナログ方式では完成した文字が判別不能であったが、デジタル方式ではほぼ正確にコピーをすることができた。ここから児童は、デジタルでは正確に情報を伝達できることを学んだ。その後、コンピュータの世界では今日のゲームで行ったデジタル（マス目）方式で情報を伝えており、正確にしかも高速に情報をコピーできること、そして正確にコピーできるため決してコピーしてはいけないものもたくさんある（ゲームや音楽等．犯罪になる）ということにも触れた。

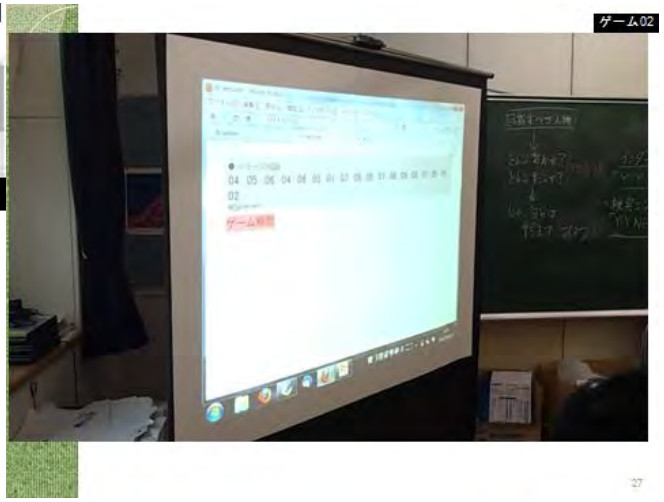
◎授業の展開：２時間目





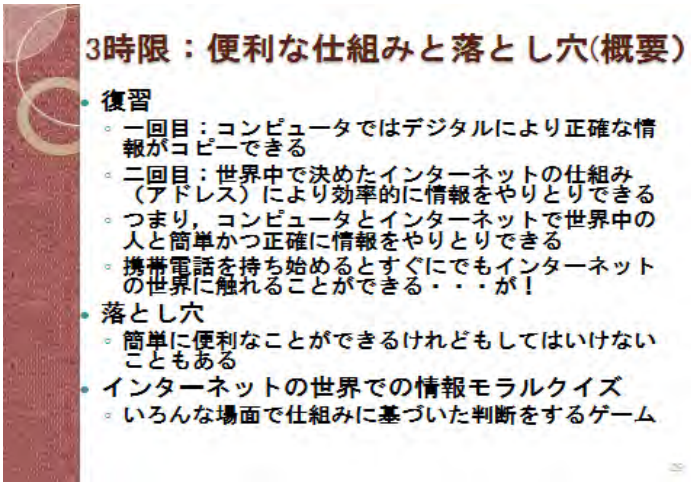




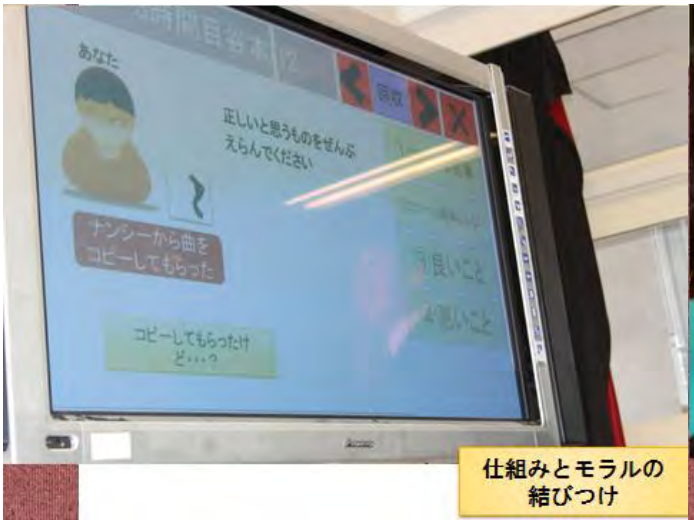


２時間目には、ゲームを通して児童に IP アドレス（郵便番号みたいなもの）の特徴について気づかせた。{気づかないと同じ場所をぐるぐる回る（ループ）してしまう。）気づいた児童のグループは、IP アドレスの特徴により効率よく情報を届けられることを体感することができたようである。その後、「インターネットは世界で共通の仕組み IP アドレス（郵便番号みたいなもの）を導入して効率的に情報をやりとりしている」「世界中の人が協力して共通の仕組みを作り上げたこと」「自分勝手な行動をすると世界中の人に迷惑をかけるかもしれない」ということについて触れた。

◎授業の展開：３時間目

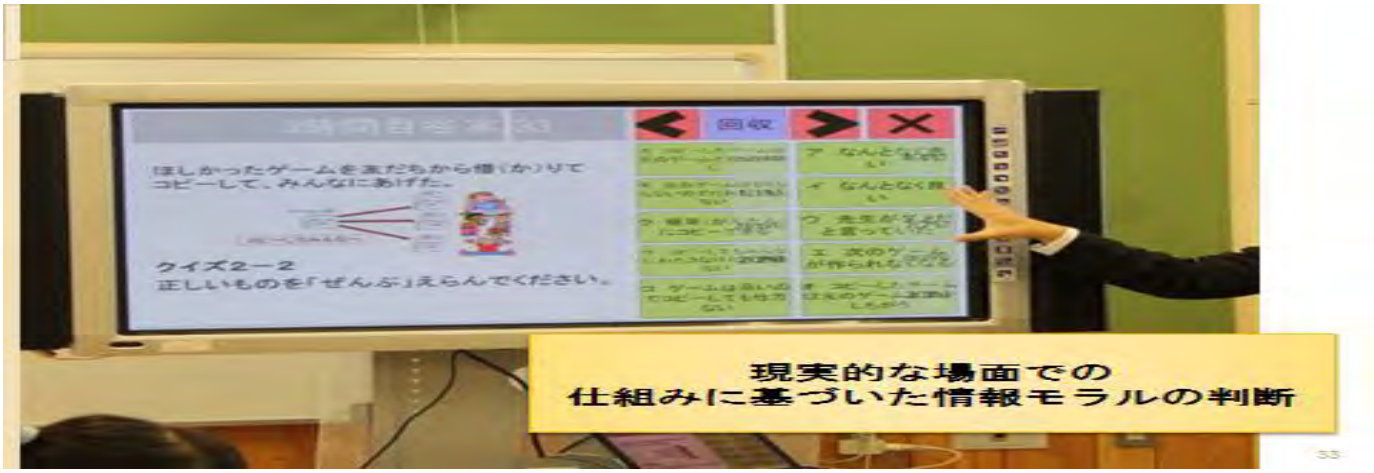


仕組みの復習



仕組みとモラルの結びつけ

「コピーは簡単」
だけど
「悪いこと」
を選んでいる児童



３時間目には、ゲームを通して、簡単かつ正確なコピーとネットワークの効率的な情報交換により，簡単に誰でも悪いことができること、そして自分が被害者にも加害者にもなる可能性があることについて考えさせた。教師側の質問に対して児童はタブレットを使用して返信し、集計結果を見ながら内容を進めていった。この時間を通して、「コンピュータもインターネットも便利なものだけど皆の協力が大切であること」「悪いことをする人がいると皆に迷惑をかけるし，一見匿名でもネットの仕組みからばれてしまう」ということから、「色んな場面でよく考えて行動することが大切であること」を考えることができた。

Ⅲ　研究のまとめと今後の課題

１、研究から見えてきたこと

①　短期的に見えてきたこと

日頃 PC や携帯電話を使用してインターネットをしていると、つい機械を相手しているように感じることがあるが、その向こう側には感情をもった人間がいる。しかし、ネットワークの仕組みがわからないと、PC や携帯電話と日常生活を切り離して考えがちである。今回の授業を通して児童はネットワークの仕組みを知り、その向こうには相手がいることを意識できるようになった。

また、日常にありがちなケースの問題を取り扱い、その結果を全員で共有することで、機器を使う際に、何が良いのか、何が良くないのかの判断基準が身につき、善悪を判断する力がついた。

②　長期的に見えてきたこと

「ネットワークの向こう側にも人がいる」ということを実感できたことで、ネットワーク上も日常も変わらない、という事に気付き、どちらも「相手の気持ちを考える」ことが大切だということを理解した。日常の言動がネットワーク上にもつながり、ネットワーク上の言動が日常につながっていると考えるようになった。その結果、日頃の言動も意識するようになり、相手の気持ちを考えて行動することにより児童のコミュニケーションカも高まったようである。

２、今後の課題

今回の研究では、従来の情報モラル教育とともに情報通信の基本的な仕組みを理解することが、ネットワーク上に限らず日常生活における児童の「相手意識」が高まりにつながることがわかった。そして、相手意識を常にもって日常生活を送ることが、児童のコミュニケーションカの向上につながっていくと考えられる。そのために、教師自身が日々研究を深めていき、同時に日常的に情報モラル指導を行っていく必要がある。明確な評価基準のない分野ではあるが、学校現場での共通理解、教師自身の意識の向上、様々な問題に対する対応・実践指導の充実を図っていくことが必要である。

また、今後更に増加していくであろう問題に対応していくために、学校のみでなく家庭での適切なメディア使用も呼びかけていく必要がある。学校と家庭で連携をとりながら、児童の情報モラル教育の質を高め、問題に対応しうる力を育成していくと共に、児童のコミュニケーションカを高めていきたい。

平成２５年度　神奈川県放送教育・視聴覚教育研究会合同夏季特別研修会記録

第３講座　【情報活用教育】
提案者
　横浜市立いぶき野小学校　　伊藤　裕也
　横浜市立小山台中学校　　山村　泰弘
助言者
　横浜市教育委員会指導主事　松田　　裕
司会者
　横浜市立奈良の丘小学校　　武井　三也
記録者
　横浜市立常盤台小学校　　東森　清仁

提案内容（１）

『情報モラルを考える』

～タブレットPCを使って～

１　提案趣旨

子どもたちを取り巻く情報環境の変化に伴い、利便性の向上とともに様々な問題も発生している。そこで、今回は相手を思いやる気持ちを重視しながら、情報モラル教育に取り組んだ。

実際に取り組むにあたり、インターネットや携帯電話の使用状況についての事前調査を行った。当該学級では携帯電話の所有率が約６割、インターネットの使用率は95%という状況である。

学習の展開は３次に分けて行った。１次がデータのコピーに関して、アナログ方式とデジタル方式の違いをゲーム感覚で学ぶ内容、２次がネットワークの仕組みをゲーム感覚で学ぶ内容、３次が学習のまとめとして、情報モラルについて児童が考えるという内容である。

子どもたちが、ネットワークの仕組みを理解するとともに、実際にゲーム形式で楽しみながら、ネットワークの向こうにも相手がいるということを学ぶことがでた。また、相手意識を考えた言動を意識することができるようになった。今後さらに増加していくであろう諸問題に対応していくために、情報モラル教育の質を高めるとともに、児童のコミュニケーション力を高めていきたい。

２　協議内容

各学校のモラル教育の様子を交えながら、質疑応答が進められた。主なやり取りは次の通り。

「この学習に取り組む前後での、子どもたちの様子の変化について知りたい。」

「相手に対する言葉遣いから、相手意識の不足を感じていたが、思いやる態度の指導ができ、子どもたちの発言にも相手を思いやる気持ちが表れ始めた。」

「相模原の中学校では昨年度ハンドブックを発行し、指導・活用についての研究をした。しかし、LINEなどのコンテンツでいじめの動画を流す行為があり、学校が把握できない大きな問題が山積みになっている。」

「小学校では、懇談会で資料を配布したり、警察や業者の方に講演をお願いしたりしている。家庭でも、実際にどう指導してよいか分からないという声もあるので、保護者にも積極的に参加してもらい、お互いの共通認識をもてるよう努力している。」

「LINEでも、現実世界のいじめ問題でも、相手の気持ちを考える力、実際に人をいじめることがどういうことに結び付いてしまうかを考え、深く理解する力が必要。今回の取り組みを、家庭にも届けられるようにしていきたい。」

「他者をいじめることがいけないことだと理解はできても、実際の行動に結び付いていないという問題もある。いじめがだめだと言える実践力をつけるのは道徳的な課題。人間教育は利益、不利益ではなく、心情的、道徳的問題として考えなくてはならない。」

３　指導助言

情報モラル教育は私たちにとって悩みの種のひとつだが、今回の提案では楽しみながらゲーム感覚で学べるという工夫があり良かった。情報技術は子どもたちの生活にも入りこんできているので、その特性に応じた対応を

学ぶことも大切である。

また、コミュニケーションの在り方について考えさせることも大切。スマートフォンの向こうにはどんな人がいるのか、相手の気持ちを思いやるということの大切さを繰り返し伝えようとしていた点が評価できる。

また、情報化社会を生き抜いていく力をつけさせることも大切。現実社会のでの利益、不利益を良く考え、どのように行動することが正しいのかを理解し、実践する力を身につけさせていきたい。そのためには、家庭との連携も必要､本人のモラル意識を育てるのは、家庭と学校のどちらも大切な役割を果たしていけるだろう。

提案内容（２）

『中学校社会科における 50 インチ TV の活用』
～セットトップボックスの活用～

１　提案趣旨

横浜市の中学校では、校内サーバに蓄積した動画や音声、画像などを各教室の大画面テレビで視聴することができる。

視聴に関しては、各教室の大画面テレビに接続されたセットトップボックスを操作することが必要だが、リモコン操作だけで視聴でき、扱えるファイルも多く、汎用性が高い。

校内 LAN の回線を通してデータのやり取りをするので、学校の状況によっては通信速度の低下､画像の乱れなどが出ることもあるが、画質を抑え、データ量を少なくしたり、配線を見直したりすることで対応している。

２　協議内容

機器の活用について、学校の現状を交えながら質疑応答が進められた。主なやり取りは次の通り。

「デジタル放送が映らない学校もあるので、小学校にも早く入ってほしい。朝の歌や、学習状況調査のヒアリングテストなども端末操作でできるので効率的。ただ、デジタルビデオカメラの接続の仕方が複雑な点と、端末をリモコンでしか操作できない点については、今後の改善を期待したい。」

「小学校への設置についても検討中。ただし、著作権については十分注意して使用してほしい。たとえば、デジタル放送であれば授業の中で録画したコンテンツを利用することは認められているが、サーバに録画データを蓄積して複数の教員が利用することは現状認められていない。取り扱いには著作権の知識が必要になってくる。」

「相模原では以前にコンテンツサーバと呼ばれるものがあったが、汎用性が低かった。今回提案された機器はいろいろなメディア形式を扱えるので非常に汎用性が高い。相模原市では、今後コンテンツサーバとセットトップボックスの統合を進めていく予定。」

「昼の放送でセットトップボックスを活用している。通信がダウンしたこともあるが、再起動で復旧できる場合が多い。操作がリモコンだけということもあり、家庭のテレビを操作する感覚で扱えるので使い勝手がよい。」

３　指導助言

映像の受信についてのトラブルに関しては、ネットデイで設置したケーブルが旧式のものであることも原因の一つとなる。デジタル放送の配信にはギガビットベースの通信環境が必要になるので LAN の設置状況を確認しておいて頂きたい。

好きな映像を好きな場所で見られるということはセットトップボックスならではの利点。逆に LAN の回線を利用して各教室からデータを保存したり、場合によっては生中継をすることもできる。

スクールニューディールで中学校に設置され、活用状況が気になっていたが、今回の報告を聞き安心した。映像があることで児童の取り組みの意欲も違ってくる、今後もぜひ活用していただきたい。

社会科学習指導案

横浜市立東汲沢小学校
指導者　吉田　圭一

１　日時　　平成 25 年 12 月４日（水）５校時　パソコンルーム

２　学年　　第４学年２組　29 名

３　単元名　　「入り海を新田にした吉田勘兵衛」

４　単元について

（１）単元目標

吉田新田の開発について調べることを通して、地域の発展に尽くした先人のはたらきや願い、工夫や努力について理解し、それによって地域の人の生活が向上したことを考えるようにする。

（２）単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度 【関】	社会的な 思考・判断・表現 【思】	観察・資料活用の技能 【技】	社会的事象についての 知識・理解 【知】
①吉田新田が作られた背景や地域の発展に尽くした吉田勘兵衛や先人の働きに関心をもち、それを意欲的に調べる。	①吉田勘兵衛や新田開発に従事した先人たちの工夫や努力、当時の人々の願いについて学習問題や予想、学習課題を考え表現する。	①吉田勘兵衛や新田開発について、必要な情報を集め、読み取る。	①地域の人々の生活の向上に尽くした吉田勘兵衛の願いや働き、努力について理解する。
②それらが人々の生活にどのような影響を及ぼしたかを調べてよりよい社会を考えようとする。	②地域の発展を願ってきた先人の業績と地域の人々の願いや生活の向上を関連づけて考え、適切に表現する。	②調べたことから必要なことを選んで年表や作品などにまとめる。	②新田開発の結果が地域の生活にどう影響を及ぼしたかを理解する。

（３）単元計画

	主な学習活動と内容　☆協働的な学び　【】評価	主な資料●教師の支援◇
１次　つかむ	１、吉田新田の場所を知り、今と昔の様子のちがいについて考えよう。（２時間）【関①】【技①】【【思①】 〇入り海だったことを知り、感想を出し合おう。 ・横浜市の地図で新田のあった位置を確認する。 ・360 年前は家が少なくて、緑が多かっただろう。 ・人もあまり住んでいなかっただろう。 ・埋め立てた広さはどのくらいなのだろう。 ・スタジアム 44 個分って言われても分かりづらい。 〇小学校だといくつ分なのか調べてみよう。 ・こんなに広い土地を当時は誰が、なぜ、どのようにして埋め立てたのだろう。 ２、江戸時代という今との生活や社会の様子の違いを知ろう。（１時間）【技①】【思①】 〇今から３５０年前の横浜の様子やくらし、吉田新田についてお話を聞こう。 ・今は全て陸地であるが、江戸時代は浅い波の静かな入海であった。 ・吉田勘兵衛さんが中心となって入り海を埋め立てた。 ・入海の陸地にほぼ沿う形で２本の川を作った。 ・その為に川に沿って堤と潮除堤(石垣も作った)を長く築きあげた。 ・当時は入り海を埋め立てて田んぼにするとお米がとれて、生活が豊かになるだろうと考えていた。 ・当時の人々は埋め立てを喜んだのだろうか。 ・機械もない時代にどうやって埋め立てたのか。 ・どれくらいの費用と時間がかかったのだろう。	●横浜俯瞰圖 ●「吉田新田ができるまで」 ●現在の関内付近写真 ◇吉田新田が現在の横浜の中心地であることに気づくようにする。 ◇自分の学校との位置関係をとらえるようにする。 ◇小学校の大きさを敷き詰めながら、吉田新田の大きさが理解できるようにする。 ◇横浜歴史博物館の学校連携担当(エデュケーター)慶徳先生のお話を聞きながら具体的な課題をもてるようにする。 ●入海の様子の分かる絵図 ●新田が出来た絵図 ◇聞いたことから、必要なことを選んでノートにメモするようにする。

入り海はだれが、何のためにうめ立てたのだろう、
またどうやってうめたてたのだろう

2次 調べる	3、吉田新田の埋め立てについて調べよう。（7時間） 〇吉田勘兵衛さんはどうやって入り海のうめたてを完成させたのだろう。【技①②】 「この模型写真から気付いたことを出し合おう」☆ ・土をかためている ・たくさんの人が協力している。 ・スコップみたいな道具をつかっている。もちろん機械はない。 ・船で運んでいる。土かな石かな？ ・当時は手作業が主だった。 ・海を内と外で分けていたような工事じゃないか。 ・どれだけ大変なんだろう。 〇石や土はどうやって運んだのだろう。【思①】☆ 「実際に昔をイメージして体験してみよう」 ・実際にもっこで土や石を運んでみるととても重い。 ・とてもじゃないけど、やりたくないだろう。 ・すごく時間がかかりそうだ。 ・すごく危険な作業だったのではないかな。 ・なぜこんな埋め立てしたんだろう。 ・どれだけの人がかかわったのだろう。 ・どのくらいのお金がかかったのだろう。 ・大変だからこそ、工夫していたに違いない。 〇新田づくりには、どんな工夫があったのだろう。 ・新田の範囲を決める堤からうめ立てた。（大堰） ・石積みの土台のされた潮除堤が作られた。 ・堤というものを作って、海を干上がらせる方法で埋め立てた。 ・埋め立てというよりは干たくらしい。 ・たくさんの土は天神山や大丸山の崖を崩してとったらしい。 ・やっぱり土は近くからたくさん運んだんだ。 ・遠くからも出稼ぎで来ていたらしい。 ・千葉や伊豆（静岡）から運んだらしい。 ・なぜ、全部埋め立てないで沼を残し、水門を作ったのだろう。 ・吉田勘兵衛さんについて知りたくなった。 〇吉田新田ができるまでを年表にまとめよう【技②】 ・幕府からゆるしをもらった。 ・年表を見ると、11 年もかかっている。 ・一度失敗もしている。 ・完成して「吉田」の姓をもらった。	●「吉田新田ができるまで」表紙の写真 ●関東南部の地図 ●吉田新田堤普請作業風景想定模型写真 ◇実際に道具を使った土を掘ったり運んだりすることを体験させ、手作業と簡素な道具を用いて埋め立てを行った苦労や工夫を実感的にとらえられるようにする。 ●横浜の新田と埋立 ◇年表から埋め立て工事の大変さや、今に至る発展について俯瞰できるようにする。 ●デジタル吉田新田 ◇CG やインタビュー、当時の想像図などをたよりに作られたビデオクリップから、必要な情報を見つけ出せるようにする。 ◇当時の苦しい農民の暮らし、封建社会のしくみと関連付けながら、深入りしない程度で説明をする。 ◇吉田勘兵衛や吉田新田ができあがるまでを年表にまとめられるようにする。

	○吉田勘兵衛さんってどんな人だったのだろう。【思①】 ・大阪で生まれたから、横浜の人ではない。 ・そもそも勘兵衛さんは木材と石材の商人だった ・一度失敗していても、何度も村人を説得した。 ・説得が上手だったのかもしれない。 ・協力者がたくさんいて、力をもった人だったのかもしれない。 ・でも、吉田新田ができたあとも横浜に住み続けたらしい。 「なぜ吉田勘兵衛さんはこの入り海に着目したのだろう。」 ・古地図を見てみると、上流には船が無い。 ・大岡川から流れる土砂のためにとても浅く、埋め立てしやすいと気づいた。 ・ここならたくさんのお米がとれると思ったに違いない。 ・商人だからもうけようとも思ったのかな？ ○吉田勘兵衛さんは大変な思いをしてまで、なぜ新田づくりをすすめたのだろう。【知①】 ・協力してくれた村人のために諦めるわけにはいかない。 ・苦しい暮らしをしていた村人たちを開放してあげようとした。 ・横浜が気に入ったからかな。 ○吉田新田が完成した後、人々のくらしはどう変わったのだろう。【思①】 ・吉田新田ができて、周りの村の生活も変わった。 ・新田ができたことで、お米がたくさん収穫できるようになった。 ・お金もすごくかかっている。 ・山が切り崩されて、土地が広がったことなどで周りの村の耕作地が広がった。 ・幕府から「吉田」の姓をもらった。身分が高くなった。 ・勘兵衛さんだけでなく、いろんな協力者が力を合わせたことも忘れちゃいけないな。 ・今でも当時の新田開発に関係したものが残っている。 横浜にはこんなすごい人がいた。学習したことをまとめよう。	●「吉田新田ができるまで」表紙の写真 ●改訂前教科書 ●わたしたちのよこはま（戸塚区版） ◇根拠となる資料を示して、人物を想像することで、根拠をもった話し合いができるようにする。 ●「わたしたちの東」 ●「横浜開拓の先駆者吉田勘兵衛」より抜粋 ◇吉田勘兵衛本人について知る資料が少ないことから、当時の時代や先人の生き方ややり遂げる想いにつて想像することを大切にしたい。 ◇「お三の人柱」についてはあくまでも伝説として深入りしないようにする。 ●「わたしたちの横浜」 ●周囲の村の石高 ◇年表を参照しながら、発展への足がかりを築いた勘兵衛たちのすばらしさや努力に着目させ、先人への敬意や学んできたことの価値に気付かせるようにする。 ●日枝神社 ●天神山採掘場石碑写真 ●大井戸

3次 まとめる	4、 **吉田勘兵衛や入海埋め立ての工夫や努力のすばらしさを伝えよう。（6時間）☆**	
	○学んだことを振り返ろう 「吉田新田づくりの工夫や、吉田勘兵衛さんたちの努力などのすばらしさとは何だろう」 ・埋め立てるためにいろいろな仕掛けが工夫されていた。 ・機械の無い時代に人の力だけで埋め立てた。 ・失敗してもあきらめずに工事をやり遂げた。 ・多くの人の協力があった。 ・失敗しても人々を説得した。 ・自分のためじゃなく、みんなのために力をつくした。 ・今の発展した横浜のきっかけを作った。	◇吉田勘兵衛や吉田新田の開発のすばらしさは何か出し合いながら、今までを振り返るとともに、学習したことを伝える意欲をもたせられるようにする。
	「だれに伝えますか」 ・慶徳先生に伝えてみよう ・まだ調べ足りない部分もあるから、しっかり調べて発表したい。 ・来年の４年生にも発表して役立てたい。 「内容や方法はどうしますか」 ・あきらめない吉田勘兵衛さんの人柄や信念、当時の人々の願いと努力、完成した吉田新田の仕組みのすごさ、などのテーマに分かれてグループでプレゼンする内容を考える。 ・それぞれの内容にふさわしい発表方法を選ぶ プレゼンソフトによるスライドか新聞に表す 実物や実演など分かりやすく説得力ある方法を工夫する。	◇発表の相手を明確にすることによって相手意識をもたせ、専門的立場の方に伝えることで目的意識を高められるようにする。
	○発表の準備をする。（本時）【技①②】☆ ・グループでプレゼン内容を検討する。 ・プレゼン用のスライドや新聞原稿を作る。 ・役割を分担し、発表の仕方を工夫する。	◇共有フォルダに今まで使用した資料を保存し、児童が活用できるようにする。
	○リハーサルをする。 ・説得力があり、分かりやすいプレゼンになっているかどうか話合う。	◇根拠となる資料を提示できるようにする。 ◇ICT を用いて学んだことを分かりやすく伝えるようにするとともに、調べたことが確かかどうか確認できるようにする。
	○慶徳先生に伝える。（12 月 16 日）【思②】 ・グループでまとめたことをプレゼンする。	

4次 広げる	5、人々のくらしの変化（2時間） 〇埋め立てられた吉田新田のその後はどうなったのだろう。 【知②】〈吉田新田埋め立てその後について、関内地区の現地見学〉 ・田んぼではなく、商業施設や住宅、横浜の中心地となっている。 〇横浜の先人で、他にもすばらしい人はいるのだろうか。【関②】【思②】 ・高島屋、浅野、ヘボン、パーマーなど	※都市発展記念館・ランドマークタワー見学（12月18日） ●ランドマークタワーからの写真 ●わたしたちの横浜

5　児童の実態

（1） 学びの環境

座席は常に 4 人のグループを組める班とし、そのグループが2つ合わさって 8 人の号車となるように配している。4 人のグループの交流や結束を図るために、学習活動のいろいろな場面でグループ学習を取り入れてきた。また、話し合うユニットとしての機能もあり、隣同士のペアトーク、グループでのファシリテーションを行い、やや固定気味ではあるが小さなファシリテーターが育ちつつある。理科や総合学習において協働的な学習を取り入れ、一人ひとりが適材適所で活躍し一つの「ミッション」をクリアーしていく学習やプロジェクト型の学習も行ってきた。創立記念式での「ひぐミニクイズ」を通した全校への発表の場、体験学習の楽しさを伝えることを通した３年生への発信の場が主な表現の場となり、学習したことを表現する意欲や自信をもつことができた。学級内でもミニプレゼンを行い自分の考えを分かりやすく、説得力をもたせて伝えることに価値を見出し、活動にやりがいをもつ児童が増えてきた。

学級会では、学級目標を作る際の話合い活動において、自分の意見を主張するために、考えの共通点や相違点をはっきりさせ、相手の思いや意図を汲みながら討論ができた。子どもたちだけで折り合いをつけるにはまだまだ力不足な面がある。係活動では、小グループでの活動となるので、建設的妥協点を見出しながら活動するようになった。

自分で課題をもち活動する場面では男女別でのグルーピングにやりやすさを訴えるものの、ついつい慣れ合いとなり課題遂行力や新たな発想に欠ける点が見られる。

（2） 教科学習での学びの姿

国語

「新聞を作ろう」では、子ども向けプレゼンテーションソフトのコンテンツを活用し、デジタル新聞づくりを行った。また「手と心で読む」では、同ソフトによるプレゼンを行い、操作に手間取る友達に積極的にアドバイスし、成果物をデジタルで作成する楽しさを味わうだけでなく、相手を意識して分かりやすく伝える学習をしてきた。

社会

社会的事象と身近なものとを結びつけて学習問題をつくり、問題解決学習を図ってきた。資料収集には図書やインターネットだけでなく、地域の人に聞いたり、市内の施設を見学したりといった自分から動いて獲得する情報を活用する児童もいた。自分が集めた資料にはこだわりがあり、最後まで課題を追求する原動力になっていた。一方で情報を分析し再構成する力は十分ではなく、友達の考えを参考にしたり、多角的な視点を加味した分析したりする力が求められる。

算数

ペア学習やグループでの練り上げを重視してきた。習熟場面では「教え合い」として子どもたち同士で解き方やヒントとなることを個々にかかわりながら伝え合う場面を取り入れてきた。少人数クラスでは、数直線や図を用いて分かりやすく伝えることを目標に考え方を説明する機会をもってきた。

理科

観察する視点を明確にして継続的に植物の観察を行った。子どもらしい予想や概念を受け止めつつ、なんとなくではなく、違いと共通点、根拠に基づく科学的事象の理解を重視した。

体育・音楽

グループ発表や個人指導には ICT 機器で撮影した映像を活用した。技能向上には ICT 機器の活用が効果的と考える児童が比較的多い。

６　研究主題とのかかわり

（１） 研究主題

教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン

（２） 授業デザインのとらえ

２１世紀型学力であるコミュニケーション力の育成のために、対話、交流、討論、説得・納得といった学習段階が欠かせない。社会科は言語活動を充実させながら思考・判断・表現することを重視したい。

中でも根拠をもとに話し合うこと、考えたことをまとめて交流すること、プレゼン作成に向け内容や表現を試行錯誤すること、発表を聞き合い意見を交流しあうことは、思考力・判断力・表現力を育む機会と考える。

ところが歴史学習をしていない４年生の実態として、社会的事象である先人の努力や工夫に迫ることは容易ではない。そこで本単元では、資料集、絵本、写真に加え、ゲストティーチャーによるお話やデジタルコンテンツ「吉田新田」といったいろいろな資料にふれることが、問題解決学習を支えると考えた。

また、まとめの段階では子ども向けのプレゼンテーションソフトを使用したプレゼンをする。相手に分かりやすく効果的に伝えるためにツールであるとともに、調べたことや学んだことを再構成し、説得力をもたせることができると考えた。

こうした教科の目標を達成するために、児童の実態とつけたい力、教師の願いとを関連付けながら、教授方略、学習条件を工夫することを授業デザインとしてとらえる。

（３） 主題に迫るための手立て

①思考の共有と可視化

小グループで思考を共有したり可視化したりするツールとしてホワイトボードを活用していく。製品によっては資料やワークシートを拡大したものを下敷きに、自由に書き込めるものもある。課題が焦点化され視点が絞られれば、児童の議論がより活発になると考える。

②切実感と相手意識

実際に目にすることのできない歴史的事象にふれて先人の努力や工夫、信念について想像することは容易ではない。そこで、単元の導入とまとめの部分で「横浜市ふるさと歴史財団」エデュケーターの慶徳氏と連携をとることにした。横浜の今と昔を比較し、新田開発のいきさつや当時の時代背景をわかりやすく解説してもらうことで、自分たちが住むまちについて、より切実感をもって課題と向き合うことができるだろう。そして、自分たちが調べたことが最終的に次の４年生にも役立ててもらうために、発信者の責任として調べて考えたことがより確かなものになるよう、専門的知識のある「慶徳先生に納得してもらうようなプレゼン」を目的とした。自分たちの学習を発表する相手の一人として設定することで相手意識を明確にし、切実感をもった学習が展開できると考えた。

③多様な資料とふれる必然性

本単元では教科書以外の多様な資料の活用なくして学習は進められない。「私たちの横浜」、博物館刊行の冊子「吉田新田ができるまで」などの紙媒体以外にも、YYnet 上にあるデジタルコンテンツ「吉田新田」の活用が中心となるだろう。その際、テキストの文字情報以外にも映像や画像から読みとること、多くの情報から選択することは情報活用能力を育成するチャンスである。本研究会が担うべき部分であると考える。

７　本時について

（１）本時目標

新田開発の工夫や新田開発を進めた吉田勘兵衛の努力について学習したことまとめ、相手に説得力のあるプレゼンを考える。

（２）本時展開（１０/１３）

学習形態	学習活動「」発問　・予想される児童の反応、活動	◇教師の支援　★ICT 活用
	吉田新田づくりの工夫や吉田勘兵衛さんたちの努力のすばらしさを伝えよう	
全体	１、活動内容の確認をする 「入海のうめたてや吉田勘兵衛さんのすばらしいところは何だろう？」 ・失敗してもあきらめずに工事をやり遂げた ・自分のもうけではなく、村人のために新田をつくった ・新田づくりに工夫があった 「だれに伝えますか」「どうして」 ・慶徳先生 ・次の４年生が役立つよう、内容に責任をもたせるため	◇学習してきたことが振り返りやすいよう掲示物を工夫する。 ◇自分が調べた資料やノートを活用できるようにする。 ◇年表や時代背景を把握させ、新田開発に取り組んだ先人たちの信念や努力に気づくようにする。
小グループ	２、発表内容やプレゼンを考える 「具体的な発表内容を決め、説得力のあるプレゼンを考えよう」	

	＜予想される主なグループ＞ 【新田開発】 見事な潮除堤 多くの人の力で機械が無くても工事を完成させた 水門やあえて残した沼の意味 開発の結果米の収穫量が増え、くらしが豊かになった 【人物】 あきらめない吉田勘兵衛さんの信念 当時の吉田勘兵衛さんは村人や役人をこう説得した 年表などで工事の大変さや勘兵衛さんの努力を伝える	
	3、グループでスライドの内容や構成を話し合う 「プレゼンする内容をはっきりさせて、関係する資料を選び、原稿や記事を考えよう」 ・スライド構想図や新聞シートをもとに完成を見通す。 ・共有フォルダや資料から使いたい資料を選ぶ。 ・分かりやすい説明になるよう、スライドの言葉を工夫する。 ・説得力ある説明になるよう、話す原稿を工夫する。 ・事実か自分たちが考えたことなのかを分けて表現する。 ・根拠となる資料を示す。 「プレゼンに説得力をもたせるために、どんな資料を使うか、どんな見せ方をすればいいか話し合う」 ・年表を作る。 ・実演する。	◇単なる予想ではなく、根拠となる資料を関連付けるようにする。 ◇構想ができあがったグループがすぐにプレゼン作りを始めやすいように環境を整えておく。 ★「子ども用のプレゼンテーションソフト」 ◇ホワイトボードツールや拡大したワークシートを使って、俯瞰しながらブラッシュアップできるようにする。
全体	4、次時の見通しをもつ ・計画がまとまって、活動の見通しの立ったグループの発表を見合う。	◇発表内容と方法に着目させながら、次時の活動の見通しがもてるようにする。

（3）板書計画

吉田新田づくりの工夫や吉田勘兵衛さんたちの努力のすばらしさを伝えよう

＜伝えたい内容＞
- 機械の無い時代の道具の工夫
- たくさんの人々の協力でうめ立てた
- あきらめずに工事をやりとげた気持ち
- うめ立て方を工夫した
- こした沼の意味
- くらしが変化、米の収かく量

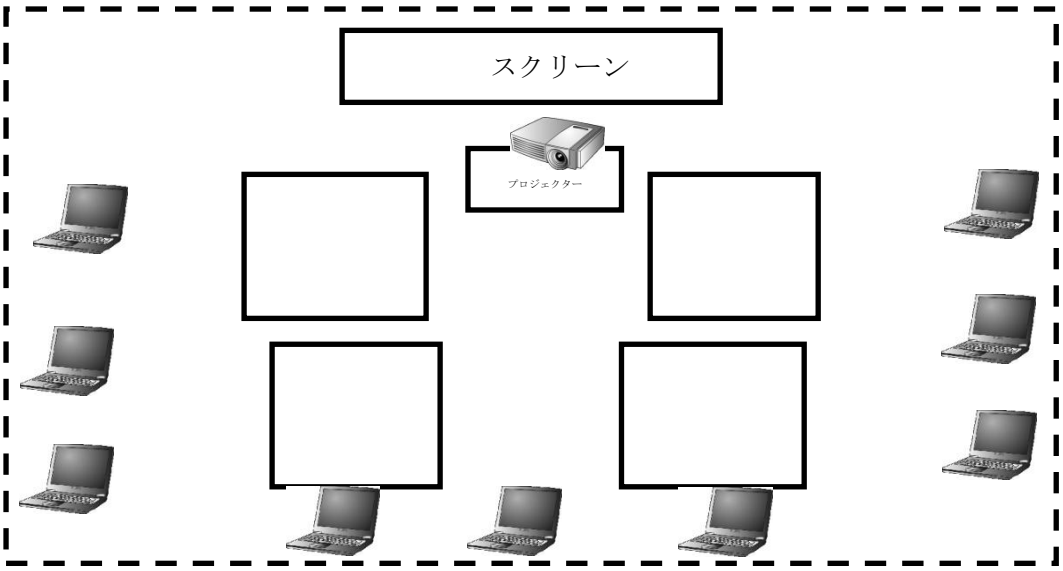
＜だれに＞
- 慶徳先生
- 次の４年生

〈めあて〉
- わかりやすく
- なっとく
- 正しいかどうか確かめたい

（当日資料参照）

（４）場の設定

パソコンルーム



（５）児童の活動グループ

※最大１班４名でのグループを考えている。

※発表する内容や自分たちの ICT スキルを考えて、効果的・効率的に伝えられるよう発表スタイルを選ぶようにする。

発表のスタイル A：スライド・プレゼン、B 新聞・プレゼン

グループ	テーマ・内容	発表スタイル・人数	
１	新田をつくるために使った材料・道具 新田を作るための工夫	Ａ	３名
２	勘兵衛さんがうまれて死んでしまうまでのできごと （年表から分かること、気持ち）	Ａ	４名
３	吉田勘兵衛ストーリー	Ａ	２名
４	米のとれる量のちがい（表）	Ａ	２名
５	新田が完成した後のくらしの変化	Ａ	２名
６	新田を作るときになぜ沼を残したのか	Ａ	４名
７	新田をつくるのに協力してくれた人	Ａ	２名
８	吉田新田の開発から作り終えるまで	Ａ	２名
９	吉田勘兵衛さんの生涯、新田を作り始めた時の気持ち	Ｂ	２名
１０	吉田勘兵衛が作った横浜の今と昔の違い （地図での変化など）	Ｂ	２名
１１	吉田勘兵衛さんの生涯の出来事を、その時の気持ちと結び付けまとめる　（年表）	Ｂ	４名

平成２６年１月２４日

神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会　相模原大会
小学校　第２分科会

思いを伝え合い、学びを深める放送教材

～ＮＨＫ学校放送「いじめをノックアウト」を活用して～

横浜市立茅ケ崎小学校　岡田貴彦

１．学年・組　　第５学年１組　４０名

２．実践時期　　平成２５年度１０月～１月

３．教科・領域
　特別活動「学級活動」（２）日常生活や学習への適応及び健康安全

４．提案理由（児童の実態と教師の願い）
　４月当初から自分の考えや思いを安心して伝え合えるクラスづくりを目指してきた。しかし、子どもの実態として、本学級は在籍が４０人という人数環境、５年生という発達段階からか、学習では発言する児童に偏りが見られるようになってきており、どの学習でも意見を伝えることなく終わってしまう子も少なくなかった。そのために、お互いの意見を認め合うことを大切にし、全教育活動の中でできるだけ多くの児童に発表の機会を与える工夫をしたり、ペア、グループ活動などを取り入れたりしてきた。その中で、教科学習では自信をもって手を挙げることのできない子が学級活動の話合いでは、自分なりの意見を進んで伝えることができる様子が見られていた。
　今回提案する放送番組教材は、社会問題化しているいじめに焦点を当てた番組である。テーマは「いじめが起きても自分たちで解決できるクラスになろう」である。「いじめは絶対にしてはいけません。」「いじめている人はやめなさい。」と一方的な価値を与える指導とは違った視点で話合いができる点がこの教材のよい点であると考えた。「いじめ」は特別なものではなく、いつどこでも起こりうるものであること。いじめのないみんなが安心できるクラスをを作るにはどうしたらよいのか話し合うきっかけを与える構成になっている。自分事として考えてみんなで議論することで初めて、望ましい人間関係を築くことにつながると考える。
　この放送番組教材のテーマに向かって、子どもたち自身がいじめと向き合い、きれいごとではなく本音で話し合っていくことができれば、自分の考えや思いを安心して伝え合えるクラスに近づけるのではないだろうかと考えた。子どもの考え、話合いの様子を中心にして授業を考察して提案をしたい。

５．研究内容
【１】放送番組の特徴（NHK for school 活用パンフレット参照、一部抜粋）
　①　「こころ」をはぐくむ

物語の中に自分もいるような気分になる。登場人物の立場になって、喜怒哀楽をともにし、自分も同じ場面になったらどうするかを考えさせるのは、ストーリー性豊かな番組ならではの効果である。道徳向けの番組をはじめ、さまざまな人の生き方をとらえた番組は、私たちの心を豊かにする力があると考える。

② 考える力を伸ばす

映像には、文字に比べると何倍もの情報量がある。映像にどんな情報が含まれていたか読み取ったことを自分の言葉で表現したり、映像で見た現象がなぜ起きたのか、自分たちで確かめたりしていくことで、考える力を伸ばすことができる。

③ 伝え合う力を伸ばす

番組には、児童と同じ年代の子ども達や少し上の年代の中学生、高校生が登場する。また、有名なアイドルが自分たちと同じ問題に向き合って考えていく姿から、思わず伝えたくなる教材として活用しやすいと考える。

【２】教材について～ＮＨＫ学校放送番組「いじめをノックアウト」～

本番組は「いじめとは何か」「いじめをなくすためにどうすればよいか」を考えてもらい、「いじめをノックアウトできる教室づくり」を目指す内容である。ＭＣの高橋みなみ（ＡＫＢ４８）が次々と投げかけられる「いじめ」に関する質問に真剣に答える姿をドキュメント形式で見せていく。教室の子ども達が高橋さんと一緒に考え、番組を見た後に、みんなで話し合うきっかけを与えることができる。番組自体の対象は小学３、４年生である。

【３】研究方法

（１） ＮＨＫ学校放送番組「いじめをノックアウト」の複数回視聴による話合い活動の様子について

（２） 思いを伝え合うためのワークシートの活用について

６．研究実践

（１） 放送番組利用回数７回

① 第１回「ガマンしちゃだめ！」
② 第３回「いじりが暴走する時」
③ 第４回「いじめたい気持ち・・どうする？」
④ 第５回「けんかといじめの違いって何？」
⑤ 第６回「いじめの目撃者になった時」
⑥ 第９回「これがぼくらの“ノックアウトパンチ”だ」
⑦ 第１０回「最後に絶対に忘れないでほしいこと」

（２） 主な学習過程

１．番組を視聴する
２．問題１に対する考えをワークシートに書く
３．友達と考えを伝え合う
４．問題２に対する考えをワークシートに書く
５．話合い活動を通して自分の考えを深める
６．学習感想を書く

（3） 本時授業について

（6／7時　第9回「これがぼくらの“ノックアウトパンチ”だ」視聴回）

学級活動　（2）　日常生活や学習への適応及び健康安全

1　題材名　　いじめが起きても、みんなで解決できるクラスをつくろう

2　内　容　　（ウ）望ましい人間関係の形成

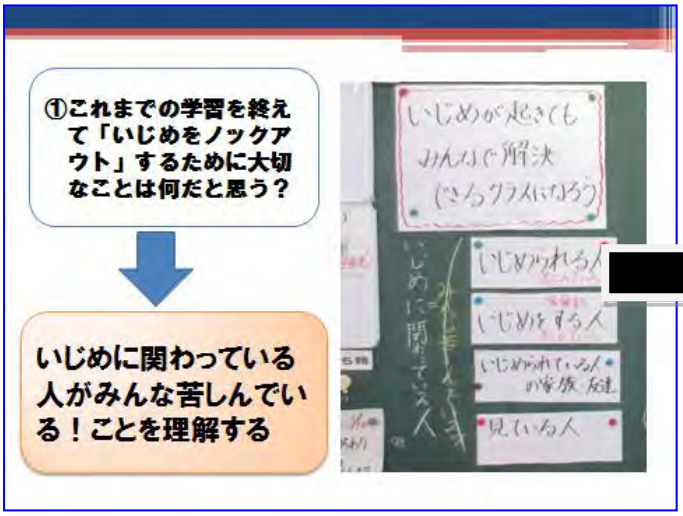
3　ねらい

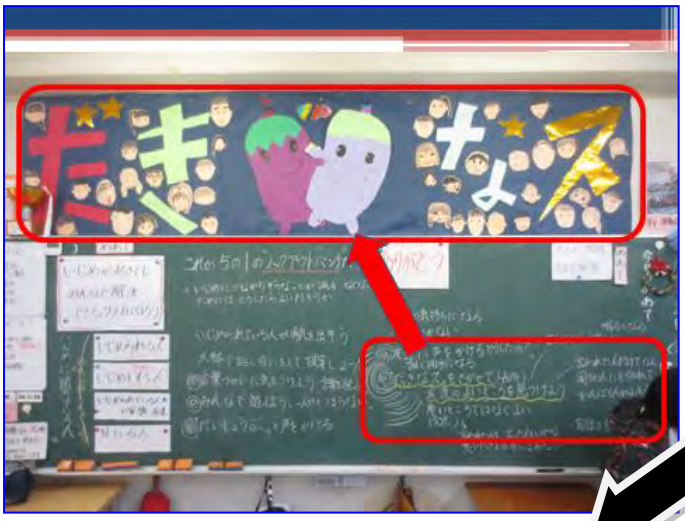
○いじめが起きないためにはどうしたらよいか考え、5年1組の“ノックアウトパンチ”を話し合って決めることができる。

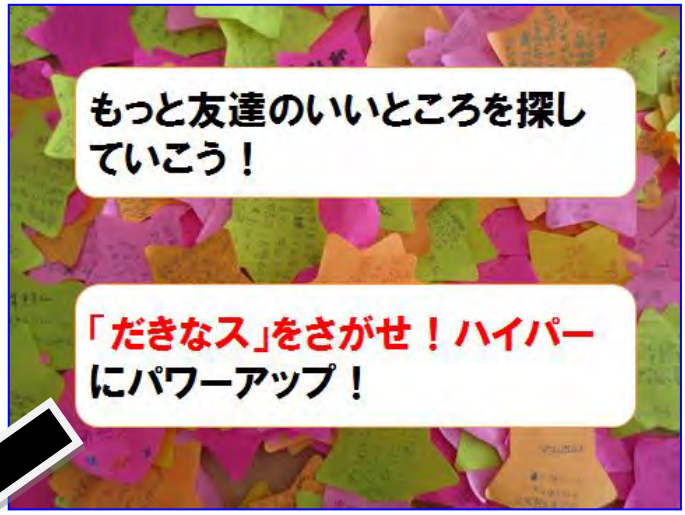
4　展　開（6／7）

流れ	子どもの活動と内容	教師の支援
事前	【問題の共通化】 ○放送番組を5回視聴し、思いを伝え合い、認め合う大切さに気付く ○「いじめ」について様々な立場の視点から考えを深める	○これまでの学習のワークシートから子どもの考えを把握しておく
本時	【話合い・自己決定】 1．前時までを振り返り、ワークシートの問題①「これまでの学習を終えて、『いじめをノックアウト』するために大切なことは何だと思う？」に自分の考えを書く 2．書いた考えを伝え合う 3．本時の学習課題を確認する みんなで話し合って、これが5の1の“ノックアウトパンチだ！”を決めよう！ 4．放送教材「いじめをノックアウト」を視聴する 第9回「これがぼくらの“ノックアウトパンチ”だ」 5．ワークシートの問題②「5年1組では、どんな“ノックアウトパンチ”が見つかるかな？自分の考えを書いてみよう」に自分の考えを書く 6．クラス全体で話し合って“ノックアウトパンチ”を決める 7．本時の振り返りをする	○本時がいままでの学習のまとめの位置づけと捉えるため、前時までの振り返りを短時間で行っておく。 ○ＢＤプレーヤーで視聴する ○できるだけ具体的に実践できるものを考えるように声をかける。 ○クラスで決めたことに向かって自分はどのようなめあてで取り組むのか考える。
事後	【実践】 ○毎日の帰りの会で行っている『「だきなス」をさがせ！』で友達の長所、がんばりを認めて発表するように取り組む 【振り返り】 ○友達の実践を知り、さらに意欲を高める ○認め合いをこれからも続けていこうとする	○年間を通して記録をし、学級目標達成に向けて具体的に取り組めるようにする ○十分に時間を確保する ○よいさがし方をしている子どもの実践を称賛する

（4）本時の授業の様子

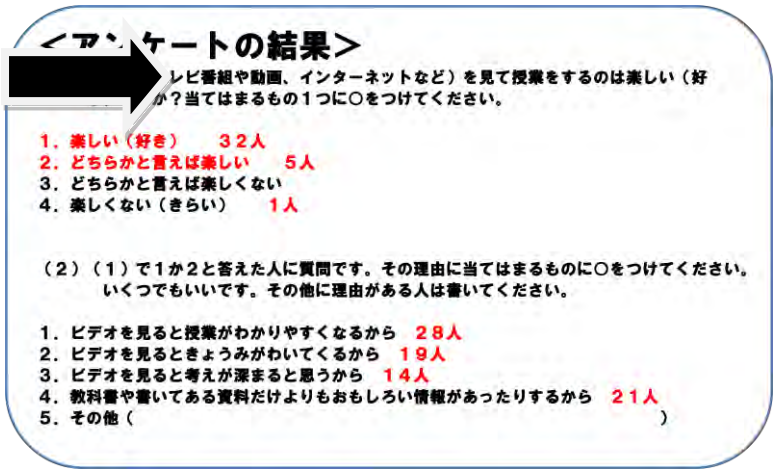






7．成果と課題　～授業を振り返って～

① 放送番組に興味をもって真剣に視聴し、自分の生活とつなげて意欲的に取り組むことができた。放送番組（ビデオ動画含）を活用した授業について本学級でアンケートをとった結果、楽しい（好き）と答えた児童が３２名もいた。放送番組を効果的に取り入れて授業を組み立てることは意欲を持続させるのに有効な手立ての一つになると考える。

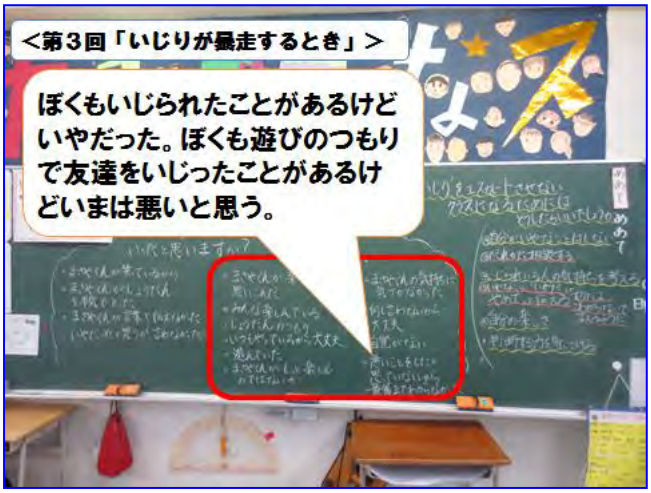


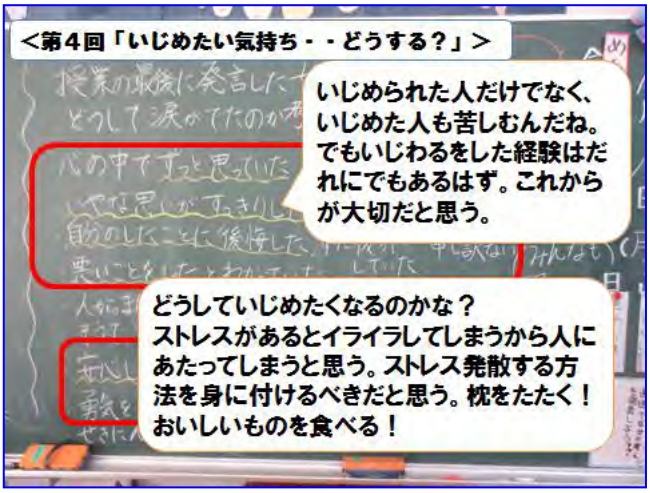
② 放送番組教材を７回視聴して、同じ学習の流れで話合い活動に取り組むことで、学習の仕方が身に付き、安心感をもって思いを伝え合う姿が見られた。また、教材として、子どもの実態を考え、視聴する目的を明確にもって意図的計画的に視聴計画を立てていくことで子どもの思いを引き出すことができた。

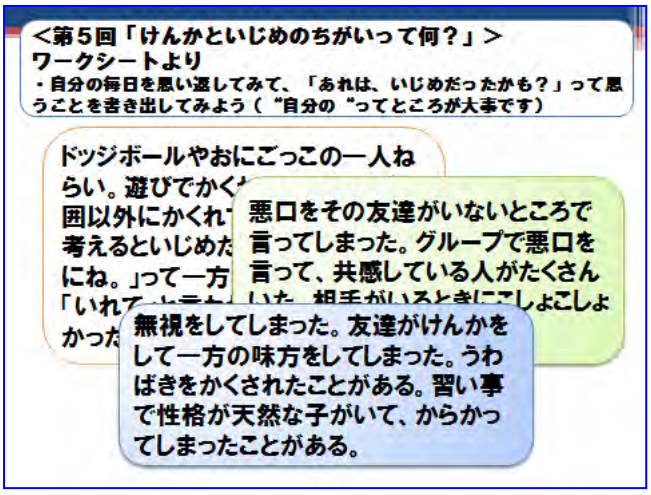
③ ワークシートで問題にじっくりと向き合い、自分の考えをもってから話合いに取り組むことで、お互いの共通点や相違点に気付きながら話合いができた。

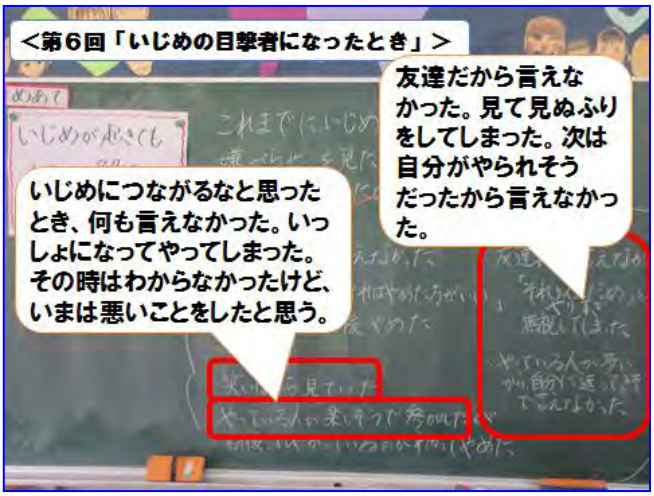
④ 考える問題を２つ程度にしぼることで、伝え合う時間を確保し、ねらいを達成することができた。それでも、初めは話合いを深める時間の確保が難しかった。毎回の番組を事前に教材研究し、何を視点に話合いをすることが子どもの実態に合っているのか考えて授業をデザインしていくことが大切である。

⑤ 自分事にとらえ、本音で言える雰囲気を作ることが大切。「いじめはダメ」だけでなく、いじめにつながることはどこにでもあり、起こったときにどう関わるか、解決するかが大事であると番組は伝えている。この教材はどれだけ自分事に引き付けて考えられるかで授業の質が変わってくる。本音で語って考えられる授業の組み立て方が難しかった。

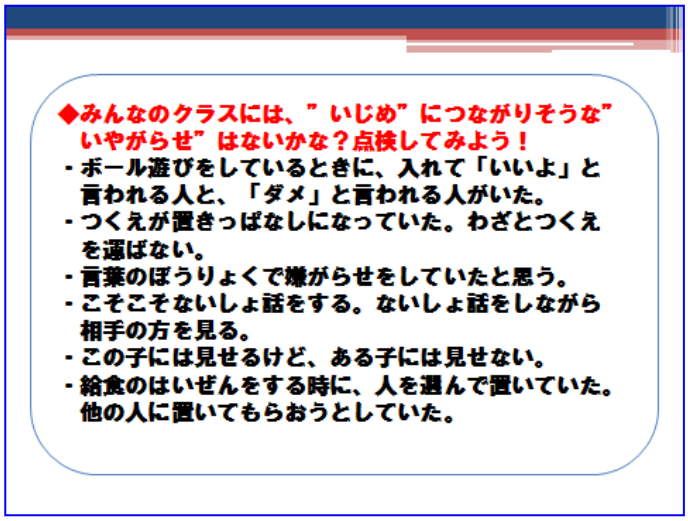

＜第３回「いじりが暴走するとき」＞
ぼくもいじられたことがあるけどいやだった。ぼくも遊びのつもりで友達をいじったことがあるけどいまは悪いと思う。


＜第４回「いじめたい気持ち・・どうする？」＞
いじめられた人だけでなく、いじめた人も苦しむんだね。でもいじわるをした経験はだれにでもあるはず。これからが大切だと思う。
どうしていじめたくなるのかな？ストレスがあるとイライラしてしまうから人にあたってしまうと思う。ストレス発散する方法を身に付けるべきだと思う。枕をたたく！おいしいものを食べる！


＜第５回「けんかといじめのちがいって何？」＞
ワークシートより
・自分の毎日を思い返してみて、「あれは、いじめだったかも？」って思うことを書き出してみよう（“自分の“ってところが大事です）
ドッジボールやおにごっこの一人ねらい。遊びでかく
囲以外にかくれ
考えるといじめた
にね。」って一方
「いれて
かった
悪口をその友達がいないところで言ってしまった。グループで悪口を言って、共感している人がたくさんいた。相手がいるときにこしょこしょ
無視をしてしまった。友達がけんかをして一方の味方をしてしまった。うわばきをかくされたことがある。習い事で性格が天然な子がいて、からかってしまったことがある。


＜第６回「いじめの目撃者になったとき」＞
友達だから言えなかった。見て見ぬふりをしてしまった。次は自分がやられそうだったから言えなかった。
いじめにつながるなと思ったとき、何も言えなかった。いっしょになってやってしまった。その時はわからなかったけど、いまは悪いことをしたと思う。

⑥ 何か問題が起きた後に取り組むのではなく、意図的計画的に「いじめ」に向き合うことができた。ワークシートでは、私が気付いていない問題がクラスで起きていることを知った。子どもの思いを見取り、友人関係や集団の問題点を把握し、授業以外の学級経営にも生かすことができたことがよかった。



⑦ 第１０回「最後に絶対に忘れないでほしいこと」子ども達のワークシートより

◆この学習を通して、自分の考えや行動が変わったと思うことはありますか？どんなところが変わったと思いますか？

・友達にいつもよりずーっと優しくできた。自分の気持ちをいーっぱい伝えられた。
・お母さんと学校のことをよく話すようになった。いままでの人のなやみを聞いたりしている。私は自己中心的でいたので相手の気持ちを考えるようになった。
・そうじの時、みんなで机を全員のやつを運ぶ。
・いじめになりそうなのを見たら少し言えるようになった。
・前のこの勉強の時に「いれて」と言われた時に断ると書いたけど、たくさんの人と遊ぶようになった。
・「ノックアウトパンチ」の「だきなス」をさがせで友達のよいところを見つけよう！」をよくやるようになったと思います。前は週に1度くらいだったけど、今は3、4日に一回は言うようになった。

◆いじめについて、あなたが「ぜったいにわすれない」と思ったことは何でしょうか？

・今までいじめは遠いものだと思っていたけど、“いじめ”は身近なことだということを感じました。友達一人一人を大切にしていくということを中学生になっても、高校生になっても大切にしていこうと強く思いました。
・これからの活動で、いじりをいっぱい見ていくと思うので、その時、エスカレートしているかの判断をちゃんとしていじりといじめを判断していきたいと思いました。「だきなス」に向けてがんばっていきたいと思いました。
・この間やった「これがぼくらのノックアウトパンチだ！」の友達の悪いところではなく、良いところをたくさん探す！5の1のノックアウトパンチを絶対に忘れない！そして自分の考えを伝える！
・友達を大切にすること。自分の考えも言えるようになること。自分たちのノックアウトパンチをすること。特にノックアウトパンチをすることです。長所を見つけられたら、言われた人もうれしいし、言った人も次は自分が言われるようにといいところを探す自信がつくからです。大人になっても、小学生のときと同じでうれしいと思う。

・いじめをノックアウトを見るまでは、自分も少し、いじめている方でした。でもこれを見て、今まで自分がしてきたことを理解してもうこんなことはしないと言い聞かせました。言い聞かせた結果がいまの生活です。この生活をみださず今後も過ごしていきたいと思います。
・ぼくはこの授業を受けて、一番思ったことは絶対にいじめてはいけないことといじめられている人がいたら、そっこく先生にちくるということを覚えた。
・私が一番忘れたくないことは、「いじめが起きないクラスになるように心がけること」。みんながみんなの良い所、悪い所をよくはあくした上で、日常生活をしていけたら、みんながこのクラスのことを大切に思うようになり、いじめも起きなくなると思います。
・わたしも小さいころ、いじめられたのを今でも覚えています。その人たちが覚えているのかはわからないけど、私は覚えています。小さかったから遊び半分だったかもしれないけど傷つきました。高橋さんの言う通りで一生覚えていて、抱えることにもなると思います。ただ、私は相手のため・・と思ってがまんしてしました。この勉強をして、思ったことはしっかり伝えようと思いました。

⑧ この教材を第５学年での取り扱うことは時期として適切かどうか。製作者側は第３、４学年向けの番組として製作している。実態や扱い方、放送回の内容などによって十分高学年での活用も有効であると思われるが、「いじめ」という内容を扱っていることとクラスの実態を十分に捉えておくことが必要であると感じた。

平成２６年2月１２日
神奈川近代文学館

平成２４年度横浜市小学校教育研究大会・二次大会
情報・視聴覚教育研究大会

１　はじめの言葉　　田中校長先生（谷本小）

２　役員紹介

運営：佐野先生（三ツ境小）　　司会：東森先生（常盤台小）
記録：武井先生（奈良の丘小）
講師：横浜市教育委員会指導企画課　指導主事　松田裕先生

３　研究発表

【授業デザイン部会】

教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン
～主張的レベルでのコミュニケーションをめざして～

港北小　近藤先生
東汲沢小　吉田先生

今年度は、昨年度「コミュニケーション力」についての会員間による共通理解や、コミュニケーションする力を形作る要素への焦点化を行ってきた活動を踏まえたうえで、「主張的レベルのコミュニケーション力」をアップしていくための研究を行った。また、活動の中で意識的にワークショップ形式を取り入れることで会員間の交流や、会員自身のコミュニケーションの力を伸ばすことにも意識した。

活用される教育メディア

＝ICT 機器（PC　大型テレビ　書画カメラ）＋情報ソース（動画　静止画）

効果的な活用の基盤

＝機器や情報ソースを活用することで、自分の考えをより効果的に伝える
（教師の子どもの見取りにも役立つもの）

コミュニケーション力の分析

①対話　②交流（協調的レベル）→③討論　④説得／納得（主張的レベル）
（多様性の理解）⇔（最適化の追究）

【公開授業研究会の振り返り】

「入海を新田にした吉田勘兵衛」

実践にあたって感じたこと

◯授業一時間だけでは、コミュニケーション力を伸ばすことはできない。
　◯学級経営、国語、理科・・・多教科／多領域で育む必要がある。
　◯主張的レベルのコミュニケーション力をどう育むか
　　→対話・交流を促進し、説得・納得の場面を意識
　◯教育メディアをどのように効果的に活用していくか
　　→児童用プレゼンテーションソフトの利用
　　→「デジタル吉田新田」etc の多様な資料
　◯教科の目標を達成しくための手段になっているか

一人ひとりが学びを大切にして、進んで問題解決を図っていける力をもたせることが大切。
考えを伝え合う力をつけさせたい　人前で発表する喜びをもたせたい

【授業への取り組みの中から】

①思考の共有と可視化（まなボード）

※少人数の協働学習で行うことができ、児童の学びにつながった。

※事実と想像を分けて話すことで、他グループとの共通点／相違点を明らかにすることができた。

②切実感と相手意識

横浜歴史博物館のエデュケータの先生に教えてもらい、調べたことを伝える相手を意識した。

③多様な資料にふれる必然性

−成果として感じられたこと−

☆資料活用により、確かな根拠を持って、説得力を高めていった。
☆先人の工夫、努力・願い、想像・・・社会科の目標にも迫れた。
☆ICT 機器を使うことで、繰り返し資料を確認したり、試行錯誤したりしていた。
☆場数を踏んで、自信をつけていく

−今後の課題−

①デジタルかアナログかの選択は児童にゆだねる
②意欲持続だけでない ICT 活用を考えなくては行けない
③説得・納得のとらえをしっかりと教師側で共有しておく必要性
④高まり深まりのある協働学習
⑤既存環境の生かし方→タブレットが入るともっと効果的になる

来年度に向けて

画像／映像／図表などを介してのコミュニケーション
思考ツールを活用してコミュニケーションの可視化
子どもたちの思考がそのまま残っていくような手立てを考えていきたい

【スキルアップ部会】

教員の IC 活用能力のスキルアップをめざして

いぶき野小　伊藤先生

一年間を通して、教員が学校内の情報機器を日常的に活用し円滑な運用ができるように意識して活動を進めることができた。また、子ども同士のコミュニケーションツールの一つとしての情報機器を活用することで、子どもたちのコミュニケーション力を向上させることにつなげていきたい。

（活動報告）

①校務システムの基本的な使い方～いぶき野小を事例に～

②ICT 機器の新たな活用方法や情報交換

～教室内 PC の有効的な使い方　タブレット　ペンタブレット　音楽編集・・・～

③YYNET の活用について　～今後の学習環境の変化・次期 YYNET について～

④１０月合同会員研究　公開授業研究会　指導案検討　ワークショップ形式

⑤１１月合同会員研究　公開授業研究会　指導案検討　ワークショップ形式

⑥　１月　タブレット PC を使った実践研究　～いろいろな活用方法～

–活動の成果–

今年度は会員同士の交流の場面を意識的に多く設定し、意見交換の場を持つことができた。また、授業デザイン部会との合同部会を設定することで、お互いの意図を理解し合うことができ、研究内容をより一層深めることができた

–今後の課題–

●子ども同士のコミュニケーションツールの一つとしての情報機器を活用させること。

●子どもたちのコミュニケーション力アップについての継続的な取り組み

４　指導講評

二つの部会が充実した活動を取り組めてきたことについて、大変素晴らしく感じている。

授業デザインには６つの構成要素がある。①教師のねがい②授業の目標③学習者の実態④教材の研究⑤教授方略⑥学習環境・条件、の６つの要素を大切にして今後も引き続きコミュニケーション力の育成に取り組んでいただきたい。

また、部会の発表の中で協働学習における活動の評価についての疑問が挙げられていた。協働学習では、教師が児童の活動の様子をしっかりと見取りながら評価することや、その発表内容で評価すること、児童自身の自己評価を教師が見とることなど、複合的に評価を捉えていくことが大切になる。児童が、自分自身の学びを明らかにすることで、自分の思考の変遷にも気づけるようにしていきたい。

既習事項を「想起」させ、様々な検討を促すための「情報提供」、つぶやきの「拾い上げ」板書などによる児童の発言・思考の「整理」、思考のゆらぎ、掘り下げの為の「ゆさぶり」などの教師の支援が児童の学びを支えていることを意識していきたい。

平成２５年度
戸塚区情報・視聴覚教育研究部　研究報告

１．研究テーマ

「一人ひとりが情報を活用し、主体的に学び、関わり合う子の育成」

～ICT 機器の効果的な活用を通して～

２．研究経過

実施日	内　容
４月１７日	研究計画
５月２２日	○実践提案（東戸塚小） （１）学区内の各地区班で集合する際に Google　Map を使用 （２）デジタルカメラを用いて、デジタルレポートづくり
６月１９日	○実践提案（鳥が丘小） 理科：「昆虫を育てよう」
７月１７日	○実践提案（矢部小） （１）国語：調査報告書に作ろう （２）総合：「４年生に子浦宿泊体験学習の魅力を伝えよう」
８月２２日	○実技研修（倉田小） タブレット型端末を用いた授業の実践
９月１８日	○実践提案（川上北小） （１）算数：「のこりはいくつ　ちがいはいくつ」単元におけるパワーポイントの活用 （２）特別活動：代表委員会における「つたわるネット」の活用
１０月１６日	○実践提案（戸塚小） 情報・スマホやネットに関わる情報モラルやリスクについての考察と指導の実践
１１月２０日	○区一斉授業研究会　指導案検討１回目（小雀小）
１２月１８日	○区一斉授業研究会　指導案検討２回目（小雀小）
１月２９日	○区一斉授業研究会（小雀小） （１）藤代先生　　４年算数：箱の形を調べよう （２）松田先生　　６年社会：わたしたちの暮らしと政治
２月２７日	○研究のまとめ

３．まとめ

４月から実践提案を中心に研究を重ねてきた。ICT 機器の活用を通して、子どもたちがより主体的に学習に取り組み、互いの思い・考えを伝え合うことができるような提案がなされてきた。デジタルカメラや校内のパソコンにインストールされているソフトウェアなど身近にあってすぐに実践できる提案をはじめ、タブレット型端末を利用した授業の展開など将来を見据えた提案があったことも良かった。

４月の研究計画を立てる際に部員から要望のあった、情報モラルについての実践提案が１０月にあった。詳細な現状分析から外部講師を招いての児童指導の報告、今後の課題までの提案で、早期教育の重要性を認識させられた。こちらの部分についても、引き続き研究していく必要があると感じた。

１月の一斉授業研究会では、電子黒板やテレビを使った授業の組み立てについて研究した。シミュレーターやパワーポイント、動画など、教科書などの紙媒体では理解が深められない部分についての授業の可能性について考えることができた。また、講師の先生から、環境整備、著作権、情報モラルなどの視点からも話があり、機器の操作以外にも目を向けることができた。

ICT 機器やソフトウェアの進化は、本当に速い。これからも一人ひとりの教員が主体的に学ぶことによって、子どもたちの教育に生かしていけるように研究を重ねていきたい。

平成２５年度　西区情報・視聴覚研究会　研究報告

１　研究主題

「主体的な学びにつながる情報機器の活用」

今年度は、「主体的な学びにつながる」ところを意識して、前年度の情報機器の活用場面をより具体的に表すことを目指した。そこで、理解を深めるための活用、コミュニケーション能力を高めるための活用など、情報機器の利用方法や目的、使用するタイミングを模索していくことで、子どもたちの主体的な学習につなげていくことができるのではないかと考えて取り組んだ。さらに、近年の情報化社会の中では、小中学生の携帯電話やインターネットの利用が高まり、問題も生じている。あふれる情報の中で子どもたちが情報によって被害に遭わないために、また、加害者にならないためにも、情報モラルについての研修、情報の共有を進めた。また、校務システムについても、各校の情報を交換し合える場にできるようにした。

２　研究経過

月日	研究内容	提案校	司会	記録	会場校
４月１７日	研究主題・研究計画		戸部小		宮谷小
５月２２日	実践提案①	稲荷台小	一本松小	稲荷台小	宮谷小
６月１９日	実践提案②	一本松小・浅間台小	平沼小	戸部小	浅間台小
７月１７日	実践提案③	平沼小・東小	浅間台小	西前小	平沼小
８月２２日	実技研修（情報モラル）		東小	富士見台小	稲荷台小
９月１８日	実践提案④	富士見台小・戸部小	宮谷小	平沼小	戸部小
１０月１６日	実践提案⑤	宮谷小	西前小	東小	宮谷小
１１月２０日	実践提案⑥	西前小	富士見台小	宮谷小	西前小
１２月１８日	西・中区合同一斉研指導案検討	本牧南小	中区	浅間台小	本牧南小
１月２９日	西・中区合同一斉授業研究会	本牧南小	中区	浅間台小	本牧南小
２月２６日	研究のまとめ		稲荷台小	一本松小	宮谷小

○各校１回ずつ実践提案を行い、学習への理解や意欲、情報活用能力を高めるために、どんな視聴覚機器の活用が効果的であるかを検証した。

○夏季の実技研修では、情報モラルについてのＤＶＤ資料をもとに、情報モラル等の態度面の指導のあり方を研修した。

○情報交換の時間を設定し、校務システムをはじめ、ホームページの運営についてなど多岐にわたって各校の情報を共有できるようにした。

３　まとめ

成果　○デジタルカメラやＰＣの再生ソフトを活用して可視化することで子どもが比較したり関連付けたりして考え、自らノートに表現したり発言したりする子どもが増えた。

○書画カメラを活用することで、子どもの考えを共有させて、話し合いを活性化することができた。

○デジタル教材等を活用することで、子どもが学習内容をとらえやすくなり、意欲向上につながった。

課題　●本時目標に迫るためには、どのような視聴覚機器の活用が効果的であるか。

●視聴覚・情報機器の活用を普及していくにはどのような働きかけをしたらよいか。

「I いきいきと学び C （チャレンジ）力をたくわえ T 高まり合う授業の創造」　旭区

～自ら学び、「わかる」・「できる」喜びを味わうことのできる児童の育成～

1　主題設定の理由

今年度は３つの柱で１年間研究を進めていきたい。１つ目は、学習意欲を高める教材の提示２つ目は確かな学習効果を高め、学びを支援する視聴覚機器や教材の活用、３つ目は学習の個別化と視聴覚機器の利用の３本柱である。

視聴覚機器の利用は、あくまでもよい授業づくりを目指して進められるべきものである。したがって、よい授業づくりのために、どのような教材や視聴覚機器が必要なのかをしっかり考えることが大切になってくる。例えば、視聴覚機器による映像を取り入れた学習からは、１つの映像の中に含む多様な情報を基にして、自己との対話を通してイメージをさらに膨らませていくような学習が期待される。個性を生かし、思考力・判断力・表現力などの能力を育成するために、自ら責任をもって意思決定できる力を育てる必要がある。このため、教材を提示するだけではなく、教材の選択・組み合わせなどを考慮しながら、学習材・学習具として視聴覚教材や教育機器を、学習者が主体的に活用するような実践研究をしていきたい。

そこで今年度も旭区情報・視聴覚研究会では、昨年度の課題をふまえ、日々の授業に取り入れていける実践的なＩＣＴ活用を目指していく。効果的に用いることで子どもたちの学ぶ意欲と理解を高め、子どもたちの学びが変容していく姿が見られるようにしていきたいと思い昨年度の研究を継承し発展させたいと考え上記の主題を設定した。

2　研究経過

＊司会、記録は幹事校で分担する。

	月　日	研究･研修内容	会場
①	4月17日(水)	役員選出、年間計画検討、情報交換	鶴ケ峯小学校
②	5月22日(水)	年間計画の確認　情報交換	希望ケ丘小学校
③	6月19日(水)	「ジャストスマイル」研修　業者の方に講師となってもらい実技指導	希望ケ丘小学校
④	7月17日(水)	実践提案①（ 川井小学校　長岡　英樹先生） 道徳「NHK デジタル教材を用いた道徳の授業」	希望ケ丘小学校
⑤	8月22日(木)	「ネチケット」研修　担当　今宿小学校　深澤　透先生　E-NET キャラバンによるネットのマナー	希望ケ丘小学校
⑥	9月18日(水)	「実物投影機みエルモんを使った実技研修」　授業スタイル(応用編)」研修	希望ケ丘小学校
⑦	10月16日(水)	指導案検討（ 若葉台小学校 ）	若葉台小学校
⑧	11月20日(水)	区一斉授業研(若葉台小学校)	若葉台小学校
⑨	12月18日(水)	実践提案②(不動丸小学校　柏木　佑介先生)「デジタル教科書を活用した国語科の授業の進め方」	希望ケ丘小学校
⑩	1月29日(水)	実践提案③(上白根小学校　明利　昌典先生） 社会 「私たちの安全･安心～安全なまちをめざして、私たちにできること」	希望ケ丘小学校
⑪	2月 26 日(水)	年度末反省	希望ケ丘小学校

3　研究のまとめ

今年度は昨年の研究のよかったところを継承しつつ、子どもも教師も楽しみながら学習を進めることができるように１年間研究を進めてきた。**「I いきいきと学び C （チャレンジ）力をたくわえ T 高まり合う授業の創造」**～自ら学び、「わかる」・「できる」喜びを味わうことのできる児童の育成～というテーマを設定し実技研修・実践提案・校務システムの情報交換などをしてよりよい授業のあり方について話し合いを進めてきた。視聴覚機器の活用については出来る限りどの学校にもある機器を有効に効果的に活用できる実践と情報交換を心がけてきた。既存の機器のみに限らず、先進的な取り組みにも力を入れてきた。区の一斉研では、若葉台小学校の先生方にタブレットを使用した授業実践を提案していただいた。予算の問題ですぐには全校で実施することはできないが、おそらく数年後にはどの学校でも導入される時がくると思うのでとてもよい将来を見据えた素晴らしい提案であったと思う。念のために申し上げますが、「不易」とは言え、それは未来永劫、決して変えてはいけないもの、という訳ではない。松尾芭蕉も言っているように不易と流行は「その本は一つなり」と言っている。どういうことかと言うと、流行を知ることにより、そこから新たな知識が生まれる。常に流行を知ることにより、知識は絶えず蓄積され、更新され、そこから普遍的な真理（不易）を導くことができる。この不易を基礎（教育理念あるいは戦略）とし、そして時代時代の流行を知り、対策を練り、実行して行くのが授業の成功への近道のような気がする。今の世の中、変化に対応することが求められている。「環境変化に迅速に対応できる教育が大事」ということを改めて実感し、視聴覚研の大切の役割であることを学んだ。

（市沢小　益山　正広）

金沢区情報･視聴覚教育研究部

研究テーマ

主体的に情報をつかみ、意欲的に情報をいかして学習していく児童を目指して

研究経過

月　日	内　　容	会　場
４月２０日	年間計画、役割分担	釜利谷東小
５月２２日	実践提案①文庫小（機器活用）「ＷＥＢカメラの活用」	〃
６月１９日	実践提案②大道小（機器活用）「ビデオによる放送委員会の取材活動と、ムービーメーカーによるビデオの編集」	〃
７月１７日	実技研修①並木第一小（校務システム）「学校独自のあゆみとあゆみタグの利用法について」	並木第一小
８月２２日	実技研修②釜利谷西小（ソフト活用）「“朝刊太郎”を使った新聞つくり」「パラパラまんがメーカーの活用」	釜利谷西小
９月１８日	実践提案③瀬が崎小（機器活用）「デジタル教科書の活用」	釜利谷東小
１０月１６日	実践提案④八景小（ソフト活用）「外字作成“Gaijuser”の活用」	〃
１１月２０日	実践提案④西富岡（ソフト活用）　「Ｅｘｃｅｌのハイパーリンクを用いた運動会ＢＧＭリストの作成と活用外字作成」	
１２月１８日	一斉研事前検討	釜利谷小
１月２９日	区一斉授業研究会 ３年体育：よく見て、教えあおう！　力を合わせてとび箱運動 ４年理科：星や月（３）　星の動き	〃
２月２６日	研究のまとめ・次年度役員決定	釜利谷東小

まとめ

〈成　果〉

実践提案５つ・実技研修２つ行い、視聴覚機材や教育機器などの教材・教具の適切な活用方法を探り、視聴覚機器を利用した有効な支援の仕方を研究してきた。また、実際に操作している場面を見ながら、研究協議を行ったので、参加者もすぐにでも活用できるようになってきたと思う。日々視聴覚・情報教育機器は進歩していくため、その機器にあった指導、また機器を有効に活用した授業実践を来年度も行えるようにしていきたい。

〈課　題〉

インターネットにつながるパソコン、大型テレビや書画カメラ、デジタルカメラ・デジタルビデオカメラなどは、各クラスに１つ、少なくとも各学年に１つ配当されるようになり、日常の学習の中でも活用することができるようになっている。この結果、ビデオカメラの追いかけ再生によって、学習中の自分の姿を見たり、星の動きをシミュレートするソフトで星の動きを知ったり、子どもたちが様々な情報を手に入れやすくなった。

しかし、多くなった情報をどうやって捉えたらよいか、その視点をしっかりもたないと雑多な情報から必要な情報を取り出すことができない。学習中に、子どもたちがどの情報をとらえていけばよいのか、例えば、追いかけ再生の画面全体ではなく、着地の際の足の着き方だけを見ていこうなどと、指導支援していくことが大切である。このように、情報や機器をただ使うだけから、より活かしていく方法を今後も研究していきたい。

横浜市立高舟台小学校　　大野　俊治

港南区情報・視聴覚教育研究部

１．研究主題

「子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿を目指して」

～子どもの情報活用能力の育成と、教師の情報機器活用能力の育成～

２．研究経過

月日	活動内容	会場
４月１７日	年間計画検討　役員選出	日下小
５月２２日	授業提案　永野小　社会科「昔から伝わる行事」 小坪小　算数科「わり算　新しい計算をしよう」	永野小
６月１９日	授業提案　日下小「実物投影機の活用について」 下野庭小　国語「読書生活について考えよう」	下野庭小
７月１７日	実技研修　「運動会や学習発表会に使える音声加工ソフトの紹介」 「校務システムの使用状況、パソコン・ネットワーク環境整備について」	相武山小
８月２２日	実技研修　「情報モラルについて」NPO 情報セキュリティフォーラム	相武山小
９月１８日	区一斉授業研究会指導案検討①	上大岡小
１０月１６日	区一斉授業研究会指導案検討②	上大岡小
１１月２０日	区一斉授業研究会　５年「友達とのよりよい関係づくり ～メールでのやりとりから考えよう～」 ４年「楽器の音を聴いて合わせて演奏しよう」	上大岡小
１２月１８日	情報モラル研修「ゲーム／SNS サイトの概要と安心・安全なご利用について」 （株式会社 DeNA　出張講座）	永谷小
１月２９日	実技提案　吉原小「小学校向け教育用総合ソフト『キューブきっず４』について」 芹が谷小「Web 教材『放送記者坂井マヤ～ストーリーをさがせ～』について」	吉原小
２月２６日	反省　次年度計画	日限山小

３．まとめ

今年度は、児童の情報活用能力を育成するための手立てについて、学習活動の提案や研究授業を行い、よりよい支援の手立てを考えてきた。また、あゆみ・要録の電算化や校務の情報化について積極的に情報交換を行い、校務を円滑に進めていくことができるように話し合った。さらに、教師自身の情報機器の操作能力や活用能力、情報モラルの向上を目指し実技提案や実技研修を行ってきた。多くの学校で情報モラル教育について頭を悩ませていたので、１月に株式会社 DeNA のネットマナー&セーフティ推進委員会の方に研修をお願いした。子どもたちを取り巻く身近なインターネットとして、スマホや SNS を取り上げ、コミュニティサイト起因の犯罪、個人情報、コミュニケーション等の視点から「今」必要な情報を聞くことができた。子どもたちが安心・安全にケータイ／インターネットを楽しむための有意義な研修であった。

今後、ますます進んでいく子どもたちの世界を近くで見守っていく立場として意識し、来年度以降の研究につなげていきたい。

横浜市立日限山小学校　齊藤和広

平成２５年度港北区情報視聴覚研究会

１．研究主題

「わかる・楽しい授業のための教育メディアの効果的活用法を探ろう」

～学びを深め、広げる情報・視聴覚教育～

学校においてもネットワーク化が進み、情報教育が重要な機能を果たすことが期待されている。環境を整え、各教科・領域の中で教育メディアが活用されると、基礎基本の定着、学習の発展に大きな効果が期待される。

そこで港北区情報・視聴覚教育研究部としては、教育メディアの機能を活かし、教師や児童が主体的に活用いく様な実践を積み重ねていきたい。そして、学習をより分かりやすく、楽しいものにしていくための手だてや効果的な活用について研究を深めていく必要があると考えている。

２．研究経過

月	日	内容	提案・研修	会場校
4	17	総会(研究テーマ・年間活動計画・役員選出) ／役員打合せ		太尾小
5	22	実践提案①　　提案校（　小机小　）	ＶＴＲ教材の作成 体育館での大型モニターの活用	小机
6	19	実技研修会① 企画校（太尾小）	校務システムでの評価	太尾小
7	17	実践提案②　　提案校（　港北小　）	教室のＩＴ環境整備	港北小
8	22	実技研修会②　企画校（高田小）	タブレット端末の活用	高田小
9	18	指導案検討会①		下田小
10	16	指導案検討会②		下田小
11	20	区公開授業研究会（下田小）		下田小
12	18	実技研修会③　企画校（新田小）	授業で使えるＷＥＢページ･フリーソフト	新田小
1	29	実践提案③　　提案校（北綱島小）	デジタル教科書の活用	北綱島小
2	26	１年間のまとめ・次年度の活動についての確認		太尾小

３　まとめ

「わかる・楽しい授業のための教育メディアの効果的な活用法を探る」という研究テーマのもと、様々な情報機器を活用した実践提案や実技研修を行った。大型ＴＶやＯＨＣ等の活用等、具体的な実践から明日の授業に取り入れられる研究ができ、デジタル教科書やタブレットＰＣ等、今後普及していくと考えられるソフトや機器についても研修し、そのメリットや課題を考えられたのは大きな成果である。

情報機器を授業の中で活用していくことを積極的に行う教員とそうではない教員の差が大きいのが現状である。研究会で得たものを校内でどのように広めていくかが課題としてあげられる。どのように教員のスキル向上を図り、環境を整えていくかということも研究会として考えていく必要がある。また、情報モラルについての実践や研修をさらに深めていくことが必要に迫られている。

神奈川区情報・視聴覚教育研究部

１　研究テーマ

「情報・視聴覚教材・機器に親しみ、互いに伝え合い、高め合いながら学ぶ子の育成」

～情報モラル教育や、言語活動の充実の手立てとしての情報・視聴覚機器の活用について～

２　研究経過

月・日	会場	内容
４月１７日	羽沢	○役員選出、年間計画検討
５月２２日	二谷	○実践提案　（南神大寺）「メールやネット掲示板のモラル教育」 ○情報交換　（二谷）「データ処理ソフト『ＤＢＰｒｏ』」
６月１９日	大口台	○実践提案（幸ヶ谷)「写真を撮りたい時に気をつけること(情報モラル)」 ○情報交換　（大口台)「校務システムを使った成績管理について」
７月１７日	中丸	○実践提案（羽沢）「ゲーム機でインターネットにつなぐ良さと危険性」 ○情報交換（中丸）「ニュース委員会の発足について」
８月２２日	子安	○実技研修　「校務システム」を有効活用しよう
９月１８日	神奈川	○指導案検討
１０月１６日	神奈川	○指導案検討
１１月２０日	神奈川	一斉授業研 １年「だいすきかぞく　おしごと　ちょうせんたい！」 ４年「ダイナミックに跳ぼう！回ろう！かな小雑技団への道！」 ５年「気持ちよく生活しよう～めざせ　整理・整頓、お掃除名人～」
１２月１８日	神大寺	○実践提案（浦島）「保健集会で「はっぴょう名人」を使用した実践」 ○情報交換（神大寺）「社会科におけるＩＣＴ機器の使用例」
１月２９日	三ツ沢	○実践提案（斉藤分）「発表名人を使った学習発表会の取り組み」 ○情報交換（三ツ沢）「視覚機能トレーニングソフト」 「ＶＯＣＡ」「Bun Back up400」
２月２６日	子安	○まとめ、次年度の研究体制について

３　まとめ

「授業などですぐに役立つような内容」を意識しながら実践提案を行った。その結果、研究授業だけでなく、参加者が普段の授業でも活用できる実践的な内容となった。

情報交換では、各校の校務での工夫・校務で困っていることを中心に取り上げた。各校の職員室やパソコン室の工夫を紹介してもらうため、会場は情報交換を担当する学校にした。今年度は校務システムについての情報交換も充実させ、悩みを共有しあい、特に成績処理については、研修や成績処理の方法について活発に情報を交換した。紹介された方法を後日実践する学校もあり、充実した情報交換であった。

授業研究では、授業者が情報・視聴覚教材・機器の活用について工夫し計画的に支援していくことで、子どもたちがお互いに教えたり、伝え合ったりして学ぶことに情報機器が有効に活用できるかが討議された。

来年度も「研究授業に役立てる」「すぐに実践できる」という視点で実践提案や情報交換を行い、参加者が授業や校務に生かせる内容の研究をしていきたい。

子安小学校　若木徹也

瀬谷区情報・視聴覚教育研究部

1　研究主題

自ら学ぶ力を育てるための学習の展開

～多様なメディアを活用した情報活用能力の育成～

2　研究経過

本研究会では、今までの研究の蓄積を生かしながら、来るべき社会に主体的に対応できるよう「自ら学ぶ力」をもった子どもの育成を目指しての研究を推進してきた。「自ら学ぶ力」の育成のために、視聴覚教育に果たすべき役割、可能性は限りないものがあると考え、小学校のカリキュラムの中で情報・視聴覚教育メディアを授業にどう生かし活用能力を育成していくかを探ってきた。そこで、情報・視聴覚教育メディアを効果的に用いるためには教師の知識技能の向上が課題だと捉え、実践提案と授業研究会と併せて、実践的な実技研修も交えながら本年度も研究を進めてきた。

月	日	内容	会場校
4	17	年間計画作成　役員決め　役割分担　　部長	瀬谷
5	22	実践提案 体育科「実物投影機を用いた体育の動きの確認」　上瀬谷小学校　宮澤　良介先生 国語科「キーボードソフトを使ったローマ字とPC操作の学習」　上瀬谷小学校　瑞慶覧　周先生	上瀬谷
6	19	実践提案 「電子黒板を活用しよう」　瀬谷第二小学校　鈴木　義和先生	瀬谷第二
7	17	実践提案 「デジタル教科書の活用」　大門小学校　高岡　正人先生 「ELMO　かけるモンの活用」　大門小学校　小松　広紀先生	大門
8	22	実践提案 理科「プロジェクターの活用（からだのつくりとはたらき）」　原小学校　麻尾　大輔先生	原
9	18	実践提案 国語科「自分流　狂言「柿山伏」の音読に挑戦」 ～NHK for School映像の利用～　二つ橋小学校　藤原　利弘先生	二つ橋
10	16	実践提案 体育科「体育における学習資料の活用」　南瀬谷小学校　船山　桜子先生	南瀬谷
11	20	授業研事前検討会①　　三ツ境小学校 国語科「ここがおすすめ！わたしの大切なこの一冊」 ～好きな本を紹介し合って本の世界を広げよう『森へ』『わたしと本』～　小山　晃之介先生	三ツ境
12	18	授業研事前検討会②　　三ツ境小学校 国語科「ここがおすすめ！わたしの大切なこの一冊」 ～好きな本を紹介し合って本の世界を広げよう『森へ』『わたしと本』～　小山　晃之介先生	三ツ境
1	29	区授業研究会　　三ツ境小学校 国語科「ここがおすすめ！わたしの大切なこの一冊」 ～好きな本を紹介し合って本の世界を広げよう『森へ』『わたしと本』～　小山　晃之介先生	三ツ境
2	26	研究のまとめ　次年度に向けて　　部長	瀬谷

3　まとめ

各学校における実践・実技提案の機会を多く設けることで、より多くの研究部員が意　欲的に研究会に参加し、意見交流を深め、研究テーマに迫る研究活動を進めていけるこ　とにつながったと考えられる。また、具体的な提案により、情報・視聴覚メディアを活　用し、より児童の学　習を効果的に進めることができるできるか、身につける力がどの　ようなものになるか見取ることができた。これらのことから、情報・視聴覚メディアの　使い方を教師側が理解し効果的に使用することの必要性から、書画カメラやビデオカメ　ラ、大型テレビなどの具体的な活用方法の意見交換なども行うことができた。

そして､事務処理の効率化を図るための校務システムの導入状況や各校の取り組みに　ついても情報交換を行った。

次年度からも引き続き、自ら学ぶ力を育てる学習展開のための情報活用能力の育成の　実践研究に取り組み、工夫を図っていきたい。

瀬谷小学校　　大野　真司

泉区情報・視聴覚教育研究部会

1　研究主題

「児童の主体的な学習活動を促すために、視聴覚・情報メディアを効果的に活用する姿をめざして」

2　研究経過

	内容	会場
4 月 17 日	役員決め、組織年間計画	岡津
5 月 22 日	実践提案①　「たんけん、発見、わたしたちのまち～見て見て！いずみ野 なるほど！いずみ野～（主に google を活用した社会科学習)」 実技研修①　「校務システムー保健簿の使用についてー」	いずみ野
6 月 19 日	実践提案②　「recolo を活用した理科学習－植物の発芽や生長－」 実技研修②　「電子黒板の使い方―学習場面において―」	緑園東
7 月 17 日	実践提案③　「○○がへ～んしん―デジタルカメラを活用した図画工作科学習―」 実技研修③　「power point の便利な使い方」	緑園西
8 月 22 日	実技研修④　「word、excel 実技研修」 実技研修⑤　「デジタルカメラの活用方法―学習場面において―」	伊勢山
9 月 18 日	一斉授業研究会　指導案検討①	いちょう
10 月 16 日	一斉授業研究会　指導案検討②	いちょう
11 月 20 日	一斉授業研究会　　３年　算数　「小数」　Excel の活用 ６年　国語　「鳥獣戯画を読む」　電子黒板の活用	いちょう
12 月 18 日	実践提案④　「説明のしかたを考えよう『すがたをかえる大豆』・『食べ物のひ みつ教えます』(デジタルカメラを活用した国語学習)」 実技研修⑥　「校務システム―あゆみのレイアウト・文字数について―」	東中田
1 月 29 日	実践提案⑤　「放送委員会の活動や指導について」 実技研修⑦　「『情報モラル』について」	中和田
2 月 26 日	研究のまとめ、次年度に向けて	中田

3　まとめ

〈成果〉

「実践提案」と「実技研修」の２本立てで研究会を行った。「実技研修」は、昨年度末に研究会員が学びたいものを挙げ、それに対し各校が研究して提案を行った。内容は、公務システム、視聴覚機器の学習場面での活用例などで、即座に業務に生かしたり、学習場面で活用したりすることができた。

「実践提案」は、国語、理科、社会、図画工作など、様々な教科に渡り、学習場面での具体的な提案だった。視聴覚機器の使用が、教師の操作によるものだけでなく、子どもにとって必然性があり、また、子ども自身が操作する場面のあるものだった。そのため、子どもの主体的な学習を促すための手立てとしての、効果的な視聴覚機器の活用例が提案された。

〈課題〉

ICT 機器の活用については、研究会員による提案だけでは新しいものが少なく、外部の講師を招いて、より新しい機器や、より効果的な活用方法を学んでいきたい。

横浜市立中田小学校　大江　恭寛

平成２５年度　中区視聴覚・情報教育研究部

１．研究テーマ

子どもが意欲的に学習に取り組むための
効果的な視聴覚機器の活用をめざして

２．研究経過

月・日	内　容	提　案　校	司　会・記録	会　場
４・１７	研究計画・組織	元部長校	大鳥	大鳥
５・２２	実践提案 実技研修など	附属小学校	本牧南	附属
６・１９	実践提案 実技研修など	元街小学校	大鳥	元街
７・１７	実践提案 実技研修など	本牧小学校	本町	本牧
８・２２	実践提案 実技研修など	立野小学校	間門	立野
９・１８	実践提案 実技研修など	間門小学校 本町小学校	元街	本町
１０・１６	実践提案 実技研修など	北方小学校	山元	北方
１１・２０	指導案検討	本牧南	本牧	本牧南
１２・１８	西・中合同指導案検討	本牧南	幹事校	本牧南
１・２９	西・中合同授業研究会	本牧南	幹事校	本牧南
２・２６	実践提案、実技研修 まとめ	山元小学校 大鳥小学校	附属	大鳥

３．まとめ

〈成果〉

昨年度に引き続き、同じ研究テーマのもと、「視聴覚機器」を使うことで学習効率が上がる場面を中心に研究を進めてきた。各学校でそろえられる機器に差はあるにしろ、それらの機器の有効に活用できた場面について、具体的に話し合いがもたれ、明日から使えるスキルとして蓄積されていった。情報モラルについても取り上げ、情報交換が行えた。

〈課題〉

新しい視聴覚機器の活用について提案があったが、それらを各学校でそろえられていない現実がある。私物の視聴覚機器の活用について。視聴覚機器の活用について、部員以外にも広めていく必要がある。携帯電話をもつ児童が多くなり、情報モラル教育の必要性が増している。

横浜市立北方小学校　堀　幸仁

平成２５年度　磯子区　情報視聴覚研究部

磯子区部長　岡村小　梅津哲弥

１．研究テーマ

「児童の情報活用能力を高める指導のあり方」

２．テーマ設定の理由

　児童は、学習活動の中で様々な「情報」を得る。そのとき、次のことを指導の視点としてもたなければならない。
「必要な情報を選択できているか。」
「得た情報を整理できるか。」
　次に、情報を外部に発信する（活用する）際は、次の点についても指導の視点としてもたなければならない。
「機器等の操作の技能があるか」
「情報モラルについての知識はあるか」
　情報活用の能力は社会に出てから欠かすことのできない力であり、その基礎はやはり小学校から指導すべきであると考える。
　そこで、上記のテーマを設定し、
　各教科・領域、総合的な学習の時間の中において、児童が様々な情報に触れる場面で、どのような指導が必要か。（情報選択、モラルの指導）
　児童が学習の手段として、情報機器を適切かつ効果的に活用できるためには、どのような指導が必要か。
という、２つの視点で考察を行い、研究を進める。

３．活動内容

日程	内　容	会　場	備考・提案校
4 月 17 日	役員確認・年間計画確認	磯子小	
5 月 22 日	研究テーマ決定	屏風浦小	
6 月 19 日	実践提案①	屏風浦小	屏風小・磯子小
7 月 17 日	実践提案②	屏風浦小	洋二・洋三・根岸
8 月 22 日	実技研究	情報ライブラリー見学	
9 月 18 日	指導案検討①	杉田小	
10 月 16 日	指導案検討②	杉田小	
11 月 20 日	一斉授業研究会（杉田小）	杉田小	
12 月 18 日	実践提案③	屏風浦小	浜小・さわの里・山王台
1 月 29 日	実践提案④	屏風浦小	滝頭・洋四・森東
2 月 26 日	平成 25 年度の研究のまとめ	屏風浦小	

４．まとめ

　児童は、本研究会では、情報活用能力の育成についての研修や各校における実践例を持ち寄って情報・意見の交換をし、より効果的な指導方法について考察することができた。また、来年度にむけ、情報モラルについての取組やタブレット端末についての研究を進めたい。

平成２５年度　鶴見区情報・視聴覚教育研究部

１．【研究主題】

視聴覚機器の積極的活用・情報活用の実践力を高める学習」のあり方
～ICT 教育の環境整備を通して～

２．【研究日程】

月　日	内　　容	会場
４月１７日	年間計画	寺尾
５月２２日	研究方針・各校の抱える課題	新鶴見
６月１９日	◇第１回　研修会　馬場「誰でもできる視聴覚機器」	馬場
７月１７日	◆第１回　実践提案 （機器活用）豊岡「ICT活用推進研究校の報告書より」 （環境整備）上末吉「校務システム活用例」	豊岡
８月２２日	◆第２回　実践提案 （機器活用）市場「ICT機器の紹介」 （環境整備）馬場「情報の取り扱いに関する相互点検について」	馬場
９月１８日	第１回　指導案検討	鶴見
１０月１６日	第２回　指導案検討	鶴見
１１月２０日	区一斉授業研究会	鶴見
１２月１８日	◆第３回　実践提案 （機器活用）上寺尾「わくわくお店発見隊～長く親しまれている和洋菓子屋ＳのTさんのひみつをさぐろう～」 （環境整備）新鶴見「校内の視聴覚環境整備～役割分担、活動内容、活動計画を明確にした取り組み～」	新鶴見
１月２９日	◇第２回　研修会　汐入　「デジタル顕微鏡の活用」	汐入
２月２６日	振り返り・役員選出	新鶴見

３．【研究のまとめと今後の課題】

今年度も身近にある視聴覚機器（PC・テレビ・実物投影機・デジタルカメラ）の、有効な使用方法を知りたいというニーズから、より教師が使いやすく、子どもにとっても使いやすい視聴覚機器を日常的に使用する方法を研究した。視聴覚部以外の職員にも「視聴覚機器を使った方が良かった」と言ってもらえるように、簡単かつ効果的な使用方法を校内でアピールするように共通理解を行った。その結果、少しずつではあるが、実物投影機のように簡易に扱えるものについては、どの学校でも浸透してきて、教職員に浸透してきている。実物投影機を一クラスに一つ常置できるようにすることで、今後も使用する機会が増え、有効な使用方法の研究が深まっていくと考えられる。

また、環境整備では、今年度から導入された校務システムの活用や校内の視聴覚環境整備も取り組みをより明確にしていくために研究を行った。手探りで実践していったが、情報を交流することで、校務システムの運用についての方向性が少し見えてきた。しかし、随時対応しなければならないことについては、どのように役割分担し、活動を進めていくのか、今後も研究していく必要がある。

横浜市立新鶴見小学校　　三山　智

平成２５年度　都筑区情報・視聴覚教育研究部

１．研究テーマ

「主体的に情報をつかみ、情報を生かして学び合う子の育成」
～豊かな学びにつなげる ICT 機器の活用と情報モラルの育成～

２．研究経過

月／日	内　容	会場校
４／１７	年間計画・役割分担	山田小
５／２２	☆実践提案１（　都筑小　） 【校務システムに関する情報提供　】	都筑小
６／１９	☆実践提案２（つづきの丘小・折本小） 【実物投影機や NHK ネットコンテンツの活用について】	つづきの丘小
７／１７	★実技研修１（　茅ヶ崎東小　） 【デジタル教材の活用について　①】	茅ヶ崎東小
８／２２	★実技研修２（　北山田小　） 【デジタル教材の活用について　②】	北山田小
９／１８	☆実践提案３（中川西小　　） 【ブラックライトやマイクロスコープカメラを活用した授業】	中川西小
１０／１６	☆実践提案４（中川小・茅ヶ崎台小　） 【インターネット美術館やライブカメラを活用した授業】	中川小
１１／２０	☆実践提案５（牛久保小） 【タブレット PC の活用のあり方】 指導案検討（１）（すみれが丘小）	牛久保小
１２／１８	指導案検討（２）（すみれが丘小）	すみれが丘小
１／２９	一斉授業研究会（すみれが丘小）	すみれが丘小
２／２６	年度のまとめと次年度の方向性について	川和東小

３．まとめ

＜成果＞

・今年度より校務システムを本格的に運用する学校が増えたこともあり、５月の情報交換であゆみや出席簿などの入力方法や各校での研修の進め方がわかり、各校で活用を図ることができた。
・今年度は授業場面での活用を意識した実践提案が多く、授業にもとづいて視聴覚機器の在り方を考えることができた。この方向性は来年度も継続していきたい。
・夏休みの研修では、教科書会社の方をお招きしてデジタル教科書の使い方や活用方法を教えていただくことができた。費用などの面で課題があるが、授業で使えるメリットの大きさを学ぶことができた。
・一斉授業研究会では、視聴覚機器を効果的に活用し、動物の姿を低学年の子どもに提示する授業提案がなされた。高学年の授業では、子どもがパワーポイントを活用して実験結果をわかりやすくまとめ、考察につなげていく授業が提案された。

＜課題＞

・研究テーマの副題「豊かな学びにつなげる ICT 機器の活用と情報モラルの育成」について、ICT 機器の活用という面では様々な学年からの実践提案がなされたが、情報モラルの育成という面でももっと深めていける実践提案をしていきたい。
・今年度提案された実践の成果を各校にもっと伝達し、各校での実践に役立てていけるようにしていきたい。

１．　研究主題

「ＩＣＴ機器を活用した、子どものわかりやすい授業をめざして」

２．　主題設定の理由とこれまでの研究経過

本研究会では、いろいろなＩＣＴ機器を活用することで、子どもがわかりやすいと感じたり、意欲的に学習に取り組めたりすることが重要であると考えています。

各教室にパソコンが配置され、大型液晶テレビや電子黒板、書画カメラなどの新しいＩＣＴ機器も増えてきました。そこで、実技研修や実践提案を通して、今あるＩＣＴ機器の様々な利用法や新たなＩＣＴ機器の発見をめざして研究を進めてきました。そして、ＩＣＴ機器を活用した、子どものわかりやすい授業をめざして、年間カリキュラムの研究にも併せて取り組んでいます。

また、ＩＣＴ機器を活用していく授業の開発という幅にとらわれず、校務システムなどをうまく利用する方法を研究することで、教材研究の時間をより多く作る手助けになると考えました。さらに、職員室内やパソコン教室のＩＣＴ機器環境作り、電算化による職員研修など、情報担当者として悩まされる部分についても情報交換をすることで､効率的に仕事を進められればと考えています｡今年は、本格的に校務システムが稼働したので、各学校のシステム管理をする職員がより厳しくなってきたことについても南区では考え、よりよい職場環境にすることを考えています。

６月の研究会では、藤の木小学校から「校務で活用している視聴覚関係について」の提案がありました。各学校でも行っている校務の電算化ですが、提案されたことにより、職員室内の視聴覚関係の環境作りの一つの考えを共有することができました。

７月は中村小学校で情報モラル・マナー指導サイトの活用、８月は永田小学校でパソコンソフトを使った実技研修が行われました。

９月は日枝小学校で実物投影機を使った理科の授業の提案がありました。

１２月は井土ヶ谷小学校で、パナソニックの社員の方と共に、新しいビデオカメラ「ぼうけんくん」の活用の提案があり、これには各部員も驚きを隠せないようでした。

１月は石川小学校で、生活科でのデジタルカメラの活用、チャット用のカメラを使った授業、文部科学省から配布された体育のＣＤ―ＲＯＭの活用の提案がありました。

３．　まとめ

今後も、視聴覚・情報教育による学習効果の向上、情報教育の実践力の育成をめざして、各校での取り組みを共有しつつ､「子どものわかりやすい授業をめざして」というテーマに向かって研究を進めていきたいと考えています。

南区視聴覚・情報教育研究部
部長　　樋口　剛弘

緑区情報・視聴覚教育研究部

１．研究テーマ

〇自ら学び続ける子どもを育てるための、視聴覚教育メディアをいかした学習の推進

～明日の授業に役立つ教材・機器の活用～

２．研究経過

月／日	主な内容	提案（B）	実技研修（A）	司会（C）	記録（C）	会　場
４／１７	研究主題検討 年間活動計画検討	区幹事		区幹事	区幹事	東本郷
５／２９	実践提案・情報交換（運動会放送）	森の台 十日市場		いぶき野	三保	森の台
６／１９	実践提案・情報交換（校内組織・視聴覚部業務）	山下みどり台		鴨居	長津田	十日市場
７／１７	実技研修・情報交換		長津田第二	三保	いぶき野	長津田第二
８／２２	実技研修・情報交換		新治 上山	長津田	鴨居	上山
９／１８	実技研修・情報交換		緑	いぶき野	三保	緑
１０／１６	実践提案・情報交換	竹山		鴨居	長津	竹山
１１／２０	第１回区一斉授業研指導案検討（活動計画）	中山		三保	いぶき野	中山
１２／１８	第２回区一斉授業研指導案検討（本時展開）	中山		長津田	鴨居	中山
１／２９	区一斉授業研究会	中山		いぶき野	三保	中山
２／２６	研究のまとめ・反省 来年度役割分担確認	区幹事		区幹事	区幹事	東本郷

３．まとめ

〈成果〉

今年度は研修や提案ほかに、校務システムを中心とした情報交換の場を多く設定した。システム先進校の資料を共有するなどして活発な意見交換がなされていた。副題に「明日の授業に役立つ」と掲げたが、ＹＹネットのコンテンツ活用をはじめ、外部サイトを使用した授業例、区内小学校で実際に起こった「インターネット掲示板における誹謗中傷事案」にかかわる情報モラル学習の実際など、すぐに使える実践提案があった。

〈課題〉

ICT 機器の積極的活用→配当されたハードとソフトを活用推進する。YY ネット上のフラッシュコンテンツも授業の中での利用を呼び掛けていく。

東本郷小学校　　松嶋　卓

栄区　情報・視聴覚教育研究部

１　研究主題　　一人ひとりの子どもが、主体的な学びを高めるための情報・視聴覚教育
～考える力・表現する力を育む情報教育のあり方～

２　研究経過

月　　日	研究内容・活動内容	会場
４月１７日	・ 研究組織づくり ・ 研究主題、年間活動計画の検討	本郷
５月２２日	・ 視聴覚・情報教育機器、教材、情報教育 ・ 指導計画についての情報交換	本郷
６月１９日	・ 実践提案 ・ 実技研	本郷
７月１９日	・ 一斉授業研 検討 ・ 校務システム研修	本郷
８月２２日	・ 夏季実技研修会	本郷
９月１８日	・ 一斉授業研 指導案検討	本郷
１０月１６日	・ 一斉授業研 指導案検討	桜井
１１月２０日	・ 一斉授業研	桜井
１２月１８日	・ 一斉授業研のまとめ ・ 実践提案	本郷
１月２９日	・ 実践提案 ・ 実技研	本郷
２月２６日	・ 研究のまとめ ・ 次年度の研究方針検討	本郷

３　まとめ　～成果と課題～

今年度より、研究主題のサブテーマを「考える力・表現する力を育む情報教育のあり方」と改変した。情報・視聴覚機器の特性を基に、各教科における活用場面を検討した昨年度までの研究に対して、今年度は、教科を出発点とし、それぞれの活動目標を実現するために、情報・視聴覚機器をどのように活用すべきなのかを研究していく事となった。一斉授業研究会では、授業者が希望する教科、単元について、思考力、表現力を育む活動は何か、どのような情報・視聴覚機器が効果的かを全部員で検討した。また、今日的課題である情報モラル指導についての、教育課程上の位置づけや運用方法についても検討し、提案することができたのは有意義であった。

青葉区情報・視聴覚研究会

１　研究主題

児童自ら学び取る力をつけるための情報メディアを生かした学習のあり方
～携わる者すべてのスキルアップをめざし、情報社会の波をのりこえるために～

２　研究経過

日程	内容①実践提案または実技提案	内容②　現状報告・情報交換
４／１７（水）	役員引継ぎ　年間計画　新役員紹介　日程（恩田）	
５／２２（水）	谷本小学校校長　田中先生による校務システムについての講演会	
６／１９（水）	実践提案 「クラブ活動(パソコンクラブ)の活動提案～Windows ムービーメーカーとデジカメを使っての動画編集～」（田奈）	現状報告･校務システム運用開始について（山内）
７／１７（水）	校務システム講演会　講師…田中校長先生	
８／２２（木）	実践提案 「IC レコーダーとデジカメを活用した国語学習（音読発表会をひらこう)」（奈良）	現状報告・成績処理について（つつじヶ丘）
９／１８（水）	実践提案 「体育科・図工科における視聴覚機器の活用」（榎が丘） 「タブレットを活用した体育学習」（谷本）	
１０／１６（水）	実践提案 「社会科授業における効果的な ICT 機器の活用について 単元名　開国が日本にもたらしたもの（６年)」（美しが丘）	
１１／１３（水）	実践提案 「ミニトマトをかんさつしよう（２年生活科」（青葉台）	現状報告･来年度の準備について（すすき野）
１２／１８（水）	一斉授業研　指導案検討（美しが丘東）	
１／２８（水）	一斉授業研　（美しが丘東）	
２／２６（水）	まとめ／年間反省・次年度役員選出（恩田）	

３　まとめ

青葉区情報・視聴覚研究会では「児童自ら学びとる力をつめるための情報メディアを生かした学習のあり方」をテーマに研究を行ってきた。児童の興味関心を高める活動や、授業のならいを達成するための活動などへの有効な視聴覚機器・資料の活用について、たくさんの議論がなされ､研究を深めた｡校務システムの運用も始まり､それに対する課題も出てきた。それらの解決も、研究会を現状報告や意見交換の場として存分に活用し、部員みんなで課題に向き合っていった。

保土ケ谷区情報・視聴覚教育研究部　研究活動のまとめ

１、研究主題　　「使う　深める　活用する情報教育」

～情報活用能力の高まり～

２、研究経過

月日		活動の種類や名称	主な内容／分担／その他
４	１７	年間計画	組織決定・年間計画作成
５	２２	ホームページの更新・ホームページビルダーの使い方 遠足の事前学習におけるＩＣＴ機器の活用	実技研修（峯） 実践提案（仏向）
６	１９	校務システムの使い方 画像を学習に活用できる視聴覚機器の利用	実技研修（上星川） 実践提案（川島）
７	１７	ビデオ編集ソフトを利用する マット運動における視聴覚機器の利用	実技研修（笹山） 実践提案（坂本）
８	２２	子どもたちを取り巻くネット環境と育てたい インターネットモラル	夏季研修
９	１８	指導案検討	指導案検討①（帷子）
１０	１６	指導案検討	指導案検討②（帷子）
１１	２０	区一斉授業研究会 「だれもがかかわり合えるように」（国語） 「面積の求め方を考えよう」（算数）	一斉授業研（帷子） ４年　依田康孝先生 ５年　篠田昌二先生
１２	１８	情報機器を使った図工学習 電子黒板機器の紹介	実技研修（境木） 実践提案（権太坂）
１	２９	遅延カメラでマット運動をもっと楽しく！ 教材として使えるインターネットサイト	実技研修（今井） 実践提案（星川）
２	２６	年間のまとめ	幹事

３、研究のまとめ

今年度の活動は、前年度反省を受け、「授業実践」と「教師のスキルアップ」の２点について焦点化して年間を通して研究に取り組んできた。

「授業実践」については、一斉授業研を見据え、それぞれの提案者から、「機器を用いて児童の理解を促すもの」、「情報そのものの扱いについて考えるもの」「機器を扱うことが学習そのものとなるもの」などが提案された。

「教師のスキルアップ」については、委員会活動やクラブ活動、授業などでの実践的な取り組みの紹介に加え、ビデオ教材の作成方法やエクセルを使った校務処理の方法など、学習に間接的にかかわる部分についての研鑽を深めることもできた。

また、校務システムの情報交換の時間を毎回の区研の中に設け、区内各校の校務システムへの移行の進展状況を確認し合うとともに、先立って作業を進めた部分についてはどのような手法での取り組みが効率的であるかを区内で情報の共有化を図ることができた。

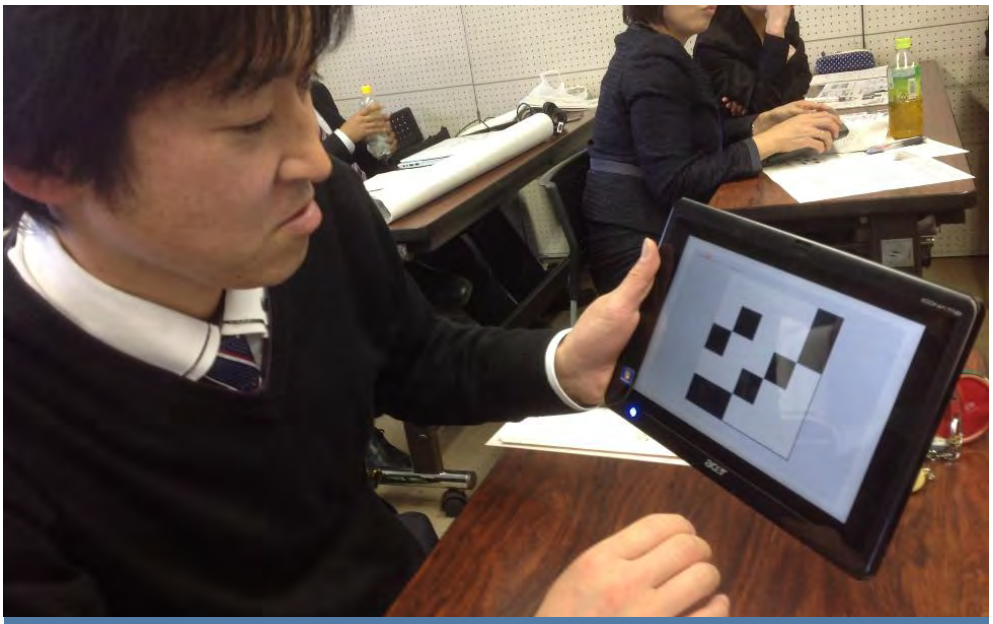
今後、さらに児童を取り巻く情報化社会の変化を見据え、学校教育として何が求められ、何ができるのかを考えながら、より発展的・継続的な研究活動に取り組んでいきたい。

横浜市立常盤台小学校　　東森　清仁

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 第1号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド



定期総会

新年度役員選出、研究計画、予算案等が承認されました。

講演会

東京理科大学教授・渡邉均先生、助教・東本崇仁先生、九州工業大学准教授・マラット・ザニケエフ先生を講師に行われました。

部会オリエンテーション

スキルアップ部会・授業デザイン部会両部会それぞれのオリエンテーションが行われました。各部会長の研究計画をもとに、一年間の分担が行われました。

タブレットPCを使ってネットワークについて学びました。

情報モラル学習の一方法
―タブレットPCを使って―

講演会では、渡邉教授から概要を説明していただき、東本助教とマラット准教授から実際にシステムを動かして、児童に体験させるタブレットPCを使ったプログラムを行っていただきました。限られた台数の中でしたが、マラット先生が、それぞれの作業の様子をプロジェクタに飛ばして中継してくださったので、体験していない人でも、様子がよく分かりました。また、「ネットワーク」とはどのようなものか、ということを子どもに体験として伝えられるこのプログラムは、情報化社会が急激に進展していく中で、ますます必要性が高くなってくるものなのではないかと感じました。メディアの進化も日進月歩。私たち教員もその波に遅れないよう研究を重ね、日々の授業実践をより充実させていきたいものです。

講演会後には、スキルアップ部会、授業デザイン部会に分かれ、今年度の研究計画についての話し合いが行われました。少しでも多くの方にご参加いただき、研究を深められることを願っています。

少しでもご興味のある方は、ぜひ一度研究会にお越し下さい。

次回予告　5月8日（水）

放送大学　中川一史教授　講演会

「コミュニケーション力を高める指導と評価」

横浜市立小学校教員、横浜市教育委員会を経て、放送大学において、教師の力量形成に関わる研究・特にICT活用指導力に関する研究等をされている先生です。

日々の皆様の授業実践にとても有意義な講演会です。奮ってご参加ください。（市研究会会員でなくても参加できます。）詳しくは、開催通知をご覧ください。

青葉区　奈良の丘小　武井三也
☎045（962）5391

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 2月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

第二次研究大会

一年間、市の情報・視聴覚研究会が行ってきた研究内容について、授業デザイン部会・スキルアップ部会の両部会から発表がありました。今年度の取り組みにおける成果と課題をふりかえり、来年度以降の研究の方向性も聞くことができました。あらためて、私たち情報・視聴覚研究会が行う研究の重要性について考えることができました。

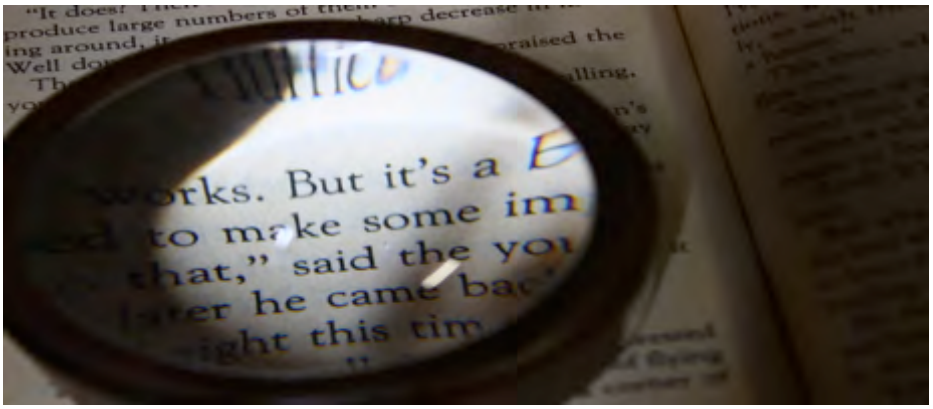
―授業デザイン部会―

「教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン～主張的レベルでのコミュニケーションをめざして～」を部会テーマに一年間の研究を進めてきました。公開授業研究会では、ICT 機器の活用により、①学習意欲の持続、②学ぶ必然性、③対話・交流＝協働的な学びが図ることができました。一方で、①デジタルとアナログの児童による選択、②主張的コミュニケーションに対する教師の意識、③意欲持続だけではない ICT 機器の活用方法、④高まり・深まりのある協働学習、⑤現在環境の限界＝タブレット PC への期待と活用、等の課題も明らかになり、来年度の研究の道筋が見えてきました。

―スキルアップ部会―

「教員の IC 活用能力のスキルアップをめざして」を部会テーマに一年間の研究を進めてきました。校務システムの運用の仕方、タブレット端末の活用方法などの提案以外にも、参加会員が一人一提案ずつ持ち寄って ICT 機器の新たな活用方法を模索したり、情報交換したりするなど、充実した研究を一年間行うことができました。授業デザイン部会との合同研究も行われ、一年間で研究を深めることができました。また、課題として、「子どものコミュニケーションツールとしての ICT 機器がどれだけ活用できるか」会員同士アイディアを出し合い、研究していく必要性も明らかになりました。

両部会ともに、来年度のより一層の研究の深まりが楽しみになる、一年間の報告でした。



―情報・視聴覚を語る会―

３月５日（水）１５：００～
＠フォーラム南太田
（京急南太田駅　徒歩３分）
（ブルーライン吉野町駅　徒歩７分）

【発表】

① 磯子区の研究について

② 神奈川区の研究について

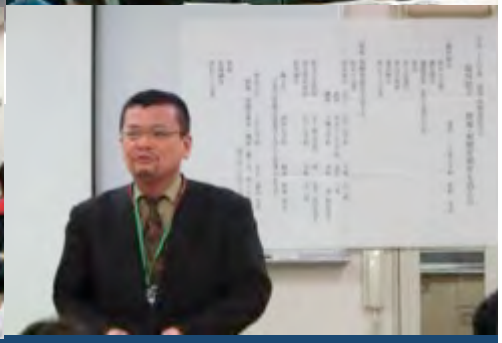
２区の部長による、一年間の区研究・研修の報告です。他区の研究内容や成果などを知る良い機会ですので、ぜひご参加ください。

青葉区　奈良の丘小　武井三也
☎045（962）5391

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 3月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド



第二次研究大会

一年間、市の情報・視聴覚研究会が行ってきた研究内容について、授業デザイン部会・スキルアップ部会の両部会から発表がありました。今年度の取り組みにおける成果と課題をふりかえり、来年度以降の研究の方向性も聞くことができました。あらためて、私たち情報・視聴覚研究会が行う研究の重要性について考えることができました。

―磯子区発表―

研究テーマ「児童の情報活用能力を高める指導のあり方」について、岡村小学校の梅津先生より発表がありました。磯子区では、各教科・領域、総合的な学習の時間の中において、児童が様々な情報にふれる場面で、どのような指導が必要なのか。また、情報機器を適切に、また効果的に活用するためにはどのように指導していけば良いのか。という視点で１年間研究を進めてきました。区の一斉授業研で取り上げた「情報モラル教育」については、社会的環境の変化の大きさ（機器の進歩等）にも対応しながら、計画的に進めていく必要性を感じました。市の研究会と区の研究会が互いにニーズを受け取りながら、融合がはかれれば、より研究が深まるのではないか。特に、昨今話題になり、他の市町村で導入が始まっているタブレットPCの実践研究において、市の研究会でも研究を進め、各区に情報提供していくと良いという話し合いが行われました。

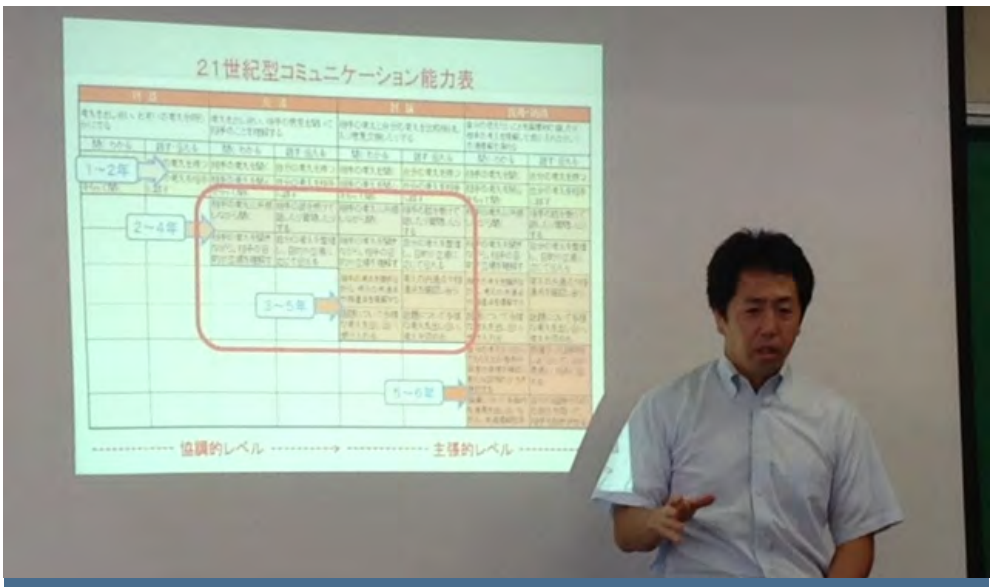
―神奈川区発表―

研究テーマ「情報・視聴覚教材・機器に親しみ、互いに伝え合い、高め合いながら学ぶ子の育成」について、子安小学校の若木先生より発表がありました。神奈川区では、子どもたちの気づきや学びを高めるための手立て、情報化社会を生きるためのモラルやマナーの指導、の２つに焦点をあてて１年間研究を進めてきました。１年間の研究、一斉授業研を通して、「どの機器を、どの場面で使うとより効果的かを考えていきたい。」「子ども同士の双方向のコミュニケーションになるように考えていきたい。」見ればだれもがわかる授業のユニバーサルデザイン化。情報・視聴覚教育の進化に伴って、新しい機器にもどんどん使って慣れていく必要性。情報機器の発達に遅れをとらないように、情報モラル教育のより一層の充実を図っていく必要性。などたくさんの成果と課題を得る事ができました。

今後も、市の研究会と区の研究会の連携を強化しながら、横浜市の教職員の方々のニーズをしっかりと受け止めて、研究を進めてまいります。各月の研究会では、明日からでも使えるアイディアや子どもたちの学びを高める手立てなど、私たちもたくさんの事を学ぶ事ができています。校務が忙しい中ですが、来年度以降もぜひ１回でも多く、研究会に足を運んでいただき、共に学び、子どもたちの成長を支えていきましょう。１年間、メディアワールドをお読みいただきありがとうございました。

青葉区 奈良の丘小 武井三也
☎045(962)5391

メディアワールド



授業デザイン部会

21世紀型コミュニケーション力に従って、昨年行った理科の授業実践の子どものコミュニケーション力の見取り方や分析についての提案が行われました。

スキルアップ部会

校務システムの進め方と活用方法（いぶき野小学校での管理体制と実際の運用事例）についての提案が行われました。

―授業デザイン部会―

グループ学習において子どものコミュニケーション力を見取るために、平野先生が実際に行った授業実践の見取りについて提案してくださいました。見取っていくためには、その単元における見取り表を作り、プロトコル分析を行うことで、子どもが行っているコミュニケーションの実際が垣間見えてくるということでした。その後の部会の議論では、アニメーション化する場面は、「予想」「考察」どちらの場面がいいのか。コミュニケーション力を高めるためのグループ編成の仕方はどうしたらいいのか。２点について活発な議論が行われました。

―スキルアップ部会―

いぶき野小学校の伊藤先生による提案が行われました。実際に出席管理をどのように行っているか。児童名簿や基礎情報をどのように活用しているか、また、もっと便利に使える実践例（自動ログインの方法なども紹介されました。その後の討議では、各校の実情や悩みなど（が話し合われ、とても有意義な研究会でした。

次回予告　7月3日（水）15:30～

授業デザイン部会　＠西公会堂

「わたしたちのまち　妙蓮寺」

スキルアップ部会　＠いぶき野小学校

「ICT 機器や教材の新たな活用方法」

日々の仕事に大いに役立ちます。奮ってご参加ください。（研究会会員でなくても参加できます。）詳しくは、開催通知をご覧ください。

青葉区　奈良の丘小　武井三也
☎045（962）5391

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 7月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

授業デザイン部会

港北小学校近藤先生による、3年生社会科「わたしたちのまち妙蓮寺」の実践提案を行いました。

スキルアップ部会

みなさんが持ち寄った資料をもとに、校内での ICT 機器の活用方法について情報交換が行われました。

―授業デザイン部会―

３年生が初めて学ぶ社会科との出会いを大切に考えられた単元の全容を丁寧に紹介してくださいました。共同学習をしていく中で、子どもたちがコミュニケーションをとりながら、まちたんけんで学んだことをホワイトボードに書き込みながら学ぶ姿が見られました。学習を進めていくうちに、子どもたちが夢中に話し合う姿が見られました。一方で、コミュニケーション力について、どのように細やかに見取っていくのかが、今後の改善点として課題になりました。グループ討議では、コミュニケーション力をどのように見取っていくのかなどについてたくさんの見が出されました。また、社会科と総合的な学習の時間の目標をどのように達成していくかなどについても活発な議論が行われました。

―スキルアップ部会―

参加者がそれぞれ普段行っている、ちょっとした工夫をみんなで共有しました。PDF ファイルから JPEG データにする方法、教室内での PC の有効的な使い方、電子黒板の活用方法、タブレット PC の導入、ペンタブレット（かけるもん）の活用方法、音楽の編集方法、校務システムの「更新忘れでがっかりしない方法」など日々の実践にすぐに役立つちょっとした工夫について情報交換が行われました。どの情報も、知っていれば便利だけど、なかなか知らないとても勉強になるものばかりでした。授業の充実・校務の円滑化に向けて、今後も情報交換が活発に行われることと思います。

夏休みの横浜市情報・視聴覚研究部

7月25日（木）「ICT を活用した評価視点獲得研修」

講師 インテル　　会場 技能文化会館603研修室

7月26日（金）「手近な機材で教材（番組）づくり」

講師 研究会役員　　会場 神奈川近代文学館中会議室

7月29日（月）「21世紀の教室体験会」

講師 マイクロソフト　　会場 マイクロソフト社品川オフィス

各回ともに定員があります。ご興味のある方は、
青葉区谷本小学校田中校長先生までお問い合わせください。

青葉区 奈良の丘小 武井三也
☎045（962）5391

平成25年度 夏休み号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

横浜市情報・視聴覚研究部会 夏季研修会

7月25～29日の3課間で夏季研修会が行われました。株式会社キャリアリンクのご協力のもとIntel Teach Elementsプロジェクト型学習における評価視点の研修、研究会役員による動画編集の留意点とそのやり方の研修、日本マイクロソフト株式会社のご協力のもと、タブレットPCを使った21世紀の教室体験会（デジタルコンテンツを駆使した模擬授業）の研修を行いました。

Aコース

ICTを活用した評価視点獲得研修

「変化の激しい２１世紀の知識基盤社会で活躍するグローバルな人材には、問題解決力・批判的思考力・コラボレーション力・ICT活用力などの２１世紀型スキルの習得と応用が求められている」という考え方をもとに、プロジェクト型学習における授業設計（テーマ・実社会とのつながり）・評価の方略（目的・手法・ツール）・授業運営の方略（学習支援者としての教師の役割）を学びました。その上で、評価の方法としてルーブリック評価をどのように行っていくのかを参加者一人ひとりが考え、全員でシェアしました。そこで、ルーブリック評価の有効性と限界も見えてきました。最後には、インターネットを使ったIntel Teach Elementsの紹介がありました。

Bコース

手近な機材で教材（番組）づくり

本研究会役員の諏訪先生（瀬谷さくら小）・北條先生（深谷台小）を講師に、身近にあるコンパクトデジタルカメラを使った動画編集について学びました。午前中は、コンデジの特徴や動画撮影時の心得を確認した後、参加者一人ひとりがカメラを持って港の見える丘公園周辺で撮影を行いました。午後はWindows Movie Makerを使って、実際に２～３分の動画に編集しました。ムービーメーカーを使用するにあたってのファイル変換から、テロップやBGMの挿入までを教えていただきました。最後には、参加者が作った動画を全員で視聴しました。何を目的に動画を作成するのか、そのために必要な素材が撮影できているかなど、基本的なことをたくさん学ぶことができました。

Cコース

「21世紀の教室」体験会

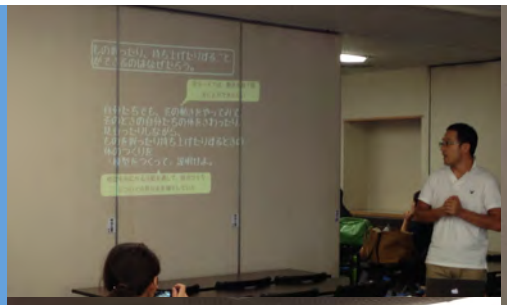
日本マイクロソフト株式会社品川オフィスにて行われました。参加者は児童役になり、タブレットPC（Windos8）を使って、実際にどのような形で授業を行うかを体験することができました。教室支援システムや電子黒板、デジタル教科書を使って、どのような授業を展開することができるのか、今までに困難だったことや手間がかかっていたことを簡単にできることを実感しました。一方で、そのために必要な環境整備を市全体でやらなければならない必要性も実感しました。また、配慮が必要な子どもの学習活動において、テクノロジーを活用することで可能になることの事例紹介もいくつかありました。２１世紀型スキルを育成していくためのICTの役割の大きさを改めて知る研修会でした。

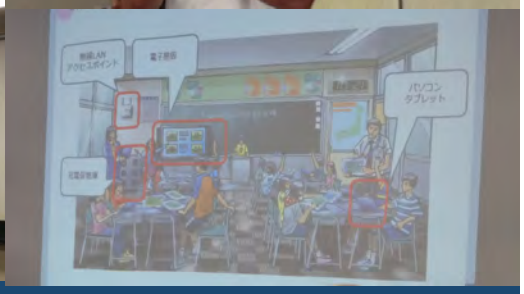
青葉区 奈良の丘小 武井三也
☎045(962)5391

横 浜 市 立 小 学 校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 9月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド





授業デザイン部会

東戸塚小学校藤原先生による、4年生理科「わたしたちの体と運動」の実践提案を行いました。

スキルアップ部会

NTT コミュニケーションズの方々に研究会にお越しいただき、最新の国・自治体の状況や、横浜市時期 YYNET の概要や検討状況についてお話しいただきました。

―授業デザイン部会―

４年生理科「わたしたちの体と運動」でどのように２１世紀型コミュニケーション力を高めるための授業をデザインするか。教科としての目標とコミュニケーション力を共に達成してくための方法を部会みんなで考えました。授業のどの段階でグループ学習を取り入れ、どのような発問をすることが効果的なのか、共同学習を成立させられるのかなど、活発な議論が行われました。現段階で、「根拠をもって考える」「考えを説明する」といった個の段階での能力は高まってきてはいるが、「相手の考えをもとにしたグループ討論」や相手を納得させたり、納得し合ったりするレベルにはなかなか達することができない、という課題が挙げられました。今後、コミュニケーション力を伸ばすための、授業場面の工夫や、子どもへ投げかける発問のより一層の重要性を参加者みんなが改めて感じる研究会になりました。

―スキルアップ部会―

まず、大きく話題にあがったのが、「タブレット PC」。他都市では、順次導入されているという情報のある中、横浜市にはいつ頃導入されるのか。また、導入されることによって、学習環境がどのように変わり、どのような共同学習が行われていくのだろうか。現実問題として、横浜市は自治体の規模が大きく、全校への整備には時間がかかりそうです。さらに、タブレット PC が導入されても、多くの先生が実際に活用できるのかも懸念事項の一つとして挙げられました。そのために、市の情報・視聴覚研究部会として、選考実践を積み重ね、全体に発信していく必要がありそうです。次期 YYNET については、CMS サービスによる学校 HP 更新の効率化や、検索機能の充実、動画配信サービスの開始が検

公開授業研究会のご案内

平成25年12月4日(水) 13:35～14:20

横浜市立東汲沢小学校 第4学年2組 吉田圭一先生

社会科「入海を新田にした吉田勘兵衛」

(JR 戸塚駅よりバス、市営地下鉄踊場駅より徒歩)

詳しくは、研究会案内をご覧ください。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

青葉区 奈良の丘小 武井三也
☎045(962)5391

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 10月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

公開授業研究会　指導案検討

12月に行われる情報・視聴覚研究部会公開授業研究会に向けて、授業デザイン部会・スキルアップ部会合同の指導案検討が行われました。多くの資料が残っていない「吉田新田」。どのような資料をもとに子どもに討論させていくか、などについてワークショップ形式による議論を行いました。

―指導案検討―

３年生社会科「入海を新田にした吉田勘兵衛」についての指導案検討。まず、授業者の吉田先生からワークショップで検討してもらいたい点を挙げていただきました。「吉田新田の学習を行う前に教科書に出てくる捨ケ堰を第一次で取り扱うことについて」「討論をさせていくための資料の提示方法やその内容」などについてワークショップ形式でグループごとに議論を深めました。各グループからは、江戸時代の常識と今の常識の違いによる討論の困難さ、討論を二項対立にするための資料の内容吟味の必要性、資料の希少性から討論場面の変更など、具体的な改善案が発表されました。

YYNET にある吉田新田についての動画（吉田家の方へのインタビューなど）を作成した先生方から「吉田新田に関しては、資料がほとんど残っていないために、YYNET のような動画を作成したこと自体、吉田家の皆さんに感謝された」という貴重なお話も伺いました。それだけ、資料が残っていない「吉田新田」。市の研究会をあげて、各学校にある資料を集め、今回の授業研究会を全面的にバックアップしていきたいものです。次回の研究会は、第２回の指導案検討を行います。吉田新田に関しての資料をお持ちの先生はぜひご協力ください。

―スズキ教育ソフトより―

研究会の最後に、スズキ教育ソフト様より、学校用ソフトのご案内がありました。新聞づくり、番組作り、動画編集等、小学生でも直感的に使うことのできる学習支援ソフト「伝えるチカラ PRESS」について説明していただきました。既にモニターとして導入している学校の感想なども聞くことができました。今後、子どもたち自身の ICT 能力を高めていくのにとても良いご提案でした。

公開授業研究会のご案内

平成25年12月4日（水） 13:35～14:20
横浜市立東汲沢小学校　第4学年2組　吉田圭一先生
社会科「入海を新田にした吉田勘兵衛」
（JR 戸塚駅よりバス、市営地下鉄踊場駅より徒歩）

詳しくは、研究会案内をご覧ください。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

青葉区　奈良の丘小　武井三也
☎045（962）5391

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 11月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

公開授業研究会 第2回目 指導案検討

12月に行われる情報・視聴覚研究部会公開授業研究会に向けて、授業デザイン部会・スキルアップ部会合同の2回目の指導案検討が行われました。吉田勘兵衛の功績や素晴らしさを伝えるための授業の方策をグループごとにワークショップ形式で議論を行いました。

―指導案検討―

３年生社会科「入海を新田にした吉田勘兵衛」についての２回目の指導案検討。前回の検討会を経て、吉田先生が子どもたちの学ぶ姿をイメージしながら、熟慮されたことがすぐに伝わってくる指導案でした。子どもたちにどのように発問したら学びが深まるのか。どのような単元構成を展開することが、より良い学びにつながるのか。そのために ICT をどの場面でどの程度活用していくのか。多様な視点での議論が行われました。

大きく話題に挙がったのが、相手意識。吉田勘兵衛の功績や業績を「誰に」伝えるのか。その視点を明確にすることで、子どもたちの意欲を高め、また、相手にあった内容を検討してなかで、子どもたちのコミュニケーション力を高めることができるのではないだろうか、という意見が出されました。さらに、場の設定（教室／PC ルーム）、グループ分け、本時までの展開、討論場面など、様々な視点で授業をより良くしていくための意見が、参加者のみなさんから聞くことができました。

次回は、いよいよ公開授業研究会。一人でも多くの方の参加をお待ちしております。ぜひ、ご一緒に、子どもたちの ICT 活用力、コミュニケーション力アップのための授業デザインを考えていきましょう。

公開授業研究会のご案内

平成25年12月4日（水） 13:35～14:20

横浜市立東汲沢小学校 第4学年2組 吉田圭一先生

社会科「入海を新田にした吉田勘兵衛」

（JR 戸塚駅よりバス、市営地下鉄踊場駅より徒歩）

詳しくは、研究会案内をご覧ください。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

青葉区 奈良の丘小 武井三也
☎045（962）5391

平成25年度 12月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

公開授業研究会

年に一度の授業研究会を行いました。今年は、東汲沢小学校の吉田圭一先生がご提案してくださいました。市の研修会をあげて、2度の指導案検討を行い、21世紀型コミュニケーション能力を高めるための授業デザインを会員みんなで模索してきました。クラスの雰囲気が温かく、寒さ深まる日々の中で、私たちの心を温かくしてくれる授業でした。

―指導案検討―

PCルームを使い、２～４人程度の小グループ（伝えたい内容ごとに構成）で授業が行われました。吉田勘兵衛のことを横浜歴史博物館のエデュケーターの先生に、納得してもらえるようにプレゼン資料をつくる場面でした。つくっていく中で、自分たちの考えとなる資料を取り入れたり、見つけたりしながら子どもたち同士の学び合いが見られました。吉田勘兵衛の人柄や功績についてそれぞれのグループが自分たちの考えに沿って、プレゼン資料を作成する姿から真剣さや楽しさがとてもよく伝わってきました。

―研究協議会―

授業後に行われた研究協議会では、吉田先生の自評を受けて、「主張的コミュニケーション（討論・説得／納得）を図るための手立て（思考の共有・可視化、切実感と相手意識、多様な資料とふれる必然性）は適切だったか？」「教師による児童のコミュニケーション力の見とり、支援は適切だったか？」について活発に話し合い（ワークショップ型）を行いました。その中でも、特に話題に挙がったのが、前者の「主張的コミュニケーションを図るための手立て」についてでした。説得／納得というコミュニケーションの力を、子ども同士の討論の中で身につけさせることを目指すのか、エデュケーターの先生へのプレゼンの際に意識させて身につけさせることを目指すのか、という部分において多くの意見が出ました。教師が意図的に、どの場面でコミュニケーション力の育成を図るのかをはっきりさせる必要性を出席者一同が感じた、活発な話し合いになりました。今回の吉田先生の貴重な授業提案を受けて、研究会としてもさらに研究を深め、子どものより良い学びと成長を実現していきたいと思います。

―６０年懇親会―

横浜市情報・視聴覚研究部設立６０年の懇親会が、１８：３０より行われました。お忙しい中、多くのOBの先生、校長先生、副校長先生はじめ、たくさんの方がご出席くださいました。さまざまなお話の中から、研究会の歴史や多くの先生方が築き上げられてきたこの研究会の素晴らしさを改めて知る機会となりました。今後とも、本研究会がますます発展していくよう、私たち現役世代がより一層努力・邁進していかなくてはならないと、身の引き締まる思いになりました。

青葉区 奈良の丘小 武井三也
☎045(962)5391

横浜市立小学校 情報・視聴覚主任様
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚部会員様

平成25年度 1月号
横浜市小学校教育研究会 情報・視聴覚研究部

メディアワールド

スキルアップ部会

授業デザイン部会と合同で、谷本小学校の須永先生による、「タブレットPC導入に向けた取り組み」についての提案をしていただきました。他都市では、導入が始まっているタブレットPC。この横浜にもいずれ導入されることが予想されます。そんなタブレットPCの実践を見ることができ、とても勉強になる研究会でした。

―タブレットPC実践例―

須永先生がこれまでにタブレットPCを使って実践してきたことについて、実際にiPadを使って紹介してくださいました。谷本小学校では、２台のタブレットを購入して、様々な場面で活用してきました。国語では、絵をアップで見せたり、討論会の様子を動画で紹介したりする。体育では、器械運動や運動会演技の動画を再生する際に、再生スピードを調整しながら子ども自信が自分たちの動きを振り返る。図工では、用具の使い方を撮影しておいて、子どもが見たい時に見られるようにしておく。音楽では、リコーダーの運指について奏者目線から撮影し、奏者の目線で見られるようにする。運動会では、演技・競技中の音楽を子ども自身が流す。たくさんの実践例について、実際に見ることができ、今すぐにでも教室に導入したくなるような、目から鱗の内容がたくさんの提案でした。タブレットPCが本格的に導入されたら…いろいろな活用場面が浮かんできました。しかし、導入には、課題も多く、無線LAN環境の課題を横浜市としてどのようにルール策定していくのか、児童が使うために、教職員が使いこなせるスキルを身につけなくてはならない、児童・教師ともに情報モラル意識を高めなくてはならない、などの課題は多いです。実際に教室にタブレットPCがあれば…、活用したい場面はどんどん思い浮かび、早い導入を期待したいです。

―二次大会のご案内―

２月１２日（水）１５：３０～
＠近代文学会館中会議室
（元町・中華街駅　徒歩１０分）
（石川町駅　徒歩２０分）

【研究発表】

① 授業デザイン部会
② スキルアップ部会

２部会の年間のまとめをそれぞれ発表します。１年間の研究内容を知る良い機会ですので、ぜひご参加ください。

青葉区　奈良の丘小　武井三也
☎045(962)5391

会員名簿　　（25年5月18日現在）

○校長

	区	校名	氏名
1	泉	伊勢山	芳原　勝美
2	泉	中和田南	矢羽田國幸
3	泉	西が丘	下畝　直人
4	磯子	杉田	岩崎　良之
5	磯子	屏風浦	渡邊　和也
6	戸塚	下郷	赤村　晋
7	戸塚	舞岡	平野　成昭
8	緑	竹山	筧　宏彰
9	緑	長津田第二	田中　芳夫
10	青葉	谷本	田中　公明
11	瀬谷	三ツ境	立田　順一
12	都筑	茅ケ崎	林弘之

○副校長

	区	校名	氏名
1	鶴見	新鶴見	髙松　一彦
2	保土ヶ谷	上星川	田屋　敏彦
3	保土ヶ谷	笹山	福田　恒一
4	旭	左近山	横山　美明
5	泉	西が岡	遠藤　守康
6	港南	相武山	松本　未紀
7	港南	日野南	青木　勇
8	磯子	磯子	海老原　眞
9	金沢	釜利谷南	佐久間　宣朝
10	港北	日吉台	大堂　隆
11	緑	いぶき野	宇佐美公敏
12	緑	緑	安村　宏晃
13	都筑	牛久保	工藤　浩之
14	都筑	荏田	二瓶　庄吾

○授業デザイン部会

	区	校名	氏名	学年	教科
1	鶴見	潮田	益田　洋一	2	算数
2	鶴見	獅子ヶ谷	武田　旬	5	体育
3	鶴見	新鶴見	三山　智	1	国語

4	鶴見	新鶴見	細野　友貴	1	国語
5	鶴見	末吉	福田　博章	4	理科
6	神奈川	三ツ沢	竹川　元太郎	2	生活
7	神奈川	幸ヶ谷	冨士村　拓郎	少人数	算数
8	神奈川	幸ヶ谷	金子　真也	1	理科
9	神奈川	幸ヶ谷	亀谷　貴之	2	生活
10	中	本牧南	北野　光彦	2	体育
11	中	立野	矢田　真悟	5	理科
12	南	永田	佐藤　雅樹		
13	保土ヶ谷	坂本	富内　渉	2	算数
14	保土ヶ谷	権太坂	鈴木　輝美	4	理科
15	保土ヶ谷	権太坂	伊藤　由美子	1	算数
16	保土ヶ谷	藤塚	千葉　教生	1	社会
17	旭	市沢	益山　正広	4	
18	旭	都岡	村田　親俊	3	
19	旭	左近山	安冨　直樹	教務主任	
20	旭	川井	長岡　英樹	1	
21	泉	中田	大江　恭寛	2	生活
22	泉	和泉	徳富　勇	6	理科
23	泉	和泉	須藤　こずえ	専科	
24	港南	吉原	小野里　勇貴	5	
25	港南	野庭すずかけ	糟谷　信之	2	生活
26	港南	日野南	中野　英一	4	
27	磯子	杉田	金子　実	3	社会
28	金沢	高舟台	大野　俊治	5	理科
29	金沢	金沢	長澤　貴之	5	算数
30	戸塚	東戸塚	藤原　直樹	4	理科
31	戸塚	深谷台	北條　完二	5	理科
32	戸塚	柏尾	髙野　健一	算数専科	算数
33	戸塚	東汲沢	吉田　圭一	4	体育・社会
34	栄	千秀	堀　彩香	3	
35	栄	桜井	神崎　健介	4	
36	栄	本郷	町田　俊一	理専	
37	栄	笠間	奥住　拓也	6	
38	栄	笠間	外山　壮一	5	
39	栄	上郷	岩田　哲生	2	
40	栄	庄戸	平野　大二郎	5	
41	港北	高田	鳥越　和貴	6	体育
42	港北	下田	朝倉　慶顕	5	理科
43	港北	港北	近藤　睦	3	理科
44	港北	太尾	大野　陽士	4	図工

45	緑	中山	中島　裕美	個別	国語
46	青葉	美しが丘東	増井　秀和	5	社会
47	青葉	奈良の丘	武井　三也	6	理科
48	青葉	嶮山	服部　学	5	体育
49	青葉	鴨志田緑	戸祭　雄斗	6	体育
50	青葉	恩田	守山　翠	2	図工
51	都筑	川和東	荻堂　美佳	4	図工
52	都筑	茅ケ崎	岡田　貴彦	5	理科
53	都筑	すみれが丘	大内　貴弘	1	図工
54	都筑	都田	松山　清彦	2	生活

〇スキルアップ部会

	区	校名	氏名	学年	教科
1	神奈川	羽沢	鳥井　裕子	3	算数
2	神奈川	中丸	竹正　喬功	2	生活
3	神奈川	子安	若木　徹也	5	体育
4	西	稲荷台	細水　大輝		
5	西	東	矢部　智大		
6	西	浅間台	瀬川　真也		
7	中	本牧南	曲尾　達希	3	算数
8	中	北方	堀　幸仁	5	理科
9	南	別所	野尻　亮	5	理科
10	南	南太田	近藤　大介	4	国語
11	南	六つ川台	樋口　剛弘	5	図工
12	保土ヶ谷	笹山	山下　昭文	児専	理科
13	保土ヶ谷	常盤台	東森　清仁	2	図工
14	保土ヶ谷	初音ヶ丘	小野　幹雄	6	理科
15	旭	希望ヶ丘	原山　雅治	4	
16	旭	左近山	井寺　慎也	2	
17	旭	川井	秀徳　能尚	6	
18	泉	岡津	原田　泰資	1	体育
19	瀬谷	阿久和	勝村　佑輔	児専	社会
20	瀬谷	上瀬谷	大木　洋平	5	国語
21	瀬谷	瀬谷	大野　真司	3	体育
22	瀬谷	瀬谷さくら	諏訪　浩	2	算数
23	瀬谷	大門	久松　広紀	5	社会
24	瀬谷	三ツ境	佐野　幸彦	5	理科
25	港南	日限山	齋藤　和広	4	理科
26	港南	芹が谷	梅香家　絢子	3	社会
27	港南	浜	山口　浩樹	4	理科
28	金沢	並木中央	吉田　和人	4	算数

29	金沢	並木第四	渡辺　史明	4	
30	金沢	釜利谷南	大竹　聡	6	体育
31	金沢	小田	紺野　薫	2	体育
32	金沢	大道	玉利　海太郎	5	理科
33	戸塚	品濃	海邊　宏明	6	理科
34	戸塚	東戸塚	矢内　遥平	6	社会
35	戸塚	汲沢	小清水　徹	5	理科
36	港北	新吉田	樋口　さつき	4	理科
37	港北	師岡	楠田　融	6	体育
38	港北	綱島	柴田　康光	6	理科
39	港北	高田	仲　美記夫	1	算数
40	港北	篠原	浅野　真弘	2	社会
41	港北	日吉台	竹嶋　司	2	国語
42	港北	日吉台	伊林　賢一	5	体育
43	港北	新羽	髙野　学	5	社会
44	港北	大豆戸	石井　俊士	4	体育
45	港北	新吉田第二	伊藤　貴雄	5	国語
46	緑	中山	西之宮　徹	児専	社会
47	緑	山下みどり台	杉崎　有平	専任	理科
48	緑	三保	西岡　大輔		体育
49	緑	いぶき野	伊藤　裕哉	5	理科
50	緑	いぶき野	後藤　覚洋	6	体育
51	緑	いぶき野	佐々木　翼	4	社会
52	緑	東本郷	松嶋　卓	4	算数
53	青葉	市が尾	小串　智恵美	4	社会
54	青葉	さつきが丘	粟津　淳	5	体育
55	青葉	谷本	須永　昌男	6	社会
56	都筑	折本	高橋　義範		
57	都筑	都田西	渡辺　聡	4	理科
58	都筑	都田西	小川　隆介	5	体育
59	都筑	都田西	石原　達也	3	社会

区部長名簿

	区名	校名	電話番号	氏名
1	鶴見	新鶴見	583-8915	三山　智
2	神奈川	子安	421-0993	若木　徹也
3	西	稲荷台	231-1822	細水　大輝
4	中	北方	621-2966	堀　幸仁
5	南	六つ川台	715-3077	樋口　剛弘
6	保土ヶ谷	常盤台	331-4809	東森　清仁
7	旭	市沢	373-4511	益山　正広
8	泉	中田	802-1902	大江　恭寛
9	瀬谷	瀬谷	301-1025	大野　真司
10	港南	日限山	841-6561	齋藤　和広
11	磯子	岡村	752-3443	梅津　哲弥
12	金沢	高舟台	783-8012	大野　俊治
13	戸塚	汲沢	864-8698	小清水　徹
14	栄	本郷台	891-6813	町田　俊一
15	港北	太尾	541-7651	大野　陽士
16	緑	東本郷	472-5766	松嶋　卓
17	青葉	恩田	961-7651	守山　翠
18	都筑	川和東	942-8130	宮本　尚樹

あとがき

ＩＣＴを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ

上記テーマを設定し、様々な実践を通して研究に取り組んできましたが、ここに今年度の研究の成果をまとめることができました。

子どもたち一人ひとりの情報活用能力を高めることを目指して、本研究会会員の諸先生方が、それぞれの視点・観点から多様な方法でアプローチした結果、十分な成果をあげることができたのではないかと思います。

紙面の都合上、一年間の研究の成果のすべてを掲げることはできなかったと思いますが、この冊子を今後の教育実践に活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご指導くださいました諸先生方、研究推進に当たってくださいました幹事の先生方、授業を提供してくださった先生方、本研究紀要に執筆してくださった先生方に深く感謝申し上げます。

平成２６年３月吉日

横浜市立常盤台小学校
東森　清仁

【紀要広報委員会】
委員長　　東森　清仁　（保土ヶ谷区・常盤台小）
副委員長　武井　三也　（青葉区・奈良の丘小）